

D-Link DAP-2690 (HW:B1)
802.11n Dual Band PoE Access Point

ユーザマニュアル






安全にお使いいただくために



ご自身の安全を確保し、システムを破損から守るために、以下に記述する安全のための指針をよくお読みください。

安全上のご注意










必ずお守りください

本製品を安全にお使いいただくために、以下の項目をよくお読みになり必ずお守りください。









	危険	この表示を無視し、間違った使い方をすると、死亡または重傷を負うおそれがあります。
	警告	この表示を無視し、間違った使い方をすると、火災や感電などにより人身事故になるおそれがあります。
	注意	この表示を無視し、間違った使い方をすると、傷害または物損損害が発生するおそれがあります。

記号の意味  してはいけない「**禁止**」内容です。  必ず実行していただく「**指示**」の内容です。










危険

-  **禁止** 分解・改造をしない
火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
-  **禁止** ぬれた手でさわらない
感電の原因となります。
-  **禁止** 水をかけたり、ぬらしたりしない
内部に水が入ると、火災、感電、故障の原因となります。
-  **禁止** 水などの液体（飲料水、汗、海水、ペットの尿など）でぬれた状態で触ったり、電源を入れたりしない
火災、やけど、けが、感電、故障の原因となります。
-  **禁止** 各種端子やスロットに水などの液体（飲料水、汗、海水、ペットの尿など）をいれない。万が一、入ってしまった場合は、直ちに電源プラグをコンセントから抜く
火災、やけど、けが、感電、故障の原因となります。
-  **禁止** 油煙、湯気、湿気、埃の多い場所、高温になる場所や熱のこもりやすい場所（火のそば、暖房器具のそば、こたつや布団の中、直射日光の当たる場所、炎天下の車内、風呂場など）、振動の激しい場所では、使用、保管、放置しない
火災、やけど、けが、感電、故障の原因となります。
-  **禁止** 内部に金属物や燃えやすいものを入れない
火災、感電、故障の原因となります。
-  **禁止** 砂や土、泥をかけたり、直に置いたりしない。また、砂などが付着した手で触れない
火災、やけど、けが、感電、故障の原因となります。
-  **禁止** 電子レンジ、IH 調理器などの加熱調理機、圧力釜など高压容器に入れたり、近くに置いたりしない
火災、やけど、けが、感電、故障の原因となります。



警告

-  **禁止** 落としたり、重いものを乗せたり、強いショックを与えたり、圧力をかけたりしない
故障の原因となります。
-  **禁止** 発煙、焦げ臭い匂いの発生などの異常状態のまま使用しない
感電、火災の原因となります。使用を止めて、ケーブル/コード類を抜いて、煙が出なくなったら販売店に修理をご依頼ください。
-  **禁止** 表示以外の電圧で使用しない
火災、感電、または故障の原因となります。
-  **禁止** たこ足配線禁止
たこ足配線などで定格を超えると火災、感電、または故障の原因となります。
-  **指示** 設置、移動のときは電源プラグを抜く
火災、感電、または故障の原因となります。
-  **禁止** 雷鳴が聞こえたら、ケーブル/コード類にはさわらない
感電の原因となります。
-  **禁止** ケーブル/コード類や端子を破損させない
無理なねじり、引っ張り、加工、重いもの下敷きなどは、ケーブル/コードや端子の破損の原因となり、火災、感電、または故障の原因となります。
-  **指示** 本製品付属の AC アダプタもしくは電源ケーブルを指定のコンセントに正しく接続して使用する
火災、感電、または故障の原因となります。
-  **禁止** 各光源をのぞかない
光ファイバケーブルの断面、コネクタおよび本製品のコネクタや LED をのぞきますと強力な光源により目を損傷するおそれがあります。
-  **禁止** 各種端子やスロットに導電性異物（金属片、鉛筆の芯など）を接触させたり、ほごりが内部に入ったりしないようにする
火災、やけど、けが、感電または故障の原因となります。
-  **禁止** 使用中に布団で覆ったり、包んだりしない
火災、やけどまたは故障の原因となります。
-  **指示** ガソリンスタンドなど引火性ガスが発生する可能性のある場所や粉じんが発生する場所に立ち入る場合は、必ず事前に本製品の電源を切る
引火性ガスなどが発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。
-  **禁止** カメラのレンズに直射日光などを長時間あてない
素子の退色、焼付きや、レンズの集光作用により、火災、やけど、けがまたは故障の原因となります。
-  **指示** 無線製品は病院内で使用する場合は、各医療機関の指示に従って使用する
電子機器や医療電気機器に悪影響を及ぼすおそれがあります。
-  **禁止** 本製品の周辺に放熱を妨げるようなもの（フィルムやシールでの装飾を含む）を置かない
火災、または故障の原因となります。
-  **指示** 耳を本体から離してご使用ください
大きな音を長時間連続して聞くと、難聴などの耳の障害の原因となります。
-  **指示** 無線製品をご使用の場合、医用電気機器などを装着している場合は、医用電気機器メーカーもしくは、販売業者に、電波による影響について確認の上使用する
医療電気機器に悪影響を及ぼすおそれがあります。
-  **指示** 高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは使用しない
電子機器が誤作動するなど、悪影響を及ぼすおそれがあります。
-  **指示** ディスプレイ部やカメラのレンズを破損した際は、割れたガラスや露出した端末内部に注意する
破損部や露出部に触れると、やけど、けが、感電の原因となります。
-  **指示** ペットなどが本機に噛みつかないように注意する
火災、やけど、けがなどの原因となります。
-  **禁止** コンセントに AC アダプタや電源ケーブルを抜き差しするときは、金属類を接触させない
火災、やけど、感電または故障の原因となります。
-  **禁止** AC アダプタや電源ケーブルに海外旅行用の変圧器等を使用しない
発火、発熱、感電または故障の原因となります。

警告

-  ACアダプタもしくは電源プラグについたほこりは、拭き取るほこりが付着した状態で使用すると、火災、やけど、感電または故障の原因となります。
-  ACアダプタや電源ケーブルをコンセントにさしこむときは、確実に差し込む。確実に差し込まないと、火災、やけど、感電もしくは故障の原因となります。
-  接続端子が曲がるなど変形した場合は、直ちに使用を中止する。また、変形をもとに戻しての使用も行わない。端子のショートにより、火災、やけど、けが、感電または故障の原因となります。
-  各種接続端子を機器本体に接続する場合、斜めに差したり、差した状態で引っ張ったりしない。火災、やけど、感電または故障の原因となります。
-  使用しない場合は、ACアダプタもしくは電源ケーブルをコンセントから抜く。電源プラグを差したまま放置すると、火災、やけど、感電または故障の原因となります。
-  お手入れの際は、ACアダプタもしくは電源ケーブルをコンセントから抜く。抜かずに行くと、火災、やけど、感電または故障の原因となります。
-  SD や MicroSD カード、USB メモリの使用中は、カードやメモリを取り外したり、本製品の電源を切ったりしない。データの消失、機器本体の故障の原因となります。
-  磁気カードや磁気を帯びたものを本製品に近づけない。磁気カードのデータが消えてしまうおそれもしくは機器本体の誤作動の原因となります。
-  ディーリンクジャパンが販売している無線機器は国内専用のため、海外で使用しない。海外では国によって電波使用制限があるため、本製品を使用した場合、罰せられる場合があります。海外から持ち込んだディーリンク製品や並行輸入品を日本国内で使用する場合も同様に、罰せられる場合があります。

注意

-  乳幼児の手の届く場所では使わない。やけど、ケガまたは感電の原因となります。
-  **静電気注意**
コネクタや電源プラグの金属端子に触れたり、帯電したものを近づけると故障の原因となります。
-  コードを持って抜かない。コードを無理に曲げたり、引っ張ると、コードや機器本体の破損の原因となります。
-  振動が発生する場所では使用しない。故障の原因となります。
-  付属品の使用は取扱説明書に従う。本製品の付属品は、取扱説明書に従い、他の製品に使用しないでください。機器の破損の原因となります。
-  破損したまま使用しない。火災、やけどまたはけがの原因となります。
-  ぐらついた台の上や傾いた場所などの不安定な場所や高所には置かない。落下して、けがなどの原因となります。
-  子供が使用する場合は、保護者が取扱いの方法を教え、誤った使い方をさせない。けがや故障などの原因となります。
-  本製品を長時間連続使用する場合は、温度が高くなることがあるため、注意する。また、使用中に眠ってしまうなどして、意図せず長時間触れることがないようにする。温度の高い部分に直接長時間触れるとお客様の体質や体調によっては肌の赤みやかゆみ、かぶれ、低温やけどの原因となります。
-  コンセントにつないだ状態で、ACアダプタや電源コンセントに長時間触れない。やけど、感電の原因となります。
-  一般の電話機やコードレス電話、テレビ、ラジオなどをお使いになっている近くで使用しない。近くで使用すると、本製品が悪影響を及ぼす原因となる場合があるため、なるべく離れた場所で使用してください。
-  D-Link が指定したオプション品がある場合は、指定オプション品を使用する。不正なオプション品を使用した場合、故障、破損の原因となります。

電波障害自主規制について

本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。

この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

ご使用上の注意

けがや感電、火災および装置の破損のリスクを減らすために、以下の注意事項を遵守してください。

- マニュアルなどに記載されている以外の方法でのご使用はやめてください。
- 食べ物や飲み物が本製品にかからないようにしてください。また、水気のある場所での運用は避けてください。
- 本製品の開口部に物をさしこまないでください。火事や感電を引き起こすことがあります。
- 付属の AC アダプタもしくは電源ケーブルのみを使用してください。
- 感電を防止するために、本製品と周辺機器の電源ケーブルは、正しく接地された電気コンセントに接続してください。
- やむなく延長コードや電源分岐回路を使用する場合においても、延長コードと電源分岐回路の定格を守ってください。延長コードまたは電源分岐回路に差し込まれているすべての製品の合計定格アンペア数が、その延長コードまたは、電源分岐回路の定格アンペア限界の 8 割を超えないことを確認してください。
- 一時的に急激に起こる電力の変動から本製品を保護するためには、サージサプレッサ、回線調整装置、または無停電電源装置（UPS）を使用してください。
- ケーブルと電源コードは慎重に取り付けてください。踏みつけられたり躓いたりしない位置に、ケーブルと電源コードを配線し、コンセントに差し込んでください。また、ケーブル上に物を置いたりしないようにしてください。
- 電源ケーブルや電源プラグを改造しないでください。
- システムに対応しているホットプラグ可能な電源装置に電源を接続したり、切り離したりする際には、以下の注意を守ってください。
 - 電源装置を取り付ける場合は、電源装置を取り付けてから、電源ケーブルを電源装置に接続してください。
 - 電源装置を取り外す場合は、事前に電源ケーブルを抜いておいてください。
 - システムに複数の電源がある場合、システムから電源を切り離すには、すべての電源ケーブルを電源装置から抜いておいてください。
- 抜け防止機構のあるコンセントをご使用の場合、そのコンセントの取り扱い説明書に従ってください。
- 本製品は動作中に高温になる場合があります。本製品の移動や取り外しの際には、ご注意ください。
- 本製品は動作中に高温になる場合がありますが、手で触れることができる温度であれば故障ではありません。ただし長時間触れたまま使用しないでください。低温やけどの原因になります。
- 市販のオプション品や他社製品を使用する場合、当社では動作保証は致しませんので、予めご了承ください。
- 製品に貼られている製品ラベルや認証ラベルをはがさないでください。はがしてしまうとサポートを受けられなくなります。

静電気障害を防止するために

静電気は、本製品内部の精密なコンポーネントを損傷する恐れがあります。静電気による損傷を防ぐため、本製品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。

さらに、静電気放出（ESD）による損傷を防ぐため、以下の手順を実行することをお勧めします。

1. 機器を箱から取り出すときは、機器をシステム等に取り付ける準備が完了するまで、本製品を静電気防止包装から取り出さないでください。静電気防止包装から取り出す直前に、必ず身体の静電気を逃がしてください。
2. 静電気に敏感な部品を運ぶ場合、最初に必ず静電気対策を行ってください。
3. 静電気に敏感な機器の取り扱いには、静電気のない場所で行います。可能であれば、静電気防止床パッド、作業台パッド、および帯電防止接地ストラップを使用してください。

電源の異常

万一停電などの電源異常が発生した場合は、必ず本スイッチの電源プラグを抜いてください。電源が再度供給できる状態になってから電源プラグを再度接続します。

無線 LAN について

業界標準に基づく弊社の無線 LAN 製品は、ご家庭や職場または公共の施設において、使いやすく互換性の高い高速の無線接続を提供します。これらを使用して時間や場所に関わらず必要なデータにアクセスすることができます。

WLAN は家庭やオフィス環境のみならず、空港やコーヒーショップ、または大学など公共の施設においても幅広く利用されるようになってきました。この WLAN 技術を用いることにより、仕事やコミュニケーションがさらに効率的に行えるようになってきています。無線技術により可動性が増し、配線や固定のインフラが減少したことでユーザに大きなメリットが生まれました。

ノート型やデスクトップ型 PC に使用する無線アダプタはイーサネットのアダプタカードと同じプロトコルをサポートしており、無線ユーザは有線ネットワークと同じアプリケーションを利用できるようになりました。

WLAN 技術を利用するさまざまな理由

可動性

WLAN の動作範囲内のどこからでもデータにアクセス可能であり、生産性を向上します。また、リアルタイムな情報に基づく管理により作業効率が向上します。

低い実現コスト

WLAN は設置、管理、変更、移転のすべてが簡単です。このような WLAN の扱いやすさはネットワークの変更が頻繁に要求される環境に適しています。WLAN は有線ネットワークでは困難であった場所へのネットワーク導入を可能にします。

簡単な設置と拡張

煩わしい複雑なケーブル配線作業、特に壁や天井へのケーブル敷設の必要がないため、手早く簡単にシステムの設置を行うことができます。無線技術は、ネットワークを家庭やオフィスを超えて拡張することで、さらなる多用途性を提供します。

低コストのソリューション

無線 LAN デバイスは、従来のイーサネット用機器とほぼ同等の価格設定となっています。本製品は設定可能な複数のモードで多機能性を提供し、コスト削減を行います。

柔軟性

配置する無線 LAN デバイスの数によって、ピアツーピアのネットワークが適している小さなユーザグループから大規模なインフラネットワークまで、自由自在に構築することができます。

世界基準対応の技術

無線機器は、IEEE 802.11a、IEEE 802.11b、IEEE 802.11g、IEEE 802.11n に準拠しています。

● IEEE 802.11n 規格

IEEE 802.11n 規格は、従来の IEEE 802.11a、IEEE 802.11b および IEEE 802.11g の機能を拡張した規格です。無線通信速度は、最大 300Mbps までと高速化され、2.4GHz 帯および 5GHz 帯の周波数を利用し、こちらも「OFDM」技術をサポートしています。

これらにより、多くの環境化において、無線サービスエリア内でネットワークによる大容量の送受信や遅延の少ない MPEG 形式の映像の視聴などが可能になります。OFDM(Orthogonal Frequency Division Multiplexing) という技術により、この大容量のデジタルデータの高速度伝送を無線で行うことができます。OFDM では、無線信号を小さいサブ信号に分割し、それらを同時に異なる周波数で送信します。OFDM により、信号伝送時のクロストーク（干渉）の発生を抑えることが可能です。

IEEE 802.11n 規格は、「WPA」を含む現在最も先進的なネットワークセキュリティ機能を提供します。

WPA/WPA2 には企業向けの「Enterprise」とホームユーザ向けの「Personal」の 2 種類があります。「WPA-Personal」と「WPA2-Personal」はユーザ認証に必要なサーバ機器を持たないホームユーザを対象としています。その認証方法は、無線ルータやアクセスポイントに「Pre-Shared Key（事前共有鍵）」の定義を行うという点で WEP と似ています。クライアントとアクセスポイントの両方において、事前共有鍵が確認され条件が満たされた時にアクセスが認められます。

「WPA-Enterprise」と「WPA2-Enterprise」は既にセキュリティ用にインフラが整備されている企業を対象としています。ネットワーク内のサーバを中心にネットワーク管理とセキュリティの実施を行うような環境を想定しています。

ネットワーク管理者は、RADIUS サーバ上で 802.1X を使用し、無線 LAN へのアクセスを許可するユーザのリストを定義します。「WPA-Enterprise」または「WPA2-Enterprise」を実装した無線 LAN にアクセスする場合、ユーザはユーザ名とパスワードの入力を要求されます。ユーザがネットワーク管理者によってアクセスを許可されており、正しいユーザ名とパスワードを入力すると、ネットワークへのアクセスが可能になります。例えば、ある社員が会社を辞めるというような場合、ネットワーク管理者がアクセス許可者のリストからその社員のデータを削除すれば、ネットワークを危険にさらすことは避けることができます。

EAP（Extensible Authentication Protocol）は Windows OS に実装されています。802.1X の機能を使用する際には、ネットワークにおけるすべてのデバイスの EAP タイプを同一にする必要があります。

重要

最大の無線信号速度は理論値であり、実際のデータスループットは異なります。ネットワーク条件と環境には、ネットワークトラフィック量、建築材料や工事、ネットワークオーバーヘッドが含まれ、実際のデータスループット速度は低くなります。環境条件は無線信号範囲に悪影響を与えます。

無線に関するご注意

電波に関するご注意

本製品は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線製品として、技術基準適合証明を受けています。従って、本製品の使用する上で、無線局の免許は必要ありません。

本製品は、日本国内でのみ使用できます。

以下の注意をよくお読みになりで使用ください。

- 本製品を以下の場所では使用しないでください。
 - ・ 心臓ペースメーカー等の産業・科学・医療用機器の近くで使用すると電磁妨害を及ぼし、生命の危険があります。
 - ・ 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を必要とする無線局）および特定小電力無線局（免許を必要としない無線局）
 - ・ 電子レンジの近くで使用すると、電子レンジによって無線通信に電磁妨害が発生します。
 - ・ 電気製品、AV 機器、OA 機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところで使用すると下記のような影響があります。
 - 時期や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通信ができなくなったりすることがあります。
 - テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れたりすることがあります。
 - 近くに複数の無線 LAN アクセスポイントが存在し、同じチャンネルを使用していると、正しく検索できない場合があります。
- 本製品は技術基準適合証明を受けています。本製品の分解、改造、および裏面の製品ラベルをはがさないでください。

2.4GHz 帯使用の無線機器の電波干渉に関するご注意

本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用している移動体識別用の構内無線局（免許を必要とする無線局）および特定小電力無線局（免許を必要としない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を必要とする無線局）が運用されています。

- 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止してください。
- その他、本製品から移動体通信用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、ご購入頂いた販売代理店へお問い合わせください。

使用周波数帯域	2.4GHz 帯
変調方式	DS-SS 方式 / OFDM 方式
想定干渉距離	40m 以下
周波数変更可否	全帯域を使用し、かつ移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局の帯域を回避可能

5GHz 帯使用に関するご注意

無線 LAN の 5.2/5.3GHz（W52/W53）をご利用になる場合、電波法の定めにより屋外ではご利用になれません。

無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁等）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、以下の通信内容を盗み見られる可能性があります。

- ID やパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報
- メールの内容

● 不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、以下の行為を行う可能性があります。

- 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

本来、無線 LAN カードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきありがとうございます。

安全にお使いいただくために

本書は、製品を正しくお使いいただくための取扱説明書です。

必要な場合には、いつでもご覧いただけますよう大切に保管してください。

また、必ず本書、設置マニュアル、および弊社 WEB に掲載された製品保証規程をよくお読みいただき、内容をご理解いただいた上で、記載事項に従ってご使用ください。

製品保証規定は以下を参照ください。

<https://www.dlink-jp.com/support/product-assurance-provision>

- 本書の記載内容に逸脱した使用の結果発生した、いかなる障害や損害において、弊社は一切の責任を負いません。あらかじめご了承ください。
- 弊社製品の日本国外でご使用の際のトラブルはサポート対象外になります。

なお、本製品の最新情報やファームウェアなどを弊社ホームページにてご提供させていただく場合がありますので、ご使用前にご確認ください。製品保証、保守サービス、テクニカルサポートご利用について、詳しくは弊社ホームページのサポート情報をご確認ください。

<https://www.dlink-jp.com/support>

目次

ご使用上の注意	4
静電気障害を防止するために	4
電源の異常	4
無線 LAN について	5
WLAN 技術を利用するさまざまな理由	5
無線に関するご注意	6
本書の構成	11
本マニュアルの対象者	12
表記規則について	12
製品名 / 品番一覧	12
第 1 章 本製品のご利用にあたって	13
製品概要	13
サポートする機能	13
本製品の接続モード	15
アクセスポイント (AP) モード	15
WDS モード	15
WDS with AP モード	16
ワイヤレスクライアントモード	16
ポートについて	17
前面パネル	17
DAP-2690	17
背面パネル	18
DAP-2690	18
第 2 章 アクセスポイントの設置	19
パッケージの内容	19
システム要件	19
ネットワーク接続前の準備	19
製品の設置	20
アンテナの取り付け	20
イーサネットケーブルの接続	20
電源の投入	20
PoE (Power over Ethernet) を使用した接続	21
ウォールマウントキットによる壁面への設置	21
アクセスポイント設置後のネットワーク接続の例	24
第 3 章 Web ベース設定ユーティリティについて	25
Web ベース設定ユーティリティへのログイン	25
設定内容の保存	26
第 4 章 Home (基本的な設定) メニュー	27
Basic Settings (基本設定)	27
Wireless (無線設定)	27
LAN (LAN 設定)	41
IPv6 (IPv6 設定)	42
Advanced Settings (詳細設定)	43
Performance (性能設定)	43
Wireless Resource Control (ワイヤレスリソースコントロール)	45
Multi-SSID (マルチ SSID 設定)	47
VLAN (VLAN 設定)	48
Intrusion (侵入検知設定)	54
Schedule (スケジュール設定)	55
Internal RADIUS Server (内蔵 RADIUS サーバ機能)	56
ARP Spoofing Prevention Settings (ARP スプーフィング防止設定)	57
Bandwidth Optimization (帯域幅最適化)	59
AP Array Scan (AP アレイスキャン)	61
Captive Portal (キャプティブポータル)	65
DHCP Server (DHCP サーバ設定)	77
Filters (フィルタ設定)	80
Traffic Control (トラフィック制御設定)	83

Status (ステータス表示)	86
Device Information (デバイス情報表示)	86
Client Information (クライアント情報表示)	87
WDS Information (WDS 情報表示)	87
Channel Analyze (チャンネル分析)	88
Stats (統計情報の表示)	89
Log (ログ)	90
第 5 章 Maintenance (メンテナンス) メニュー	93
Administration Settings (管理者用設定)	93
Limit Administrator (管理者の制限)	94
System Name Settings (システム名設定)	95
Login Settings (ログイン設定)	96
Console Settings (コンソール設定)	97
SNMP Settings (SNMP 設定)	98
Ping Control Setting (Ping コントロールの設定)	99
Central WiFiManager Setting (Central WiFiManager の設定)	100
Firmware and SSL Certification Upload (ファームウェアと SSL 証明書のアップロード)	101
第 6 章 Configuration メニュー	104
Save and Activate (設定の保存と適用)	104
Discard Changes (設定の破棄)	104
第 7 章 System (システム設定) メニューと Help	105
System Settings (システムの設定)	105
Help (ヘルプ)	106
第 8 章 付録	107
付録 A 工場出荷時設定に戻す	107
付録 B よくお問い合わせいただくご質問 (FAQ)	107
付録 C 基本的なネットワークの設定	109
IP アドレスのチェック	109
固定 IP アドレスの割り当て	110
付録 D AP アレイについて	111
付録 E コンソールポートについて	117
コンソールポートの設定手順	117
付録 F 機能設定例	120
対象機器について	120
VLAN	120

本書の構成

DAP-2690 ユーザマニュアルは、本製品のインストールおよび操作方法を例題と共に記述しています。

第1章 本製品のご利用にあたって

- 本製品の概要とその機能について説明します。また、前面、背面の各パネルと LED 表示について説明します。

第2章 アクセスポイントの設置

- 本製品の基本的な設置方法と接続方法について説明します。

第3章 Web ベース設定ユーティリティについて

- Web ベースの管理機能への接続方法および設定方法について説明します。

第4章 Home（基本的な設定）メニュー

- 本製品の基本的な設定方法について説明します。

第5章 Maintenance（メンテナンス）メニュー

- 本製品の管理者設定、SNMP 設定、ファームウェアのアップグレード方法などの管理機能について説明します。

第6章 Configuration メニュー

- 変更した設定を保存、適用、または廃棄します。

第7章 System（システム設定）メニューと Help

- 本製品の再起動、初期化方法について説明します。

第8章 付録

付録 A 工場出荷時設定に戻す

- 本製品のリセットボタンで工場出荷時設定に戻す方法について説明します。

付録 B よくお問い合わせいただくご質問 (FAQ)

- 本製品のインストールと操作で発生する問題への解決策を提供します。

付録 C 基本的なネットワークの設定

- 基本的な IP アドレスの設定および確認方法を説明します。

付録 D AP アレイについて

- AP アレイの操作、設定方法について説明します。

付録 E コンソールポートについて

- コンソールポートの設定方法について説明します。

付録 F 機能設定例

- 機能設定例について説明します。

本マニュアルの対象者

本マニュアルは、本製品の設置および管理についての情報を記載しています。
また、ネットワーク管理の概念や用語に十分な知識を持っているネットワーク管理者を対象としています。

表記規則について

本項では、本マニュアル中での表記方法について説明します。

注意 注意では、特長や技術についての詳細情報を記述します。

警告 警告では、設定の組み合わせ、イベントや手順によりネットワークの接続状態やセキュリティなどに悪影響を及ぼす恐れのある事項について説明します。

表 1 に、本マニュアル中での字体・記号についての表記規則を表します。

表 1 字体・記号の表記規則

字体・記号	解説	例
「」	メニュータイトル、ページ名、ボタン名。	「Submit」 ボタンをクリックして設定を確定してください。
青字	参照先。	" ご使用になる前に " (13 ページ) をご参照ください。
courier フォント	CLI 出力文字、ファイル名。	(switch-prompt) #
courier 太字	コマンド、ユーザによるコマンドライン入力。	show network
<i>courier</i> 斜体	コマンド項目 (可変または固定)。	<i>value</i>
< >	可変項目。< > にあたる箇所には値または文字を入力します。	<value>
[]	任意の固定項目。	[value]
[< >]	任意の可変項目。	[<value>]
{ }	{ } 内の選択肢から 1 つ選択して入力する項目。	{choice1 choice2}
(垂直線)	相互排他的な項目。	choice1 choice2
Menu Name > Menu Option	メニュー構造を示します。	Device > Port > Port Properties は、「Device」メニューの下の「Port」メニューの「Port Properties」メニューオプションを表しています。

製品名 / 品番一覧

製品名	品番
DAP-2690	DAP-2690

第1章 本製品のご利用にあたって

本製品の概要と機能、LED表示などの各部名称について説明します。

- ◆ 製品概要
- ◆ サポートする機能
- ◆ 本製品の接続モード
- ◆ ポートについて
- ◆ 前面パネル

製品概要

DAP-2690は、IEEE 802.11n規格のLAN環境にて展開するビジネスのためのソリューションです。特に中小企業を含むビジネスクラス環境向けに設計され、安全かつネットワーク管理者が管理しやすい無線LANオプションを提供します。

■ 多機能アクセスポイント

DAP-2690は、多機能かつきわめて強健なデュアルバンド無線ネットワークを展開することができます。4個のオムニアンテナはすべて取り外し可能で、2.4GHz(IEEE 802.11gおよびIEEE 802.11n規格)または5GHz(IEEE 802.11aおよびIEEE 802.11n規格)のいずれの帯域においても最適な無線適用範囲を提供することができます。また、IEEE 802.3af規格のPoE受電機能をサポートしているため、電源供給が容易でない場所にも設置することが可能です。本体はプレナム定格メタルシャーシで、空気通路を確保した設置に関する消防法を遵守しています。

■ 強化されたパフォーマンス

DAP-2690は、2.4GHz、5GHzの無線帯域において最大300Mbpsの信号レートで信頼性の高い無線性能を提供します。Wi-Fi Multimedia(WMM)サービス品質をサポートしており、オーディオ、ビデオ、および音声アプリケーションに最適なアクセスポイントです。また、最大限のパフォーマンスを保証する接続制限機能をサポートしています。

■ セキュリティ

バックエンドのRADIUSサーバのサポートにより、WPAとWPA2(IEEE 802.11i規格)に対応しており、安全な無線ネットワークを維持することができます。また、MACアドレスフィルタリング、SSIDブロードキャストの無効化、不正AP検知、ワイヤレススケジューリングなどの機能を搭載しており、より安全な無線ネットワーク環境を提供可能です。

本製品は最大8個のSSIDをサポートしており、複数のSSIDを使用したネットワークのユーザ分割に有効です。さらに、WLANクライアントパーティションを搭載し、クライアント間接続を制限します。

サポートする機能

- 4つの動作モード
さまざまな無線ネットワーク条件に適応するための4種類の動作モード（アクセスポイントモード、WDS with APモード、WDSモードおよびワイヤレスクライアントモード）を提供します。
- 高速無線ネットワーク規格のIEEE 802.11n準拠により最大300Mbpsまでの無線転送速度を提供します。
- IEEE 802.11bに対応し、最大11Mbpsまでの無線データ転送速度を供給しているため、システムの接続性を損なうことなく、IEEE 802.11nおよびIEEE 802.11gに移行できます。
- IEEE 802.11g規格と互換性があり、2.4GHz周波数範囲において最大54Mbpsの無線転送速度を提供します。
- IEEE 802.11a規格と互換性があり、5GHz周波数範囲において最大54Mbpsの無線転送速度を提供します。
- WPAによる強固なセキュリティ
従来の規格よりさらに高度な暗号化方式であるWPA(Wi-Fi Protected Access)を採用し、クライアントとネットワークを安全に接続します。
- SNMPによるネットワーク管理
SNMPv3をサポートし、優れたネットワーク管理機能を発揮します。SNMPに対応したネットワークマネジメントシステムを使用することでリアルタイムにネットワークトラフィックをモニタリングすることが可能です。
- OFDM(Orthogonal Frequency Division Multiplexing)技術を採用しています。
- IEEE 802.3af Power over Ethernet(PoE)受電機能をサポートしています。
- 10/100/1000Mイーサネットポートを備えています。

- 2.4 ～ 2.4835GHz、5.15 ～ 5.35GHz、5.47 ～ 5.725GHz 周波数範囲で作動します。

注意

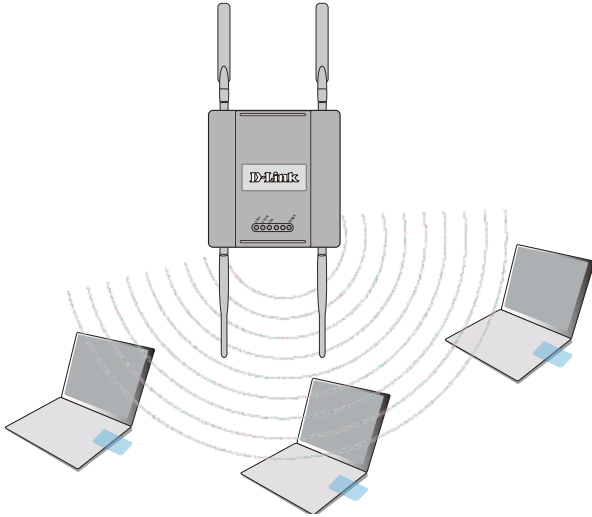
最大の無線信号速度は IEEE 802.11g、802.11a および IEEE 802.11n 仕様書を参考にしています。実際のデータスループットは異なります。ネットワーク条件と環境には、ネットワークトラフィック量、建築材料や工事、ネットワークオーバーヘッドが含まれ、実際のデータスループット速度は低くなります。環境条件は無線信号範囲に悪影響を与えます。

本製品の接続モード

本アクセスポイントには次の4つの接続モード（アクセスポイントモード、WDS with APモード、WDSモード、ワイヤレスクライアントモード）があります。ご使用のネットワークにあわせてご使用ください。

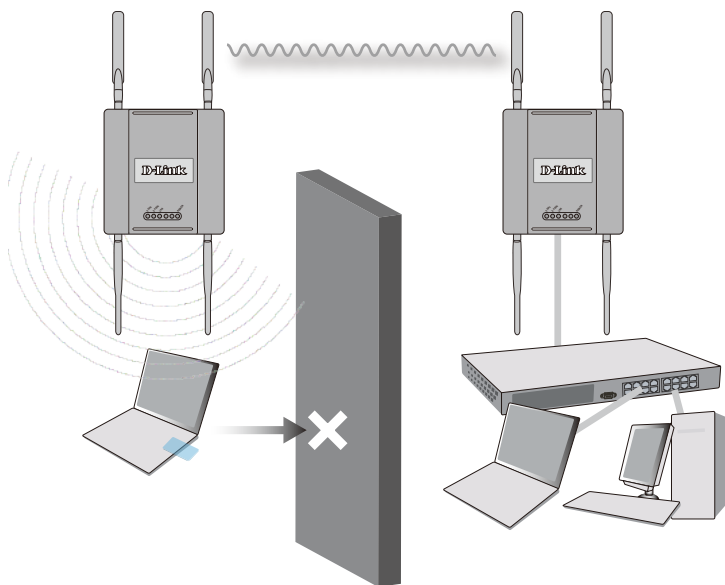
アクセスポイント (AP) モード

無線アクセスポイントと無線クライアントのネットワークを構築します。



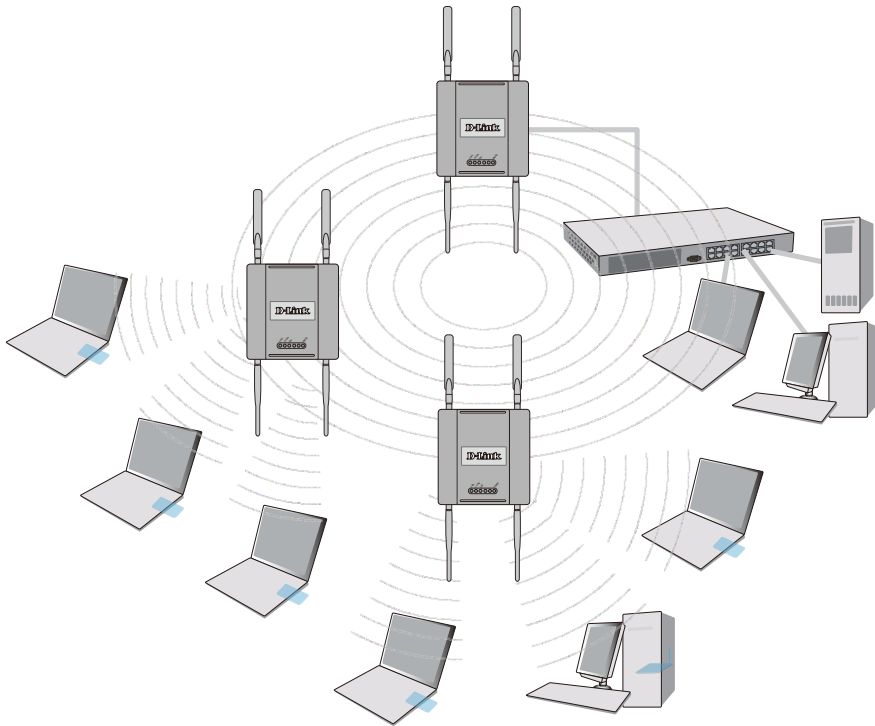
WDSモード

複数のネットワークを無線接続します。



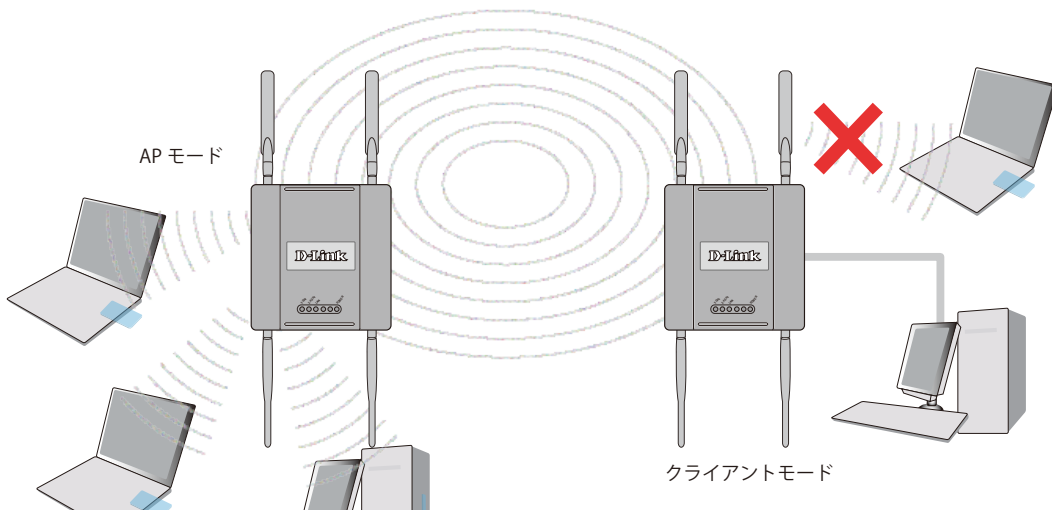
WDS with AP モード

本製品は、無線 LAN アクセスポイントとして動作しながら、複数のネットワークと無線接続します。



ワイヤレスクライアントモード

本製品はイーサネット用機器向けの無線ネットワークアダプタとして動作します。



注意 異機種間、異なるファームウェアバージョン間でWDSモード、WDS with APモードを使用することはできません。

ポートについて

本製品には、エンドステーション、サーバ、ハブなどのネットワークデバイスとの接続・設定・管理用に、1つの UTP (Auto MDI/MDI-X) ポートがあります。UTP ポートは 10Mbps/100M/1000Mbps、半二重/全二重間のオートネゴシエーション機能、フローコントロール、および PoE 受電機能をサポートしています。

前面パネル

DAP-2690

DAP-2690 の前面パネルには、ステータスを表示する POWER LED、WLAN 用の 5GHz/2.4GHz LED および LAN LED が配置されています。

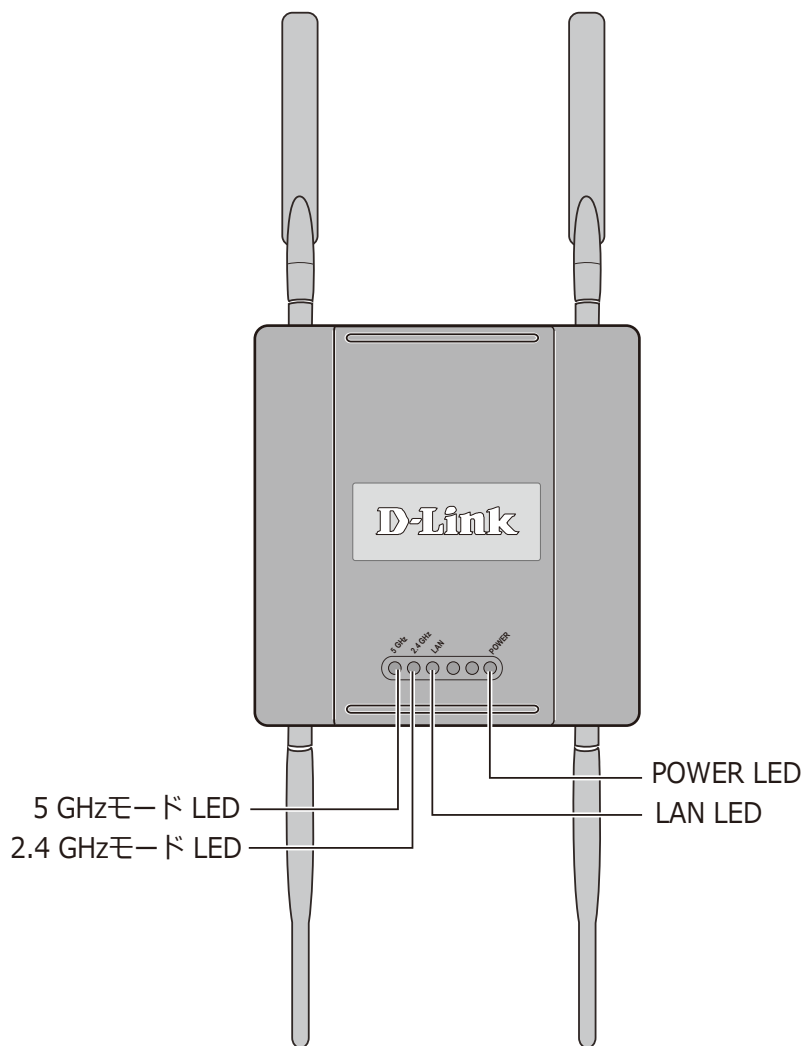


図 1-1 前面パネル図

ステータス LED は以下の状態を表示します。

LED	色	状態	状態説明
POWER	緑	点灯	電源が供給され正常に動作しています。
	赤	点滅	本製品が起動中または故障しています。
		点灯	起動に失敗しました。
	—	消灯	電源が入っていません。
5GHz	緑	点灯	無線 LAN による通信が可能な状態です。
		点滅	無線 LAN によりデータを送受信しています。

LED	色	状態	状態説明
2.4GHz	緑	点灯	無線 LAN による通信が可能な状態です。
		点滅	無線 LAN によりデータを送受信しています。
LAN	緑	点灯	ネットワークにリンクしています。
		点滅	ネットワーク上でデータを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。

背面パネル

DAP-2690

DAP-2690 の背面パネルには、リセットボタン、アンテナ端子、電源コネクタおよび 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T (PoE) ポートが配置されています。

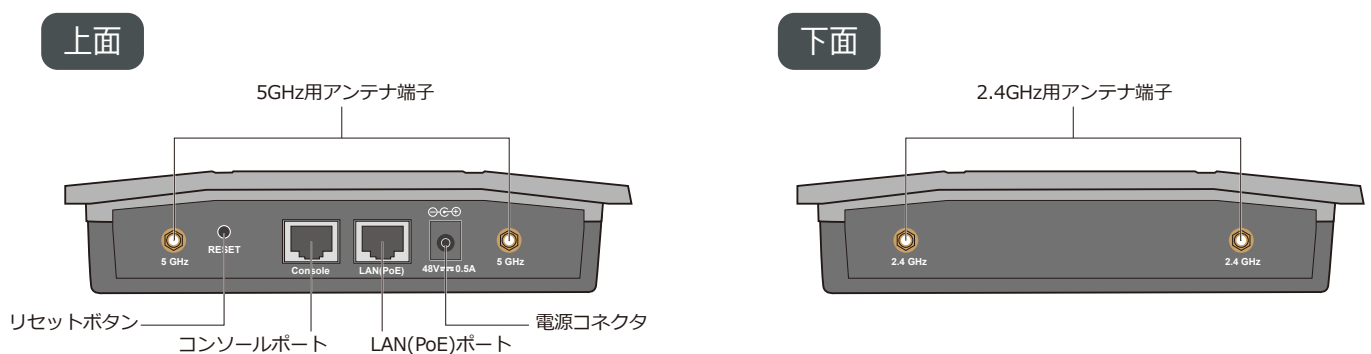


図 1-2 背面パネル図

部位	機能
10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T (PoE) ポート	RJ-45 コネクタが搭載され、10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T イーサネットへの接続が可能です。本ポートは NWay プロトコルをサポートしており、ネットワークの伝送速度を検知し、オートネゴシエーションを行います。また、PoE スイッチを使用して受電します。10BASE-T の場合はカテゴリ 3 以上、100BASE-TX の場合はカテゴリ 5 以上、1000BASE-T の場合はエンハンストカテゴリ 5 以上の UTP/STP ケーブルを接続します。PoE により受電する場合はカテゴリ 5 以上の UTP ストレートケーブルを接続します。
CONSOLE ポート	コマンドラインを使用して本製品の設定、管理をします。
アンテナ端子	本製品に付属のアンテナを接続します。
リセットボタン	本製品を工場出荷時設定にリセットします。
電源コネクタ	PoE による受電をしない場合に付属の AC アダプタを接続します。

第2章 アクセスポイントの設置

- ◆ パッケージの内容
- ◆ システム要件
- ◆ ネットワーク接続前の準備
- ◆ 製品の設置

パッケージの内容

ご購入いただいた製品の梱包箱を開け、同梱物を注意して取り出してください。
以下のものが同梱されています。

- 本体
- アンテナ
- ゴム足
- ACアダプタ
- ネットワークケーブル
- RJ-45 コンソールケーブル
- PoE 給電アダプタ
- ウォールマウントキット
- マニュアル
- シリアルラベル
- CD-ROM

万一、不足しているものや損傷を受けているものがありましたら、ご購入いただきました代理店にご連絡ください。

システム要件

本製品が動作するためには、以下のシステム条件が必要です。

- 対応ブラウザ：
Internet Explorer 7.0、Firefox 12、Chrome 12、Safari 4.0 以上
- イーサネットへの接続

ネットワーク接続前の準備

アクセスポイントの設置場所が性能に大きな影響を与えます。以下のガイドラインに従って本製品を設置してください。

■ 設置にあたってのご注意

本製品の使用により、動作範囲内にて無線でネットワークアクセスが可能になりますが、壁や天井など無線信号が通過する物体の数や厚さ、場所などにより、動作範囲が制約を受ける場合があります。一般的には、構造物の材質や設置場所での無線周波数のノイズが動作範囲に影響を与えます。

1. 本製品と他のネットワークデバイスとの間に入る壁や天井の数をできるだけ少なくしてください。
一枚の壁や天井の影響により、本製品の動作範囲は1～30メートルの範囲となります。間に入る障害物の数を減らすようデバイスの位置を工夫してください。
2. ネットワークデバイス間の直線距離にご注意ください。
厚さ50センチの壁を45度の角度で無線信号が通過する時、通り抜ける壁の厚みは約1メートルになります。2度の角度で通過すると、通り抜ける厚みは14メートルになります。信号が障害物をなるべく直角に通過するような位置にデバイスを設置し、電波を受信しやすくしてください。
3. 無線信号の通過性能は建築材料により異なります。
金属製のドアやアルミの金具などは動作範囲を小さくする可能性があります。無線LANデバイスや無線LANアダプタ使用のコンピュータの設置は、信号がなるべく乾式壁か開放された戸口などを通るような位置に設置してください。

4. 周波数ノイズを発生する電気機器や家電製品からは、最低でも 1、2メートル離してデバイスを設置してください。
5. 2.4GHz のコードレス電話または X-10（シーリングファン、ライト、およびホームセキュリティシステムなどの無線製品）を使っている場合、ご使用の無線接続は著しく性能が低下するか、または完全に切断される可能性があります。2.4GHz 電話の親機は可能な限りご使用の無線機器から離れていることを確認してください。電話を使用していない場合でも、親機は信号を送信します。
6. 必ず付属の UTP ケーブルもしくは適合した UTP ケーブル、付属の AC アダプタをご使用ください。

本アクセスポイントは、IEEE 802.3af 準拠の給電スイッチまたは弊社が承認する給電機器から受電することができます。

警告 弊社が承認していない PoE 給電機器に本アクセスポイントを接続すると、本アクセスポイントが破損する場合があります。

製品の設置

アンテナの取り付け

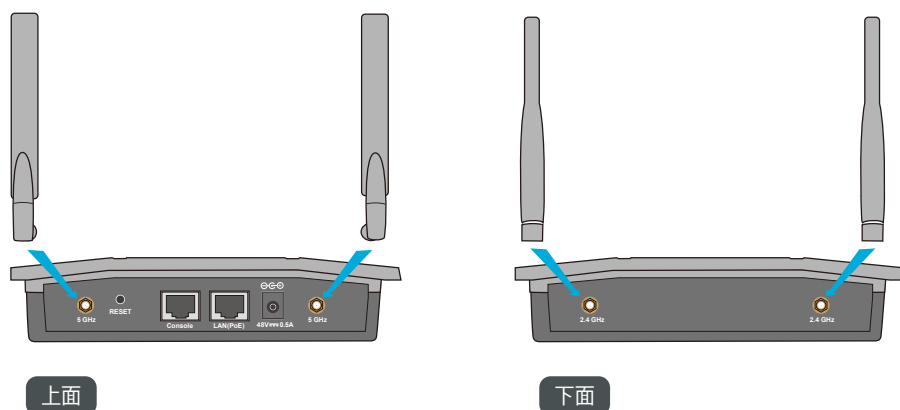


図 2-1 アンテナの取り付け

1. 付属の 4 本のアンテナを本体のアンテナ端子に取り付けます。
取り付けの際には、アンテナは折り曲げずに本体のアンテナ接合部に接続し、右方向に締めます。
2. 取り付け後にアンテナを折り曲げます。
3. 電波状況に合わせてアンテナの向きを変更します。

イーサネットケーブルの接続

1. イーサネットケーブルの一端を本製品の背面にある RJ-45 コネクタに接続します。
2. もう一端をルータ、スイッチ等のネットワーク機器に接続します。

電源の投入

1. 付属の AC アダプタを接続し、AC アダプタのプラグを電源コンセントに接続します。
2. 本スイッチに電源が供給されると、Power LED が点灯します。

PoE (Power over Ethernet) を使用した接続

1. 本製品の LAN ポートに UTP ケーブルの一端を接続します。
2. UTP ケーブルのもう一端を、PoE 給電機器の給電ポートに接続します。

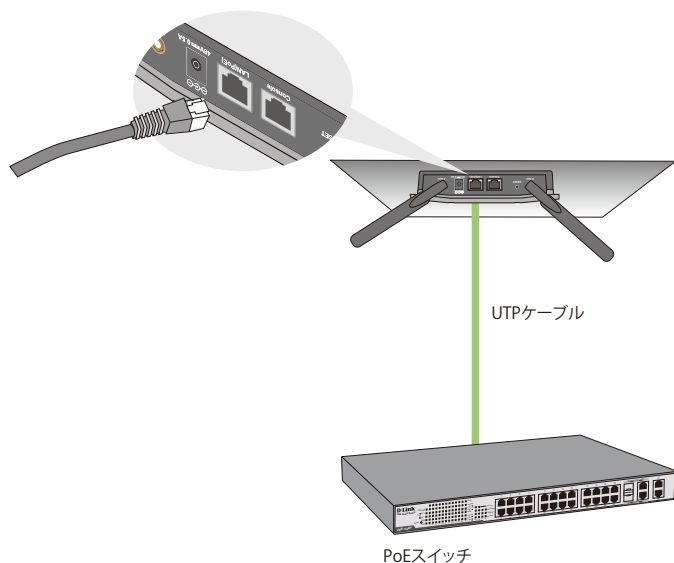


図 2-2 PoE を使用した接続

ウォールマウントキットによる壁面への設置

付属のウォールマウントキットを使用して、本製品を壁面に設置することができます。
取り付け位置は、アンテナの長さを考慮し、障害物や天井にぶつからない場所にしてください。

準備：ウォールマウントキットを使用して本製品を壁面に設置するために以下のものをご用意ください。

- ・ マウントプレート
- ・ 本体をマウントプレートに取り付けるネジ (3 個)
- ・ マウントプレートを壁面に取り付けるネジ (4 個) とアンカー (4 個)

1. 壁面にアンカーをとりつける。
マウントプレートを設置する壁面にアンカーを挿入します。
アンカーの間隔はマウントプレートのネジ穴の間隔にあわせてください。

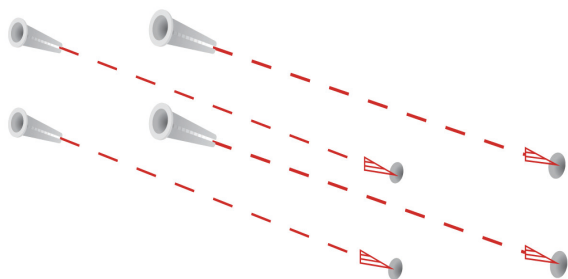


図 2-3 壁面へのアンカー挿入

2. マウントプレートを壁面に取り付ける。
マウントプレートをアンカー用のネジで壁面に取り付け、しっかりと固定します。

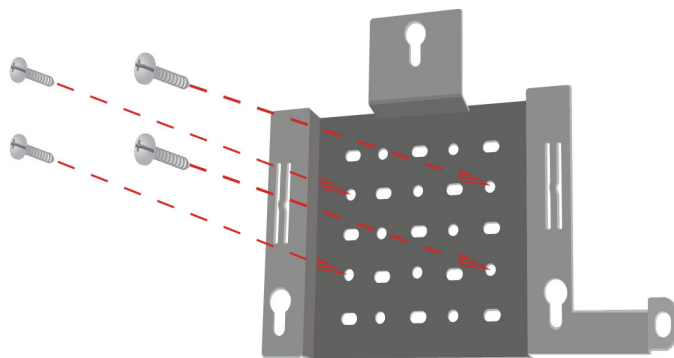


図 2-4 マウントプレートの設置

3. 本体背面にネジを取り付ける。
マウントプレートに設置するため、ネジと本体の間にわずかな隙間があるように取り付けます。

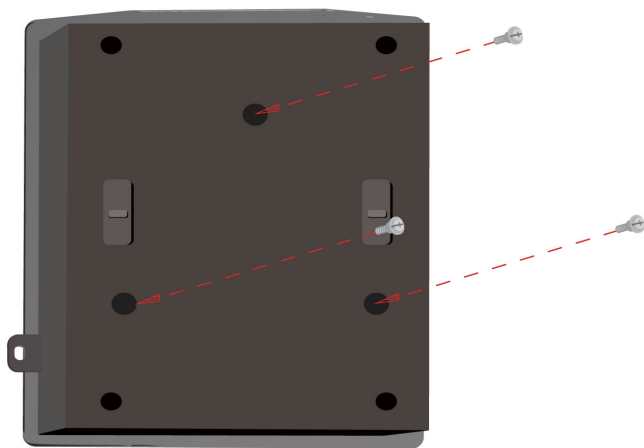


図 2-5 ネジの取り付け

4. 本体をマウントプレートに取り付ける。
手順3で取り付けしたネジをマウントプレートのネジ穴に差し込みます。



図 2-6 マウントプレートへの取り付け

5. 本体を固定する。
本体をマウントプレートの取り付け溝にあわせて下にスライドさせます。

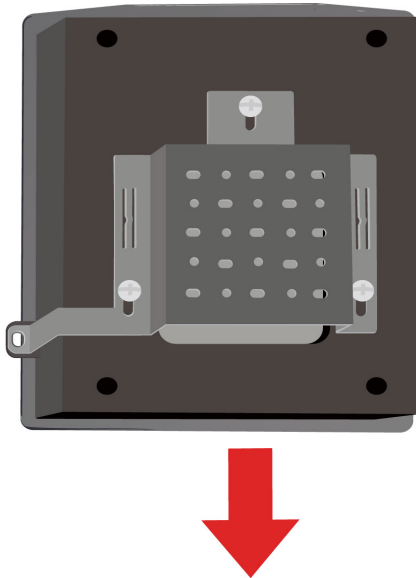


図 2-7 本体の固定

アクセスポイント設置後のネットワーク接続の例

1. インターネット接続を確認します。
2. ご契約のプロバイダに確認し、正しくモデムを設置します。
3. ケーブルモデムまたは ADSL モデムをルータに接続します。接続に関する詳細については、ルータに付属の設置マニュアルを参照してください。
4. デスクトップ型コンピュータへの接続を行う場合は、無線アダプタをそれぞれのインタフェースに従って、空いている PCI スロット、USB ポートなどに差し込み、必要に応じてドライバをインストールしてください。

ノート型コンピュータの場合は、無線アダプタをそれぞれのインタフェースに従って、空いているカードバススロット、USB ポートなどに差し込み、必要に応じてドライバをインストールしてください。

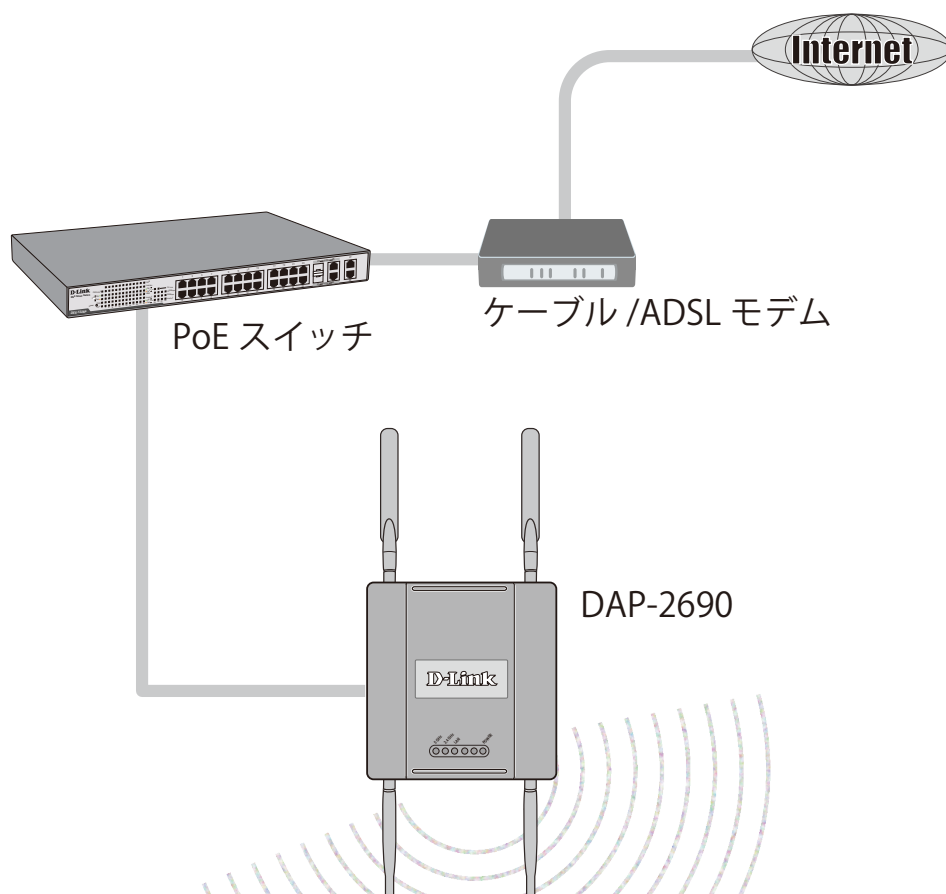


図 2-8 接続例

第3章 Web ベース設定ユーティリティについて

Web ベース設定ユーティリティへのログイン

本製品の設定は、UTP ケーブルで本製品と接続した設定用 PC から行います。

1. 設定用 PC のプロキシサーバ機能を無効にします。
Windows の「スタート」>「コントロールパネル」>「インターネットオプション」>「接続」タブ>「LAN の設定」の順にクリックし、「LAN にプロキシサーバを使用する」のチェックを外します。
2. 設定用 PC の Web ブラウザを起動します。
3. 本製品の IP アドレスをブラウザのアドレス欄に入力し、「Enter」キーを押下します。



図 3-1 アドレス入力画面

注意 本製品の初期設定状態の IP アドレスは『192.168.0.50』です。
本製品の IP アドレスが初期値から変更されている場合は、変更後のアドレスを入力します。

注意 設定用 PC の IP アドレスは、本製品の IP アドレスと同じサブネット内に設定してください。

4. ログイン画面で「User Name」(ユーザ名)と「Password」(パスワード)を入力し、「Login」をクリックします。

初期設定状態のユーザ名とパスワード：

ユーザ名：「admin」

パスワード：空白

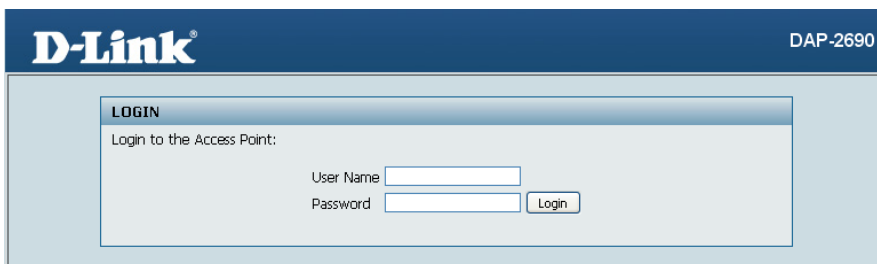


図 3-2 LOGIN 画面

ログインに成功すると以下の画面が表示されます。

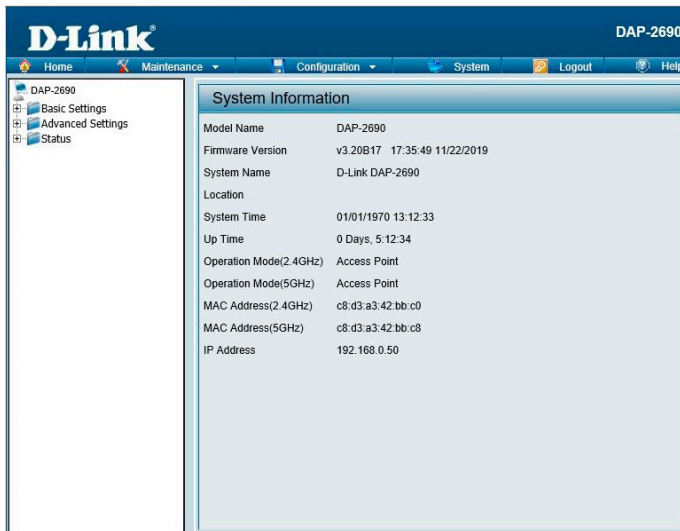


図 3-3 System Information 画面

設定内容の保存

● 各設定画面の設定内容を保存する

各設定画面で変更を行った場合は、各設定画面にある「Apply」または「Save」を押して変更した設定を保存します。



図 3-4 Wireless Settings 画面



「Apply」または「Save」で保存した設定内容を本製品に適用・保存するには、「Configuration」>「Save and Active」をクリックしてください。

● 「Configuration」>「Save and Active」で設定内容を本製品に適用・保存する

「Configuration」>「Save and Active」をクリックし、各設定画面で変更した内容を本製品に適用・保存します。設定を保存後、本製品は自動的に再起動します。



図 3-5 Configuration 画面

第4章 Home (基本的な設定) メニュー

- ◆ Basic Settings (基本設定)
- ◆ Advanced Settings (詳細設定)
- ◆ Status (ステータス表示)

Basic Settings (基本設定)

Wireless (無線設定)

アクセスポイントのモードや、認証方式の設定などを行います。

「Basic Settings」>「Wireless」の順にクリックし、Wireless Settings 画面を表示します。

The screenshot shows the 'Wireless Settings' interface with the following details:

- Wireless Band:** 2.4GHz
- Application:** Concurrent 11b/g/n on 2.4GHz for indoor/outdoor
- Mode:** Access Point
- Network Name (SSID):** dlink
- SSID Visibility:** Enable
- Auto Channel Selection:** Enable
- Channel:** 6
- Channel Width:** 20 MHz
- Authentication:** Open System
- Key Settings:**
 - Encryption: Disable, Enable
 - Key Type: HEX
 - Key Size: 64 Bits
 - Key Index(1~4): 1
 - Network Key: [Empty text box]
 - Confirm Key: [Empty text box]

At the bottom right, there is a 'Save' button. Below the confirm key field, there is a character set restriction: (0-9,a-z,A-Z,~!@#\$%^&*()_+`-={}|:~!./<>?)

図 4-1 Wireless Settings 画面

表示される項目は、設定内容によって異なります。

本マニュアルでは、「Mode」(モード)と「Authentication」(認証方式)の設定内容別に項目の説明を行います。

Mode (無線モード設定) を行う場合 :

■ Access Point モード

「WDS with AP」モードでは、本製品は無線 LAN アクセスポイントとして動作します。

1. 「Mode」欄で「Access Point」を選択した場合、以下の画面が表示されます。



The image shows a screenshot of the 'Wireless Settings' configuration page for an Access Point mode. The settings are as follows:

Setting	Value
Wireless Band	2.4GHz
Application	Concurrent 11b/g/n on 2.4GHz for indoor/outdoor
Mode	Access Point
Network Name (SSID)	dlink
SSID Visibility	Enable
Auto Channel Selection	Enable
Channel	6
Channel Width	20 MHz
Authentication	Open System
Key Settings	
Encryption	<input checked="" type="radio"/> Disable <input type="radio"/> Enable
Key Type	HEX
Key Index(1~4)	1
Network Key	[Empty field]
Confirm Key	[Empty field]

Below the key fields, there is a validation pattern: (0-9,a-z,A-Z,~!@#\$%^&*()_+`-={}|:~!./<>?)

A 'Save' button is located at the bottom right of the form.

図 4-2 Wireless Settings (Access Point) 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Wireless Band	「2.4GHz」または「5GHz」を選択します。
Application	「Concurrent 11a/n on W52/W53/W56 for indoor」または「Concurrent 11a/n on W56 for outdoor」を選択します。 注意 「Wireless Band」で「5GHz」を選択した場合のみ設定可能です。 注意 「Concurrent 11a/n on W56 for outdoor」を選択した場合、設定できるモードは「Access Point」「Wireless Client」のみです。
Mode	「Access Point」を選択します。
Network Name (SSID)	SSIDを入力します。 入力可能文字数：最大 32 文字以内（大文字と小文字を区別します。） 初期値：dlink SSID(Service Set Identifier)は無線 LAN グループに割り当てる識別名です。SSIDを入力すると、既存または新規の無線 LAN への登録を簡単に行うことができます。
SSID Visibility	SSID の表示を「Enable」(有効)または「Disable」(無効)にします。 有効にすると SSID がネットワーク上にブロードキャストされ、他のすべてのネットワークユーザから閲覧できるようになります。
Auto Channel Selection	自動チャンネル選択を「Enable」(有効)または「Disable」(無効)にします。 初期値：「Enable」 注意 「Enable」(有効)にすると最適なパフォーマンスを得るために自動的にチャンネルの選択を行います。 チャンネル選択は本製品が起動したときのみ行われます。 「Disable」にした場合は、「Channel」でチャンネルを指定します。
Channel	「Auto Channel Selection」が「Disable」(無効)になっている場合に、チャンネルを選択します。 注意 無線 LAN アダプタは自動的にチャンネル検索を行い、無線設定を合わせます。 注意 同一ネットワーク上のすべてのデバイスは同じチャンネルを使用します。
Channel Width	運用するチャンネル帯域を選択します。 選択肢：「20MHz」「Auto 20/40 MHz」 「20MHz」: 802.11n 無線クライアントを使用していない場合に選択します。 「Auto 20/40 MHz」: 802.11n と 802.11n でない無線デバイスの両方を使用している場合に選択します。
Authentication	認証方式を選択します。認証設定の詳細については、 Authentication (認証設定) を参照してください。 選択肢：「Open System」「Shared Key」「WPA-Personal」「WPA-Enterprise」「802.1X」 「Open System」: オープンシステム認証を行い、ネットワーク側での認証を行いません。 「Shared Key」: 同じ WEP 設定を行ったデバイス同士の通信のみ可能になります。 マルチ SSID が有効になっている場合は、このオプションは利用できません。 「WPA-Personal」: パスワードと認証キーの自動変更機能でセキュリティを提供します。RADIUS サーバは必要ありません。 「WPA-Enterprise」: ネットワーク内に RADIUS サーバがある場合に選択します。 「802.1X」: ネットワーク内に RADIUS サーバがある場合に選択します (暗号化なし)。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

■ WDS with AP (AP モード搭載の WDS モード設定)

「WDS with AP」モードでは、本製品は無線 LAN アクセスポイントとして動作しながら、複数のネットワークと無線接続します。

1. 「Mode」欄で「WDS with AP」を選択した場合、以下の画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Wireless Settings' interface for WDS with AP mode. Key settings include:

- Wireless Band: 2.4GHz
- Application: Concurrent 11b/g/n on 2.4GHz for indoor/outdoor
- Mode: WDS with AP
- Network Name (SSID): dlink
- SSID Visibility: Enable
- Auto Channel Selection: Disable
- Channel: 6
- Channel Width: 20 MHz
- WDS Remote AP MAC Address: 8 input fields (1-8)
- Site Survey: Scan button
- Table with columns: CH, RSSI, BSSID, Security, SSID
- Authentication: Open System
- Key Settings:
 - Encryption: Disable, Enable
 - Key Type: HEX
 - Key Size: 64 Bits
 - Key Index(1~4): 1
 - Network Key: [Input Field]
 - Confirm Key: [Input Field]
- Save button

図 4-3 Wireless Settings (WDS Mode with AP) 画面

注意 異機種間、異なるファームウェアバージョン間で WDS モード、WDS with AP モードを使用することはできません。

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Wireless Band	「2.4GHz」または「5GHz」を選択します。
Application	「Concurrent 11a/n on W52/W53/W56 for indoor」を選択します。 注意 「Wireless Band」で「5GHz」を選択した場合のみ設定可能です。 注意 「Concurrent 11a/n on W56 for outdoor」を選択した場合、設定できるモードは「Access Point」「Wireless Client」のみです。
Mode	「WDS with AP」を選択します。
Network Name (SSID)	SSIDを入力します。 入力可能文字数：最大 32 文字以内（大文字と小文字を区別します。） 初期値：dlink SSID(Service Set Identifier)は無線 LAN グループに割り当てる識別名です。SSIDを入力すると、既存または新規の無線 LAN への登録を簡単に行うことができます。
SSID Visibility	SSID の表示を「Enable」(有効)または「Disable」(無効)にします。 有効にすると SSID がネットワーク上にブロードキャストされ、他のすべてのネットワークユーザから閲覧できるようになります。
Auto Channel Selection	「WDS with AP」モードでは、本機能は利用できません。
Channel	チャンネルを選択します。 注意 無線 LAN アダプタは自動的にチャンネル検索を行い、無線設定を合わせます。 注意 同一ネットワーク上のすべてのデバイスは同じチャンネルを使用します。
Channel Width	運用するチャンネル帯域を選択します。 選択肢：「20MHz」「Auto 20/40 MHz」 「20MHz」: 802.11n 無線クライアントを使用していない場合に選択します。 「Auto 20/40 MHz」: 802.11n と 802.11n でない無線デバイスの両方を使用している場合に選択します。
Remote AP Mac Address	複数のネットワークを無線接続するブリッジの役割を果たすアクセスポイントの MAC アドレスを入力します。
Site Survey	「Scan」をクリックすると、稼動しているアクセスポイントを検出して表示します。 接続するネットワークをクリックして選択します。
Authentication	認証方式を選択します。認証設定の詳細については、 Authentication (認証設定) を参照してください。 選択肢：「Open System」「WPA-Enterprise」 「Open System」: オープンシステム認証を行い、ネットワーク側での認証を行いません。 「WPA-Personal」: パスワードと認証キーの自動変更機能でセキュリティを提供します。RADIUS サーバは必要ありません。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

■ WDS (WDS モード設定)

「WDS」モードでは、本製品は複数のネットワークと無線接続します。

1. 「Mode」欄で「WDS」を選択した場合、以下の画面が表示されます。

Wireless Settings

Wireless Band: 2.4GHz

Application: Concurrent 11b/g/n on 2.4GHz for indoor/outdoor

Mode: WDS

Network Name (SSID): dlink

SSID Visibility: Enable

Auto Channel Selection: Disable

Channel: 6

Channel Width: 20 MHz

WDS

Remote AP MAC Address

1. [] 2. [] 3. [] 4. []
5. [] 6. [] 7. [] 8. []

Site Survey

Scan

CH	RSSI	BSSID	Security	SSID

Authentication: Open System

Key Settings

Encryption: Disable Enable

Key Type: HEX Key Size: 64 Bits

Key Index(1~4): 1

Network Key: []

Confirm Key: []

(0-9,a-z,A-Z,~,!@#\$%^&*()_+`-={}:";'"/<>?)

Save

図 4-4 Wireless Settings (WDS) 画面

注意 異機種間、異なるファームウェアバージョン間で WDS モード、WDS with AP モードを使用することはできません。

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Wireless Band	「2.4GHz」または「5GHz」を選択します。
Application	「Concurrent 11a/n on W52/W53/W56 for indoor」を選択します。 注意 「Wireless Band」で「5GHz」を選択した場合のみ設定可能です。 注意 「Concurrent 11a/n on W56 for outdoor」を選択した場合、設定できるモードは「Access Point」「Wireless Client」のみです。
Mode	「WDS」モードを選択します。
Network Name (SSID)	SSIDを入力します。 入力可能文字数：最大 32 文字以内（大文字と小文字を区別します。） 初期値：dlink SSID(Service Set Identifier)は無線 LAN グループに割り当てる識別名です。SSIDを入力すると、既存または新規の無線 LAN への登録を簡単に行うことができます。
SSID Visibility	SSID の表示を「Enable」(有効)または「Disable」(無効)にします。 有効にすると SSID がネットワーク上にブロードキャストされ、他のすべてのネットワークユーザから閲覧できるようになります。
Auto Channel Selection	「WDS」モードでは、本機能は利用できません。
Channel	チャンネルを選択します。 注意 無線 LAN アダプタは自動的にチャンネル検索を行い、無線設定を合わせます。 注意 同一ネットワーク上のすべてのデバイスは同じチャンネルを使用します。
Channel Width	運用するチャンネル帯域を選択します。 選択肢：「20MHz」「Auto 20/40 MHz」 「20MHz」: 802.11n 無線クライアントを使用していない場合に選択します。 「Auto 20/40 MHz」: 802.11n と 802.11n でない無線デバイスの両方を使用している場合に選択します。
Remote AP Mac Address	複数のネットワークを無線接続するブリッジの役割を果たすアクセスポイントの MAC アドレスを入力します。
Site Survey	「Scan」をクリックすると、稼動しているアクセスポイントを検出して表示します。 接続するネットワークをクリックして選択します。
Authentication	認証方式を選択します。認証設定の詳細については、 Authentication (認証設定) を参照してください。 選択肢：「Open System」「WPA-Enterprise」 「Open System」: オープンシステム認証を行い、ネットワーク側での認証を行いません。 「WPA-Personal」: パスワードと認証キーの自動変更機能でセキュリティを提供します。RADIUS サーバは必要ありません。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

■ Wireless Client (ワイヤレスクライアントモード設定)

「Wireless Client」モードでは、本製品はイーサネット用機器向けの無線ネットワークアダプタとして動作します。

注意 配下で L3 転送をする構成では、WDS、WDS with AP mode を使用してください。

1. 「Mode」欄で「Wireless Client」を選択した場合、以下の画面が表示されます。

Wireless Settings

Wireless Band: 2.4GHz

Application: Concurrent 11b/g/n on 2.4GHz for indoor/outdoor

Mode: Wireless Client

Network Name (SSID): dlink

SSID Visibility: Enable

Auto Channel Selection: Enable

Channel: 6

Channel Width: Auto 20/40 MHz

Site Survey: Scan

CH	RSSI	BSSID	Security	SSID

Authentication: Open System

Key Settings

Encryption: Disable Enable

Key Type: HEX Key Size: 64 Bits

Key Index(1~4): 1

Network Key:

Confirm Key:

(0-9,a-z,A-Z,~!@#%&*()_+`-{}|;'\',./<>?)

Wireless MAC Clone

Enable:

MAC Source: Auto

MAC Address: : : : : : Scan

MAC Address

図 4-5 Wireless Settings (Wireless Client) 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Wireless Band	「2.4GHz」または「5GHz」を選択します。
Application	「Concurrent 11a/n on W52/W53/W56 for indoor」または「Concurrent 11a/n on W56 for outdoor」を選択します。 注意 「Wireless Band」で「5GHz」を選択した場合のみ設定可能です。 注意 「Concurrent 11a/n on W56 for outdoor」を選択した場合、設定できるモードは「Access Point」「Wireless Client」のみです。
Mode	「WDS」モードを選択します。
Network Name (SSID)	SSIDを入力します。 入力可能文字数：最大 32 文字以内（大文字と小文字を区別します。） 初期値：dlink SSID(Service Set Identifier)は無線 LAN グループに割り当てる識別名です。SSIDを入力すると、既存または新規の無線 LAN への登録を簡単に行うことができます。
SSID Visibility	「Wireless Client」モードでは、本機能は利用できません。
Auto Channel Selection	「Wireless Client」モードでは、本機能は利用できません。
Channel	使用しているチャンネルが表示されます。チャンネルは接続する AP に従います。
Channel Width	「Wireless Client」モードでは、本機能は利用できません。
Site Survey	「Scan」をクリックすると、稼動しているアクセスポイントを検出して表示します。接続するネットワークをクリックして選択します。
Authentication	認証方式を選択します。認証設定の詳細については、 Authentication (認証設定) を参照してください。 選択肢：「Open System」「WPA-Enterprise」 「Open System」: オープンシステム認証を行い、ネットワーク側での認証を行いません。 「WPA-Personal」: パスワードと認証キーの自動変更機能でセキュリティを提供します。RADIUS サーバは必要ありません。
Wireless MAC Clone	
Enable	「Enable」にチェックをいれて本機能を有効にします。 本設定を有効にした場合、DAP-2690 によって転送されるパケットに対して、送信元 MAC アドレスを手動で割り当てることができます。 無効にした場合は、パケットの送信元 MAC アドレスは、自動的に DAP-2690 の MAC アドレスになります。
MAC Source	「Auto」(自動)または「Manual」(手動)を選択します。
MAC Address	「MAC Source」で「Manual」を選択した場合、MAC アドレスを指定します。 「Scan」をクリックし、接続中のデバイスを検索することが可能です。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

Authentication (認証設定)

■ Open System または Shared Key

1. 「Authentication」欄で「Open System」または「Shatred Key」を選択した場合、認証設定欄は以下のように表示されます。

図 4-6 Wireless Settings (Open System) 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Encryption	暗号化の有無を指定します。
Key Type	ネットワークキーの種類を「HEX」(16進数)または「ASCII」(半角英数字)から選択します。 「HEX」: 「Network Key」に0～9、A～Fまたはa～fまでの半角英数字を指定します。 「ASCII」: 「Network Key」に半角英数字を指定します。
Key Size	「64 Bits」または「128 Bits」を選択します。
Key Index (1~4)	有効にするキーを1から4番の中から指定してください。
Network Key	1番目から4番目までのネットワークキーを入力します。
Confirm Key	確認のため、「Network Key」に入力したキーと同じものを入力します。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

■ WPA-Personal

1. 「Authentication」欄で「WPA-Personal」を選択した場合、認証設定欄は以下のように表示されます。

図 4-7 Wireless Settings (WPA- Personal) 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
WPA Mode	WPA のモードを指定します。 選択肢：「AUTO(WPA or WPA2)」「WPA2 Only」「WPA Only」 「AUTO(WPA or WPA2)」を指定すると WPA と WPA2 の両方を使用することができます。
Cipher Type	暗号化タイプを選択します。 選択肢：「Auto」「AES」「TKIP」
Group Key Update Interval	グループキーを更新する間隔を設定します。 推奨値：1800(秒) 短い間隔にするとデータ転送レートが下がる可能性があります。
Manual/Periodical Key Change	認証に使用するセキュリティキーの設定方法として、「Manual」または「Periodical Key Change」を選択します。 「Manual」： セキュリティキーを手動で設定します。 「Periodical Key Change」： 定期的にセキュリティキーを変更します。 セキュリティキーは、本画面の「PassPhrase」欄、または「Status」>「Log」>「Log Settings」で確認できます。
Activated From	「Periodical Key Change」を選択した場合、設定を有効にする時刻を設定します。
Time Interval	「Periodical Key Change」を選択した場合、セキュリティキーを変更する間隔を設定します。
PassPhrase	「Manual」を選択した場合、パスワードを入力します。
Confirm PassPhrase	「Manual」を選択した場合、パスワードを確認のため再度入力します。 「Periodical Key Change」を選択した場合は、自動的に設定されたパスワードが表示されます。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

■ WPA-Enterprise

1. 「Authentication」欄で「WPA-Enterprise」を選択した場合、認証設定欄は以下のように表示されます。

図 4-8 Wireless Settings (WPA- Enterprise) 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
WPA Mode	WPA のモードを指定します。 選択肢：「AUTO(WPA or WPA2)」 「WPA2 Only」 「WPA Only」 「AUTO(WPA or WPA2)」を指定すると WPA と WPA2 の両方を使用することができます。
Cipher Type	暗号化タイプを選択します。 選択肢：「Auto」 「AES」 「TKIP」
Group Key Update Interval	グループキーを更新する間隔 (秒) を設定します。 推奨値：1800(秒) 短い間隔にするとデータ転送レートが下がる可能性があります。
Network Access Protection	
Network Access Protection	「Microsoft Network Access Protection」を「Enable」(有効)または「Disable」(無効)にします。 本設定を有効にすると、Windows Server 2008でNetwork Policy Server (NPS)を使用している場合に、本製品を NAP 強制ポイントとして使用できます。
RADIUS Server Mode	
RADIUS Server	RADIUS サーバの種類を「External」(外部)または「Internal」(内部)から選択します。 ネットワーク上の RADIUS サーバを利用する場合は「External」、機器の RADIUS サーバを利用する場合は「Internal」をクリックします。
Primary/Backup RADIUS Server Setting	
RADIUS Server	RADIUS サーバの IP アドレスを入力します。
RADIUS Port	RADIUS サーバの認証に使用するポート番号を入力します。 初期値：1812

項目	説明
RADIUS Secret	RADIUS シークレット (パスワード) を入力します。
Primary/Backup Accounting Server Setting	
Accounting Mode	アカウントモードを「Enable」(有効)または「Disabled」(無効)にします。 アカウントに異なるサーバを使用する場合に「Enabled」を選択します。
Accounting Server	アカウントサーバの IP アドレスを入力します。
Accounting Port	アカウントポートを入力します。 初期値 : 1813
Accounting Secret	アカウントシークレット (パスワード) を入力します。

注意 既に RADIUS サーバおよびアカウントサーバを持っている場合は、セカンダリの RADIUS サーバおよびアカウントサーバの設定を入力することができます。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

■ 802.1X

1. 「Authentication」欄で「802.1X」を選択した場合、認証設定欄は以下のように表示されます。

The screenshot shows the 'Wireless Settings (802.1X)' configuration page. It includes sections for 'RADIUS Server Mode', 'Primary RADIUS Server Setting', 'Backup RADIUS Server Setting (Optional)', 'Primary Accounting Server Setting', and 'Backup Accounting Server Setting (Optional)'. Each section contains input fields for RADIUS Server, RADIUS Port, RADIUS Secret, Accounting Server, and Accounting Port, along with a dropdown for Accounting Mode. The RADIUS Secret and Accounting Secret fields have a regex validation pattern: (0-9,a-z,A-Z,~!@#%&^&*()_+`-=[]{};';",./,<>?).

図 4-9 Wireless Settings (802.1X) 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Key Update Interval	グループキーを更新する間隔 (秒) を設定します。 推奨値 : 300 (秒) 短い間隔にするとデータ転送レートが下がる可能性があります。
RADIUS Server Mode	
RADIUS Server	RADIUS サーバの種類を「External」(外部) または「Internal」(内部) から選択します。 ネットワーク上の RADIUS サーバを利用する場合は「External」、機器の RADIUS サーバを利用する場合は「Internal」をクリックします。
Primary/Backup RADIUS Server Setting	
RADIUS Server	RADIUS サーバの IP アドレスを入力します。
RADIUS Port	RADIUS サーバの認証に使用するポート番号を入力します。 初期値 : 1812
RADIUS Secret	RADIUS シークレット (パスワード) を入力します。
Primary/Backup Accounting Server Setting	
Accounting Mode	アカウントモードを「Enable」(有効) または「Disabled」(無効) にします。 アカウントに異なるサーバを使用する場合に「Enabled」を選択します。
Accounting Server	アカウントサーバの IP アドレスを入力します。
Accounting Port	アカウントポートを入力します。 初期値 : 1813
Accounting Secret	アカウントシークレット (パスワード) を入力します。

注意 既に RADIUS サーバおよびアカウントサーバを持っている場合は、セカンダリの RADIUS サーバおよびアカウントサーバの設定を入力することができます。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

LAN (LAN 設定)

本製品の LAN インタフェースの IP 設定を行います。LAN IP アドレスは必要に応じて変更することも可能です。LAN IP アドレスはネットワーク内部で使用され、インターネット上には公開されません。

1. 「Basic Settings」 > 「LAN」の順でクリックし、以下の画面を表示します。

図 4-10 LAN Settings 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Get IP From	IP アドレスの取得方法を、「Static IP (Manual)」または「Dynamic (DHCP)」に設定します。 初期値：「Static IP(Manual)」 Static IP (Manual): DHCP サーバが存在しないネットワークの場合や、本製品に固定の IP アドレスを割り当てる場合に選択します。 Dynamic (DHCP) : DHCP サーバにより、IP アドレスが自動的に割り当てられます。 他の欄はグレーで表示され、入力できなくなります。 設定してから、DHCP クライアントに IP アドレスが割り当てられるまで、約 2 分ほどお待ちください。
IP Address	ローカルネットワークの範囲内で固定の IP アドレスを指定します。 初期値：「192.168.0.50」
Subnet Mask	サブネットマスクを入力します。同一ネットワーク内のすべてのデバイスに同じサブネットマスクを使用します。 初期値：「255.255.255.0」
Default Gateway	ネットワーク内のゲートウェイの IP アドレスを入力します。 ネットワーク内にゲートウェイを設置している場合は、ネットワークの範囲内の IP アドレスを入力します。
DNS	DNS サーバの IP アドレスを入力します。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

IPv6 (IPv6 設定)

IPv6 アドレスを使用して、本製品にアクセスすることができます。

1. 「Basic Settings」 > 「IPv6」の順でクリックし、以下の画面を表示します。

図 4-11 LAN Settings 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Enable IPv6	チェックをつけると、IPv6 機能が有効になります。
Get IP From	IP アドレスの取得方法を、「Auto」または「Static」に設定します。 初期値：「Auto」 Static： 本製品に固定の IP アドレスを割り当てる場合に選択します。 Auto： DHCP サーバまたは IPv6 ゲートウェイにより、IP アドレスが自動的に割り当てられます。 他の欄はグレーで表示され、入力できなくなります。
IP Addrss	IPv6 アドレスを指定します。
Prefix	プレフィックスを入力します。 入力可範囲：1-128 プレフィックスは、IP アドレスがどのサブネットに属しているかを表します、
Default Gateway	ネットワーク内のゲートウェイの IP アドレスを入力します。

注意

IPv6 を有効にした場合、AP Array、QoS、Traffic Manager は無効になります。
また、AP クライアントモードは、AP モードに変更されます。
IPv6 の HTTPS はサポートしていません。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

Advanced Settings (詳細設定)

Performance (性能設定)

1. 「Advanced Settings」 > 「Performance」 の順でクリックし、以下の画面を表示します。

図 4-12 Performance Settings 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Wireless band	「2.4GHz」または「5GHz」を選択します。
Wireless	無線機能を「On」または「Off」にします。
Wireless Mode	無線のモードを選択します。 選択肢： 2.4GHz の場合：「Mixed 802.11n, 802.11g and 802.11b」「Mixed 802.11g and 802.11b」「802.11 Only」 5GHz の場合：「Mixed 802.11n, 802.11a」「802.11a only」「802.11n Only」 レガシークライアント（802.11a/g/b）向けに互換性がある場合は、802.11n 規格の無線性能は低下します。
Data Rate	無線 LAN における無線アダプタのベース転送速度を設定します。 「Mixed 802.11g and 802.11b」モード (2.4GHz) と「802.11a only」モード (5GHz) を選択した場合に有効です。 選択肢： 2.4GHz の場合：54、48、36、24、18、12、9、6、11、5.5、2、1 5GHz の場合：54、48、36、24、18、12、9、6 ・本製品のベース転送速度は接続しているデバイスのベース転送速度に左右されます。 ・障害や混信がある場合、本製品の転送速度は低下します。 ・本項目は、[Wireless Mode] で [802.11a Only][Mixed 802.11g and 802.11b] (レガシークライアント) を選択した場合のみ設定できます。それ以外の場合は [Best (Up to 300)] となります。

項目	説明
Beacon Interval (40-500)	ビーコンの送信間隔 (単位: ミリ秒) を設定します。 初期値: 100 (推奨) 設定可能範囲: 40-500 ビーコンとはアクセスポイントからネットワークとの同期をとるために送信するパケットの間隔です。ビーコン送信間隔を長く設定すると、無線クライアントのパワーの節約になり、短く設定すると、無線クライアントがアクセスポイントに速く接続できるようになります。
DTIM Interval (1-15)	DTIM (Delivery Traffic Indication Message) の間隔を指定します。 DTIM とは省電力モードの無線クライアントに対して、パケットが送信待ちであることを伝えるメッセージです。 初期値: 1 設定可能範囲: 1-15
Transmit Power	無線の出力を設定します。 初期値: 100% 選択肢: 100%、50%、25%、12.5% 出力を調整すると、2つのアクセスポイント間の干渉による無線適用範囲の重複を削減することができます。 例えば無線適用範囲がエリアの半分をカバーしている場合は、50%を選択します。
WMM (Wi-Fi Multimedia)	WMM (Wi-Fi Multimedia) を「Enable」(有効) または「Disable」にします。 本設定を有効にすると、Wi-Fi ネットワークを使用して快適にオーディオやビデオアプリケーションを利用できるようになります。
Ack Time Out (2.4 GHz, 48~200) または Ack Time Out (5 GHz, 25~200)	効率的に長距離のスループットを最適化するために、「Acknowledgement Time Out」の値を入力します。 選択肢: 5GHz の場合: 25 ~ 200 (μs) 2.4GHz の場合: 48 ~ 200 (μs)
Short GI	Short Guard Interval を「Enable」(有効) または「Disable」(無効) にします。 ガードインタバルを短く設定するとスループットが増加しますが、同時に無線周波数の感度が上がることで設置のエラー率が増加する場合がありますので、ご注意ください。
IGMP Snooping	IGMP スヌーピングを「Enable」(有効) または「Disable」(無効) にします。 IGMP(Internet Group Management Protocol) Snooping 機能を利用すると、アクセスポイントはルータと IGMP ホスト間で送信される IGMP クエリと IGMP レポートを認識できるようになります。本機能が有効な場合、アクセスポイントを通過した IGMP メッセージに基づき、ホストにマルチキャストパケットを送信します。
Multicast Rate	マルチキャストパケットデータの割合を設定します。 マルチキャストレートは AP モード (2.4 GHz and 5 GHz) とマルチ SSID のある WDS with AP モードでサポートしています。
Multicast Bandwidth Control	「Enable」(有効) または「Disable」(無効) を選択します。 「Enable」: マルチキャストの最大帯域幅を設定します。 「Disable」: マルチキャストの最大帯域幅を設定しません。 • Maximum Multicast Bandwidth マルチキャスト最大帯域幅を設定します。 初期値: 100 (kbps)
HT20/40 Coexistence	「Enable」(有効) または「Disable」(無効) を選択します。 「Enabled」(有効) にすると、「20MHz」と「40MHz」を混在させます。
Transfer DHCP Offer to Unicast	ユニキャストへの DHCP オファーを有効または無効にします。 選択肢: [Enable] (有効) [Disable] (無効)

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

Wireless Resource Control (ワイヤレスリソースコントロール)

ワイヤレス接続設定を行い、デバイスがより適したワイヤレス接続を検知できるようにします。

1. [Advanced Settings] > [Wireless Resource] を選択します。
2. 以下の画面で設定を行います。

Wireless Resource Control	
Wireless band	2.4GHz ▼
Band Steering	Disable ▼
Band Steering Age	180 (s)
Band Steering Difference	2
Band Steering Refuse Number	3
Connection Limit	Disable ▼
User Limit (0 - 64)	20
11n Preferred	Disable ▼
Network Utilization	100% ▼
Aging out	Disable ▼
RSSI Threshold	100% ▼
Data Rate Threshold	54 ▼
ACL RSSI	Disable ▼
ACL RSSI Threshold	100% ▼

Save

Wireless band	周波数帯を [2.4GHz] または [5GHz] から選択します。
Band Steering	<p>バンドステアリングの設定を行います。 本機能は周波数帯を [2.4GHz] に設定した場合は使用できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Band Steering Age : 情報をアップデートする間隔 (秒) を指定します。 • Band Steering Difference : 「5GHz 帯域クライアント数」マイナス「2.4GHz 帯域クライアント数」の数値を設定します。 差分のクライアント数がこの値を超過した場合、5GHz 帯域のクライアントは、強制的に 2.4GHz 帯域へ接続されます。 • Band Steering Refuse Number : 5GHz 帯域へのクライアント接続数が本項目で設定した値を超過すると、バンドステアリング機能が無効になります。 バンドステアリングは、ワイヤレスクライアントが 2.4GHz と 5GHz の両方をサポートしている場合、2.4GHz のシグナルの強さが十分でないときに、クライアントを 5GHz に誘導する機能です。
Connect Limit	<p>接続するユーザ数の制限を行うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Connection Limit : 接続制限を [Enable] (有効) または [Disable] (無効) に設定します。 • User Limit (0-64) : 接続可能なユーザ数を 0-64 から指定します。 • 11n Preferred : [Enable] (有効) または [Disable] (無効) を選択します。 有効にすると、11n クライアントの接続が優先されます。 • Network Utilization : 最大ネットワーク使用率を 100%、80%、60%、40%、20%、0% から選択します。

Aging out	<p>ワイヤレスクライアントを切断する基準を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Aging out : エージングアウトを [RSSI][Data Rate] または [Disable] (無効) に設定します。 • RSSI Threshold : RSSI のしきい値を 10%～ 100%間で指定します。 • Data Rate Threshold : データレートのしきい値を 6、9、12、18、24、36、48、54 から指定します。
ACL RSSI	<p>ACL RSSI を有効または無効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ACL RSSI : ACL RSSI を [Enable] (有効) または [Disable] (無効) に設定します。 • ACL RSSI Threshold : ACL RSSI のしきい値を 10%～ 100%間で指定します。

Multi-SSID (マルチ SSID 設定)

マルチ SSID の設定を行います。本製品は最大 8 個の SSID をサポートしています。

1. 「Advanced Settings」 > 「Multi-SSID」の順でクリックし、以下の画面を表示します。

図 4-13 Multi-SSID Settings 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Enable Multi-SSID	マルチ SSID を有効にします。
Enable Priority	SSID の優先機能を有効にします。 有効にすると画面下部「Priority」で 0 から 7 までの優先値を SSID に設定できます。
Wireless Settings	
Band	「2.4GHz」または「5GHz」を選択します。
Index	マルチ SSID を選択します。 選択肢：「Primary SSID」「1」「2」「3」「4」「5」「6」「7」
SSID	SSID を入力します。 初期値：dlink SSID(Service Set Identifier) は無線 LAN グループに割り当てる識別名です。 SSID を入力すると、既存または新規の無線 LAN への登録を簡単に行うことができます。
SSID Visibility	「Enable」(有効)または「Disable」(無効)にします。 有効にすると SSID がネットワーク上にブロードキャストされ、すべてのネットワークユーザから閲覧できます。

項目	説明
Security	マルチ SSID のセキュリティを設定します。 選択肢 : 「Open System」「WPA-Personal」「WPA-Enterprise」「802.1X」 セキュリティの種類によって、表示される設定項目が異なります。各設定項目の詳細は以下を参照してください。 Open System または Shared Key WPA-Personal WPA-Enterprise 802.1X
Priority	「Enable Priority」を有効にした場合、「0-7」までの間で SSID の優先値を設定します。
WMM (Wi-Fi Multimedia)	WMM (Wi-Fi Multimedia) を「Enable」(有効)または「Disable」(無効)にします。

● SSID の追加を行う場合 :

「Index」を選択し、「SSID」に識別名を入力 → 「Add」をクリックして新しい SSID を追加します。

● SSID の削除を行う場合 :

削除する SSID の「Delete」欄の  アイコンをクリックします。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

VLAN (VLAN 設定)

本製品は VLAN をサポートしています。

VLAN は、名前、VID.Mgmt(TCP スタック)、LAN、プライマリ / マルチ SSID で作成され、WDS 接続は物理ポートとして VLAN に割り当てることが可能です。VLAN タグなしで本製品に送信されたパケットには、すべて PVID を持つ VLAN タグが付けられます。

1. 「Advanced Settings」 > 「VLAN」 > タブの順でクリックし、以下の画面を表示します。

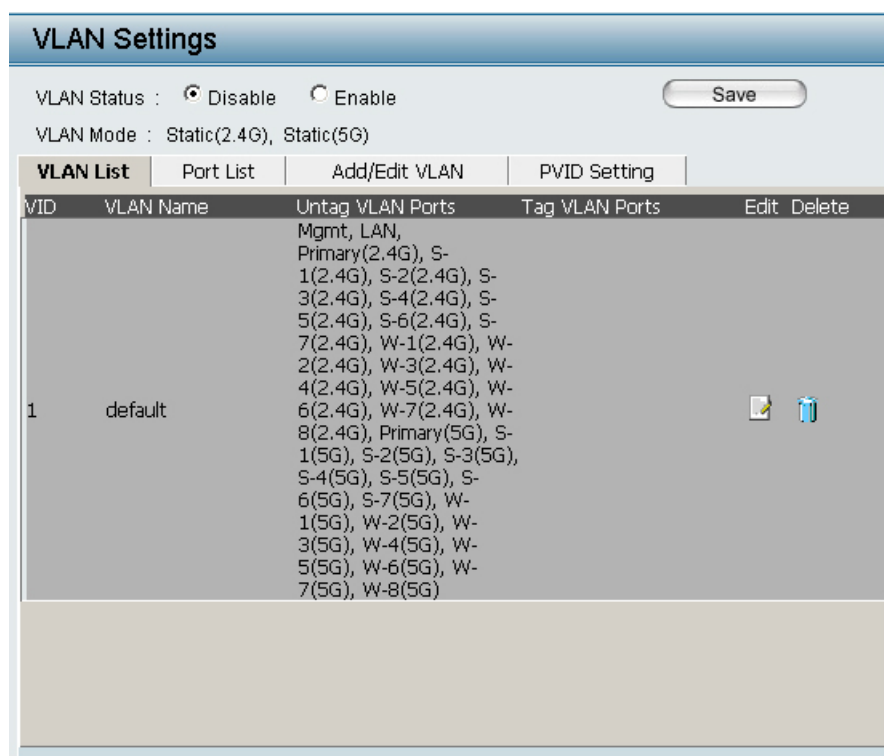


図 4-14 VLAN Settings 画面

2. 「VLAN Status」を「Enable」(有効)または「Disabled」(無効)にします。
3. 「VLAN List」「Port List」「Add/Edit VLAN」「PVID Settings」タブで必要な設定を行います。
各タブの設定項目については以下を参照してください。
 - [VLAN List タブ](#)
 - [Port List タブ](#)
 - [Add/Edit VLAN タブ](#)
 - [PVID Setting タブ](#)
4. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

VLAN List タブ

現在の VLAN のリストが表示されます。

1. 「Advanced Settings」 > 「VLAN」 > 「VLAN List」 タブの順でクリックし、以下の画面を表示します。

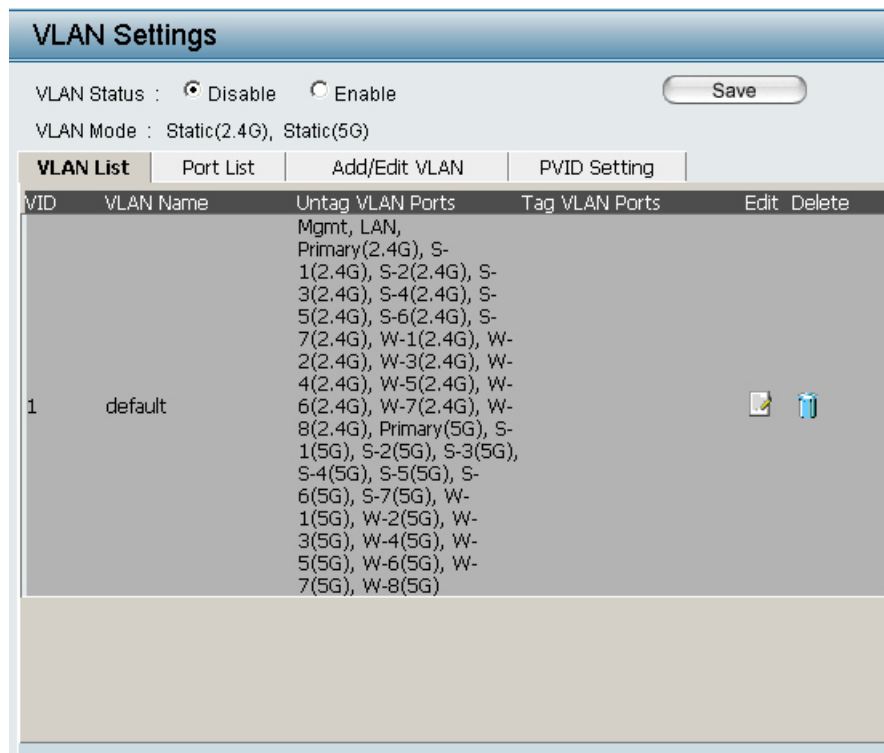



図 4-15 VLAN Settings (VLAN List) 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ タブに表示される項目

項目	説明
VID	VID が表示されます。
VLAN Name	VLAN 名が表示されます。
Untag VLAN Ports	タグなし VLAN ポートが表示されます。
Tag VLAN Ports	タグ付き VLAN ポートが表示されます。
Edit Delete	アイコンをクリックし、VLAN の編集 / 削除を行います。

● VLAN の編集を行う場合：

編集する VLAN の「Edit」欄の  アイコンをクリック → 「Add/Edit VLAN」タブに設定内容が表示されます。内容を編集し、「Save」ボタンをクリックします。

● VLAN の削除を行う場合：

削除する VLAN の「Delete」欄の  アイコンをクリックします。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

Port List タブ

現在のポートを表示します。

VLAN にゲストネットワークと内部ネットワークを設定するためには、使用しているスイッチと DHCP サーバが VLAN をサポートしている必要があります。事前にスイッチのポートが IEEE 802.1Q 定義の VLAN タグ付きパケットをサポートする設定を行ってください。

1. 「Advanced Settings」 > 「VLAN」 > 「Port List」 タブの順でクリックし、以下の画面を表示します。

VLAN Settings			
VLAN Status : <input checked="" type="radio"/> Disable <input type="radio"/> Enable		<input type="button" value="Save"/>	
VLAN Mode : Static(2.4G), Static(5G)			
VLAN List	Port List	Add/Edit VLAN	PVID Setting
Port Name	Tag VID	Untag VID	PVID
Mgmt		1	1
LAN		1	1
Primary(2.4G)		1	1
Primary(5G)		1	1
S-1(2.4G)		1	1
S-2(2.4G)		1	1
S-3(2.4G)		1	1
S-4(2.4G)		1	1
S-5(2.4G)		1	1
S-6(2.4G)		1	1
S-7(2.4G)		1	1
W-1(2.4G)		1	1
W-2(2.4G)		1	1
W-3(2.4G)		1	1
W-4(2.4G)		1	1
W-5(2.4G)		1	1
W-6(2.4G)		1	1
W-7(2.4G)		1	1
W-8(2.4G)		1	1
S-1(5G)		1	1
S-2(5G)		1	1
S-3(5G)		1	1
S-4(5G)		1	1
S-5(5G)		1	1
S-6(5G)		1	1
S-7(5G)		1	1
W-1(5G)		1	1
W-2(5G)		1	1
W-3(5G)		1	1
W-4(5G)		1	1
W-5(5G)		1	1
W-6(5G)		1	1
W-7(5G)		1	1
W-8(5G)		1	1

図 4-16 VLAN Settings (Port List) 画面

■ タブに表示される項目

項目	説明
Port Name	ポート名が表示されます。
Tag VID	タグ付き VID が表示されます。
Untag VID	タグなし VID が表示されます。
PVID	ポート VLAN 識別子が表示されます。

Add/Edit VLAN タブ

VLAN の追加と編集を行います。

1. 「Advanced Settings」 > 「VLAN」 > 「Add/Edit VLAN」 タブの順でクリックし、以下の画面を表示します。

図 4-17 VLAN Settings(Add/Edit VLAN) 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。


■ タブに表示される項目

項目	説明
VLAN ID (VID)	内部 VLAN 用に 1 から 4094 までの番号を入力します。
VLAN Name	追加または変更する VLAN 名を入力します。
Port / MDDIS Port / WDS Port	<ul style="list-style-type: none"> • Untag - ポートをタグなしとして定義します。 • Tag - ポートをタグ付きとして定義します。 • Not Member - ポートが VLAN メンバでないことを定義します。

● VLAN の追加を行う場合：

1. 「VLAN Status」を「Enable」にします。
2. 「VLAN ID (VID)」に識別番号、「VLAN Name」に識別名を入力します。
3. 「Add」ボタンをクリックし、新しい VLAN を追加します。

● VLAN の編集を行う場合：

1. 「VLAN List」タブで編集する VLAN の  アイコンをクリックします。「Add/Edit VLAN」タブに設定内容が表示されます。
 2. 設定を変更し、「Save」ボタンをクリックして設定内容を適用します。
3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

PVID Setting タブ

PVID 自動割り当て設定と、PVID 設定を行います。

1. 「Advanced Settings」>「VLAN」>「PVID Settings」タブの順でクリックし、以下の画面を表示します。

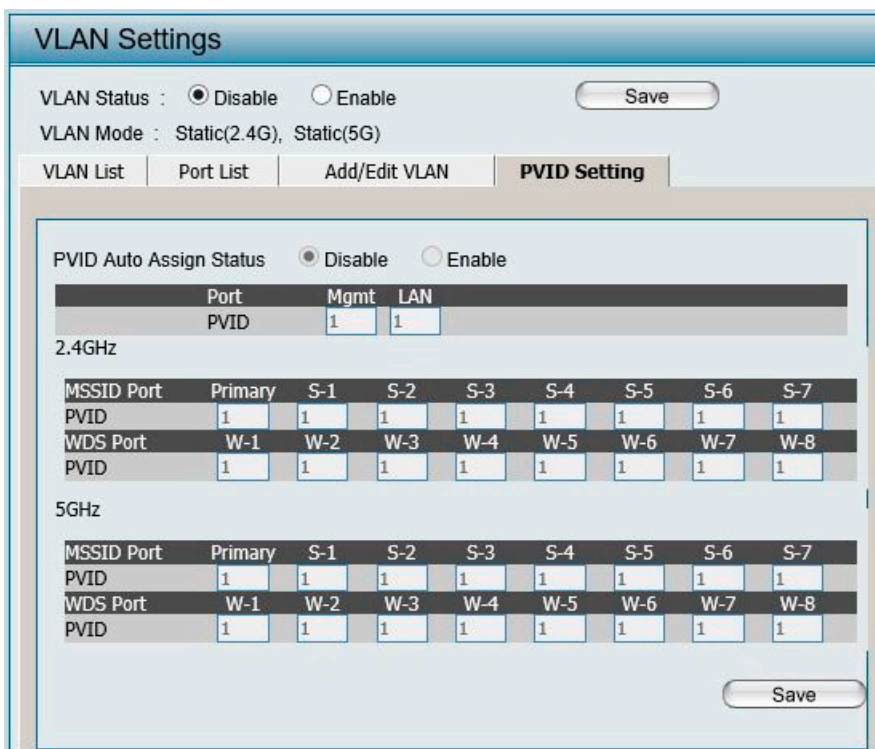


図 4-18 VLAN Settings (PVID) 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ タブに表示される項目

項目	説明
PVID Auto Assign Status	PVID 自動割り当て設定を「Enable」(有効)または「Disable」(無効)にします。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

Intrusion (侵入検知設定)

無線の侵入検知設定をします。

1. 「Advanced Settings」 > 「Intrusion」の順でクリックし、以下の画面を表示します。



図 4-19 Wireless Intrusion Protection 画面

2. 「AP List」下のドロップダウンリストで、検出するアクセスポイントの種類を選択します。
選択肢: 「All」(すべて)、「Valid」(有効)、「Neighbor」(隣接)、「Rogue」(不正)、「New」(新規)
3. 「Detect」をクリックし、アクセスポイントを検出します。
4. 必要に応じて、検出したアクセスポイントの種類を設定します。
 1. 設定するアクセスポイントにチェックをいれます。
 2. 以下から種類を選択します。
 - 「Set as Valid」: 有効なアクセスポイントとして設定します。
 - 「Set as Neighbor」: 隣接するアクセスポイントとして設定します。
 - 「Set as Rogue」: 不正なアクセスポイントとして設定します。
 - 「Set as New」: 新規のアクセスポイントとして設定します。
 - 「Mark All New Access Points as Valid Access Points」: すべてのアクセスポイントを有効なアクセスポイントとして設定します。
 - 「Mark All New Access Points as Rogue Access Points」: すべてのアクセスポイントを不正なアクセスポイントとして設定します。
5. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

Schedule (スケジュール設定)

本製品の無線機能に対してスケジュールルールの追加、変更を行います。

1. 「Advanced Settings」 > 「Schedule」の順でクリックし、以下の画面を表示します。

図 4-20 Wireless Schedule Settings 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。


■ 画面に表示される項目

項目	説明
Wireless Schedule	スケジューリング機能を「Enable」(有効)または「Disable」(無効)にします。
Add Schedule Rule	
Name	新しいスケジューリングルールの名前を入力します。
Index	設定対象の SSID を選択します。
SSID	現在使用中の SSID を表示されます。 新しい SSID を作成する場合は Basic Settings > Wireless から設定します。
Day(s)	「All Week」または「Select Day(s)」を選択します。 「Select Day(s)」を選択した場合、ルールを適用したい曜日を指定します。
All Day(s)	このボックスをチェックすると、1日24時間設定を適用します。
Start Time	開始時間(時:分、24時制)を指定します。
End Time	終了時間(時:分、24時制)を指定します。
Overnight	設定した開始時間/終了時間が日付をまたぐ場合にチェックします。
Schedule Rule List	
スケジュールルールのリストが表示されます。	


● **スケジュールルールの追加を行う場合：**

1. 「Add Schedule Rule」欄内の設定項目を入力します。
設定内容を消去する場合は「Clear」をクリックします。
2. 「Add」をクリックし、ルールを追加します。

● **スケジュールルールの編集を行う場合：**

1. 「Schedule Rule List」欄で編集するルールの  アイコンをクリックします。
2. 「Add Schedule Rule」欄内の設定項目を編集します。
3. 「Add」をクリックし、設定内容を保存します。

● **スケジュールルールの削除を行う場合：**

1. 「Schedule Rule List」欄で削除するルールの  アイコンをクリックします。
2. 確認画面が表示されるので、「OK」をクリックします。
3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

Internal RADIUS Server (内蔵 RADIUS サーバ機能)

DAP-2690 に内蔵されている RADIUS サーバ機能の設定を行います。

1. 「Advanced Settings」 > 「AP Array」の順でクリックし、以下の画面を表示します。

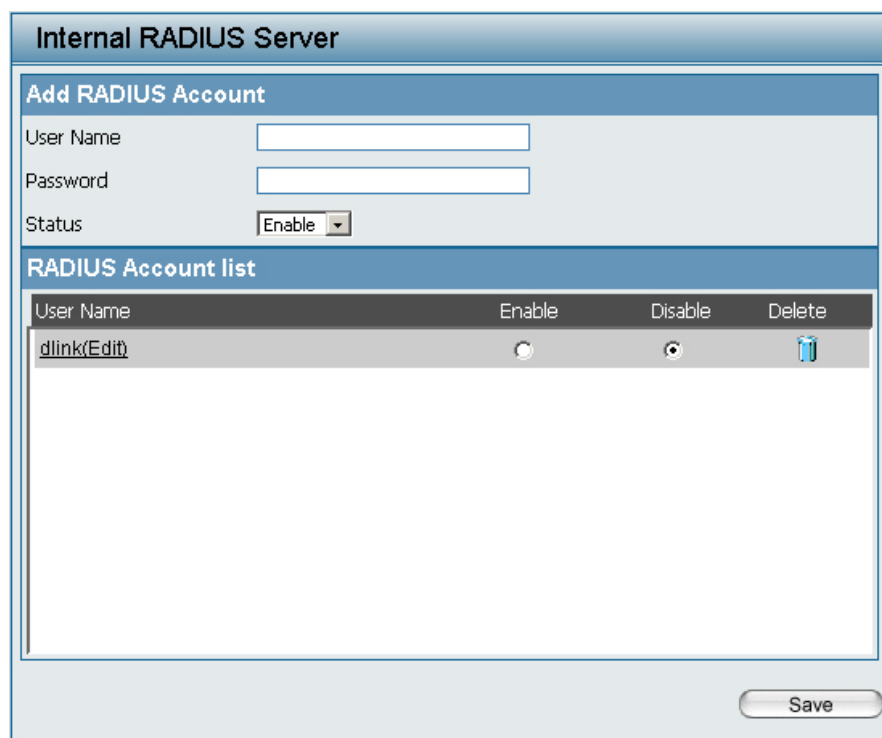


図 4-21 Internal RADIUS Server 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Add Radius Account	
User Name	内蔵 RADIUS サーバへのアクセス権限のあるユーザ名を入力します。
Password	内蔵 RADIUS サーバへのアクセス権限のあるユーザのパスワードを入力します。 入力可能文字数：8~64 字以内。

項目	説明
Status	「Enable」(有効)「Disable」(無効)を選択します。
Radius Account List	
RADIUS アカウントのリストが表示されます。	
User Name	登録したユーザ名が表示されます。
Enable/Disable	チェックをいれてステータスを「Enable」(有効)または「Disable」(無効)にします。
Delete	アイコンをクリックすると、RADIUS アカウントを削除できます。


● RADIUS アカウントの追加を行う場合：

1. 「Add Radius Account」欄で、アカウントの設定を入力します。
2. 「Save」をクリックします。

● RADIUS アカウントの編集を行う場合：

1. 「RADIUS Account List」欄で「User Name」欄のリンクをクリックします。
2. 「Add RADIUS Account」欄で編集を行います。
3. 「Save」をクリックします。

● RADIUS アカウントの削除を行う場合：

1. 「RADIUS Account List」欄で削除するアカウントの  アイコンをクリックします。
2. 確認画面が表示されるので、「OK」をクリックします。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

注意 登録するアカウント数は 30 以内をお勧めします。

ARP Spoofing Prevention Settings (ARP スプーフィング防止設定)

ARP スプーフィング防止の設定を行います。

不正な IP または MAC アドレスをフィルタすることで、ネットワークにおける ARP スプーフィングを防止します。

1. 「Advanced Settings」> 「ARP Spoofing Prevention」の順でクリックし、以下の画面を表示します。

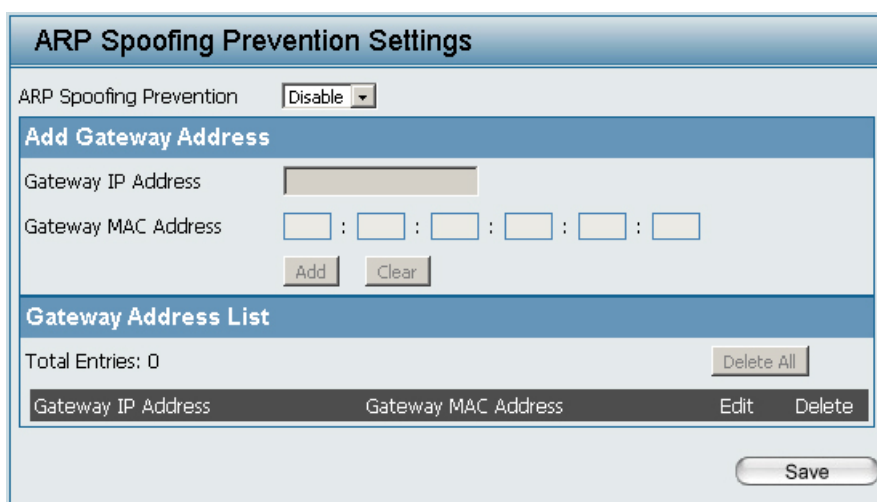


図 4-22 ARP Spoofing Prevention Settings 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。


■ 画面に表示される項目

項目	説明
ARP Spoofing Prevention	ARP スプーフィング防止設定を「Enable」(有効)または「Disabled」(無効)にします。
Add Gateway Address	
Gateway IP Address	ゲートウェイ IP アドレスを入力します。
Gateway MAC Address	ゲートウェイ MAC アドレスを入力します。
Gateway Address List	
ゲートウェイアドレスのリストが表示されます。	


● ゲートウェイアドレスの追加を行う場合：

1. 「Add Gateway Address」欄で、IP アドレスと MAC アドレスを入力します。
入力内容を消去するには、「Clear」をクリックします。
2. 「Add」をクリックします。

● ゲートウェイアドレスの編集を行う場合：

1. 「Gateway Address List」欄で、編集するゲートウェイアドレスの  アイコンをクリックします。
2. 「Add Gateway Address」欄で IP アドレスと MAC アドレスを編集します。
3. 「Add」をクリックします。

● ゲートウェイアドレスの削除を行う場合：

1. 「Gateway Address List」欄で、削除するアカウントの  アイコンをクリックします。
「Delete All」をクリックすると、すべてのエントリを消去できます。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

Bandwidth Optimization (帯域幅最適化)

帯域幅最適化機能を使用すると、本製品およびワイヤレスクライアントの帯域幅を管理することができます。本項目では、帯域幅最適化機能の設定方法について説明します。

1. [Advanced Settings] > [Bandwidth Optimization] をの順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

Bandwidth Optimization

Enable Bandwidth Optimization

Downlink Bandwidth Mbits/sec

Uplink Bandwidth Mbits/sec

Add Bandwidth Optimization Rule

Rule Type

Band

SSID Index

Downlink Speed Kbits/sec

Uplink Speed Kbits/sec

Bandwidth Optimization Rules

Band	Type	SSID Index	Downlink Speed	Uplink Speed	Edit	Del
------	------	------------	----------------	--------------	------	-----

図 4-23 Bandwidth Optimization 画面図


■ 画面に表示される項目

項目	説明
Enable Bandwidth Optimization	帯域幅最適化を有効または無効にします。 • 選択肢 : [Enable] (有効) [Disable] (無効)
Downlink Bandwidth	ダウンリンクの帯域幅を入力します。 単位 : Mbits (秒)
Uplink Bandwidth	アップリンクの帯域幅を入力します。 単位 : Mbits (秒)
Add Bandwidth Optimization Rule	帯域幅最適化ルールの追加・編集を行います。 Rule Type : 以下からルールタイプを指定します。 Allocate average BW for each station 各クライアントに平均の帯域を割り当てます。 Allocate maximum BW for each station 各クライアントに最大の帯域を割り当てます。 Allocate different BW for a/b/g/n stations a/b/g/n のクライアントに異なる帯域を割り当てます。 ・ 11b/g/n クライアント : 10% / 20% / 70% ・ 11a/n クライアント : 20% / 80% Allocate specific BW for SSID すべてのクライアントで全体の帯域幅をシェアします。 Band : 帯域幅を [2.4GHz] または [5GHz] から選択します。 SSID Index : ドロップダウンリストから対象の SSID を選択します。 Downlink Speed : ダウンリンクの速度を設定します。単位は Kbit (秒) または Mbits (秒) から選択できます。 Uplink Speed : アップリンクの速度を設定します。単位は Kbit (秒) または Mbits (秒) から選択できます。 Add : 設定を追加します。 Clear : 設定した内容を取り消します。
Bandwidth Optimization Rules	作成したルールのリストが表示されます。

帯域幅最適化ルールを削除する場合 :

1. [Bandwidth Optimization Rules] 欄の  アイコンをクリックします。

帯域幅最適化ルールを編集する場合 :

1. [Bandwidth Optimization Rules] の  アイコンをクリックします。
 2. [Add Bandwidth Optimization Rule] でルールを編集します。
 3. [Add] をクリックして設定を保存します
2. [Save] をクリックして設定を保存します。

AP Array Scan (AP アレイスキャン)

ネットワーク上の複数のアクセスポイントに AP アレイを設定します。ひとつのグループとして設定することで、アクセスポイントの管理をより簡素化します。

1. 「Advanced Settings」 > 「AP Array」の順でクリックし、以下の画面を表示します。

図 4-24 AP Array Scan 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Enable AP Array	チェックボックスにチェックを入れて「AP アレイ」機能を有効にします。 「Master」「Backup Master」「Slave」の3つのモードから選択します。同じアレイに存在する AP は同様の設定を行います。「Slave AP」と「Backup Master AP」がアレイに参加すると「Master AP」はこれらの AP と同調します。
AP Array Name	作成した「AP アレイ」名を入力します。
AP Array Password	作成した「AP アレイ」のパスワードを入力します。
Scan AP Array List	クリックしてネットワーク上にある AP を検索します。
Connection Status	現在の AP アレイの状態を表示します。

注意 「AP Array」についての詳しい説明は、[付録 D AP アレイについて](#)を参照ください。

注意 AP Array 機能は、同一機種間、同一ファームウェアバージョン間のみサポートされます。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

AP Array Configuration (AP アレイ設定)

AP アレイで同期を行う項目を選択します。

1. Advanced Settings > AP Array > AP Array Configuration の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

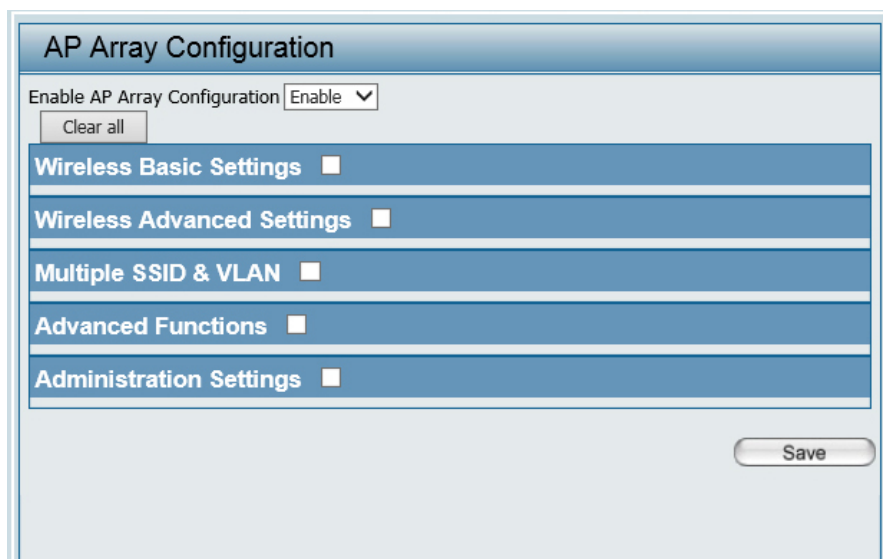


図 4-25 AP Array Configuration 画面

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Enable AP Array Configuration	AP アレイ設定を「Enable」(有効) または「Disable」(無効) にします。
Clear All	選択した項目をすべて取り消します。
Wireless Basic Settings	以下から同期を行う項目を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • Network Name (SSID) • Channel Width • SSID Visibility • Security • Auto Channel Selection
Wireless Advanced Settings	以下から同期を行う項目を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • Wireless • Beacon Interval • WMM (Wi-Fi Multimedia) • Connection Limit • Wireless Mode • DTIM Interval • Ack Time Out • IGMP Snooping • Data Rate • Transmit Power • Short GI
Multiple SSID & VLAN	以下から同期を行う項目を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • SSID • WMM • SSID Visibility • VLAN • Security
Advanced Functions	以下から同期を行う項目を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • Schedule Settings • Time and Date Settings • Captive Portal • DHCP server Settings • QoS Settings • ARP Spoofing Prevention • Auto RF • Link Integrity • Log Settings • Bandwidth Optimization • Load Balance • Wireless ACL
Administration Settings	以下から同期を行う項目を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • System Name Settings • Console Settings • SNMP Settings • Ping Control Setting • Login Settings

2. 「Save」 をクリックし、設定内容を保存します。

Auto-RF (自動 RF)

自動 RF の有効・無効を選択します。

有効にした場合は、自動初期化の周期や RSSI しきい値などの設定を行います。

自動 RF は、AP Array Scan(AP アレイスキャン)画面で AP アレイの設定を Slave にした場合は有効にできません。

1. Advanced Settings > AP Array > Auto-RF の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

図 4-26 Auto-RF 画面

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Enable Auto-RF	自動 RF を「Enable」(有効) または「Disable」(無効) にします。
Initiate Auto-RF	自動 RF の初期化を行います。
Auto-Initiate	自動 RF の自動初期化を「Enable」(有効) または「Disable」(無効) にします。
Auto-Initiate Period	自動 RF の自動初期化を有効にした場合、自動的に初期化を行う周期を指定します。(単位: 時間)
RSSI Threshold	RSSI しきい値を選択します。
RF Report Frequency	RF リポートを行う頻度を入力します。(単位: 秒)

Load Balance (ロードバランス)

AP アレイのロードバランスの有効・無効を選択します。有効にした場合はしきい値の設定を行います。

1. Advanced Settings > AP Array > Load Balance の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。



図 4-27 Load Balance 画面

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Enable Load Balance	ロードバランスを「Enable」(有効) または「Disable」(無効) にします。
Active Threshold	しきい値を入力します。

2. 「Save」 をクリックし、設定内容を保存します。

Captive Portal (キャプティブポータル)

キャプティブポータルは、Web 認証を行う機能です。

認証されていないクライアントがアクセスポイントに接続すると、Web ブラウザによって認証画面へリダイレクトされます。

Captive Portal Authentication (キャプティブポータル認証)

キャプティブポータル認証の暗号化タイプを選択し、各暗号化タイプごとに必要な設定を行います。

1. Advanced Settings > Captive Portal > Captive Portal Authentication の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

図 4-28 Captive Portal Authentication 画面

2. 「Authentication Type」で暗号化タイプを選択します。

- ・ 67 ページの「暗号化タイプを[Web Redirection Only]にした場合」
- ・ 68 ページの「暗号化タイプを[Passcode]にした場合」
- ・ 69 ページの「暗号化タイプを[Username/Password]にした場合」
- ・ 70 ページの「暗号化タイプを[Remote RADIUS]にした場合」
- ・ 72 ページの「暗号化タイプを[LDAP]にした場合」
- ・ 73 ページの「暗号化タイプを[POP3]にした場合」

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Session timeout(1-1440)	セッションのタイムアウトを 1 から 1440 秒までの値で設定します。 初期値：60 秒
Band	周波数帯が表示されます。本製品の場合は [2.4GHz] です。
SSID Index	認証する SSID を設定します。
Authentication Type	キャプティブポータル認証の暗号化タイプを設定します。 選択肢：[Web Redirection Only][Username/Password][Passcode][Remote RADIUS][LDAP][POP3]
Web Redirection State	Web リダイレクションのステートを [Enable](有効) または [Disable](無効) に設定します。 初期値：[Disable]
URL Path	[http://] または [https://] を設定し、Web サイトの URL を入力します。


IP Interface Settings	
IRIF Status	キャプティブポータルの IP インタフェースを [Enable](有効) または [Disable](無効) に設定します。 初期値 : [Enable]
VLAN Group	VLAN Group ID を入力します。
Get IP From	IP アドレスの取得方法を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [Static IP (Manual)]: 固定の IP アドレスを手動で設定します。 [Dynamic (DHCP)]: DHCP サーバを使用して IP アドレスを設定します。 本製品の IP アドレスは、DHCP サーバから自動的に取得されます。[Dynamic (DHCP)] を選択した場合、その他の項目の設定は不要です。
IP Address	IP アドレスを入力します。
Subnet Mask	サブネットマスクを入力します。
Gateway	ゲートウェイの IP アドレスを入力します。
DNS	Domain Name System (DNS) サーバのアドレスを入力します。

3. 画面下部の「Save」をクリックして、手順 2 で設定した内容を保存します。

キャプティブプロフィール削除する場合：

1. [Delete] 欄の  アイコンをクリックします。

キャプティブプロフィールを編集する場合：

1. [Edit] 欄の  アイコンをクリックします。
2. 設定を編集します。
3. [Save] をクリックして設定を保存します。

暗号化タイプを [Web Redirection Only] にした場合

Web リダイレクトを使用して認証を行います。

- WEB リダイレクトとは、サイトにアクセスしようとしたユーザーを、最初にリクエストされた URL とは別の URL に移動させることです。クライアントは、キャプティブポータルによる認証の際に本項目で設定した Web サイトにリダイレクトされます。

1. 以下の画面で Web リダイレクトの設定を行います。

The screenshot shows the 'Captive Portal Authentication' configuration interface. The 'Authentication Type' is set to 'Web Redirection Only'. Under 'Web Redirection Interface Settings', 'Web Redirection State' is 'Enable' and 'URL Path' is 'http://'. The 'IP Interface Settings' section is currently disabled. A 'Save' button is located at the bottom right of the form area. Below the form is a table with columns for 'Band', 'SSID Index', 'Captive Profile', 'Edit', and 'Delete'.

Band	SSID Index	Captive Profile	Edit	Delete
------	------------	-----------------	------	--------

図 4-29 Captive Portal Authentication-Web Redirection Only 画面

暗号化タイプを [Passcode] にした場合

パスコードを使用して認証を行います。

1. 以下の画面でパスコードの設定を行います。

図 4-30 Captive Portal Authentication-Passcode 画面

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Passcode Quantity	生成するパスコードの数を設定します。
Duration	生成したパスコードを有効にする時間を設定します。
Last Active Day	生成したパスコードが有効となる最終日（年 / 月 / 日付 / 時間）を設定します。
User Limit	生成したパスコードを利用できるユーザ数の上限を設定します。
Add	設定した内容を追加します。
Clear	設定した内容を取り消します。
Delete All	設定したパスコードすべてを削除します。

2. [Add] をクリックしてパスコード設定を追加します。

生成されたパスコードは以下のように表示されます。

Passcode	Duration	Last Active Time	User Limit	Dele
31914596	1	2015-01-01 01:00	3	
00249404	1	2015-01-01 01:00	3	
72913612	1	2015-01-01 01:00	3	

パスコード設定を削除する場合：

1. [Delete] 欄の アイコンをクリックします。

暗号化タイプを [Username/Password] にした場合

ユーザ名とパスワードを使用して認証を行います。

- 以下の画面でユーザ名とパスワードの設定を行います。

図 4-31 Captive Portal Authentication-Username/Password 画面

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Username/ Password Rule Settings	<p>アカウントの設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • User Name : アカウントのユーザ名を入力します。 • Password : アカウントのパスワードを入力します。 • Add : 設定した内容を追加します。 • Clear : 設定した内容を取り消します。

- [Add] をクリックしてユーザ名とパスワードの設定を追加します。

設定した内容は以下のように表示されます。

Username	Edit	Delete
dlink		

ユーザ名とパスワードの設定を削除する場合：

- 「Delete」欄の アイコンをクリックします。

ユーザ名とパスワードの設定を編集する場合：

- 「Edit」欄の アイコンをクリックします。
- 設定を編集します。
- 「Add」をクリックします。

暗号化タイプを [Remote RADIUS] にした場合

リモート RADIUS を使用して認証を行います。

- 以下の画面でユーザ名とパスワードの設定を行います。

図 4-32 Captive Portal Authentication-Remote RADIUS 画面

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Radius Server Settings	<p>RADIUS サーバの設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Radius Server : RADIUS サーバの IP アドレスを入力します。 • Radius Port : RADIUS サーバのポートを入力します。 初期値 : 1812 • Radius Secret: RADIUS シークレット (パスワード) を入力します。 • Remote Radius Type: リモート RADIUS のタイプを選択します。 選択肢 : [SPAP][MS-CHAPv2]

Secondary radius Server Settings	RADIUS サーバの設定を行います。 <ul style="list-style-type: none">• Radius Server : RADIUS サーバの IP アドレスを入力します。• Radius Port : RADIUS サーバのポートを入力します。 初期値 : 1812• Radius Secret: RADIUS シークレット (パスワード) を入力します。• Remote Radius Type: リモート RADIUS のタイプを選択します。 選択肢 : [SPAP][MS-CHAPv2]
Third radius Server Settings	RADIUS サーバの設定を行います。 <ul style="list-style-type: none">• Radius Server : RADIUS サーバの IP アドレスを入力します。• Radius Port : RADIUS サーバのポートを入力します。 初期値 : 1812• Radius Secret: RADIUS シークレット (パスワード) を入力します。• Remote Radius Type: リモート RADIUS のタイプを選択します。 選択肢 : [SPAP][MS-CHAPv2]

暗号化タイプを [LDAP] にした場合

LDAP サーバを使用して認証を行います。

- 以下の画面で LDAP サーバの設定を行います。

図 4-33 Captive Portal Authentication-LDAP 画面

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Server	LDAP サーバの IP アドレスまたはドメイン名を入力します。
Port	LDAP サーバのポートを入力します。 初期値：389
Authenticate Mode	認証モードを選択します。 選択肢：「Simple」「TLS」
Username	LDAP サーバアカウントのユーザ名を入力します。
Password	LDAP サーバアカウントのパスワードを入力します。
Base DN	管理者のドメイン名を入力します。
Account Attribute	LDAP アカウントに属するストリングを入力します。このストリングはクライアントの検索に使用されます。
Identity	アイデンティティのパスストリング全体を入力してください。 「Auto Copy」にチェックをいれると、自動的にパスが入力されます。

暗号化タイプを [POP3] にした場合

POP3 サーバを使用して認証を行います。

1. 以下の画面で POP3 サーバの設定を行います。

The screenshot displays the configuration interface for Captive Portal Authentication using POP3. The settings are organized into several sections:

- Authentication Type:** Set to POP3.
- Web Redirection Interface Settings:**
 - Web Redirection State: Enable
 - URL Path: http://
- IP Interface Settings:**
 - IPIF Status: Disable
 - VLAN Group: (empty)
 - Get IP From: Static IP(Manual)
 - IP Address: (empty)
 - Subnet Mask: (empty)
 - Gateway: (empty)
 - DNS: (empty)
- POP3 Settings:**
 - Server: (empty)
 - Port: 110
 - Connection Type: None

A **Save** button is located at the bottom right of the configuration area. Below the configuration area, there is a navigation bar with buttons for **Band**, **SSID Index**, **Captive Profile**, **Edit**, and **Delete**.

図 4-34 Captive Portal Authentication-POP3 画面

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Server	POP3 サーバの IP アドレスまたはドメイン名を入力します。
Port	LDAP サーバのポートを入力します。 初期値：110
Connection Type	接続モードを選択します。 選択肢：「None」「SSL/TLS」

Login Page Upload (ログイン画面アップロード)

キャプティブポータルのログイン画面に使用する画像をアップロードすることができます。

1. Advanced Settings > Captive Portal > Login Page Upload の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

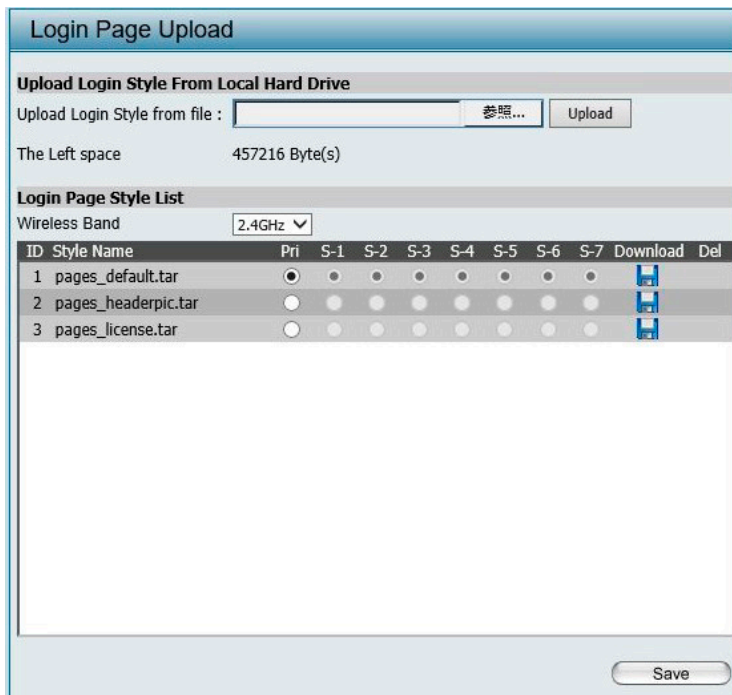


図 4-35 Login Page Upload 画面

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Upload Login Style From Local Hard Drive	<ul style="list-style-type: none"> • Upload Login Style from file: 「参照」をクリックし、アップロードする画像を選択します。[Upload] ボタンをクリックし、画像のアップロードを実行します。
Login Page Style	<ul style="list-style-type: none"> • [Wireless Band] 周波数帯を選択します。 選択肢 : [2.4GHz][5GHz] • [ID Style Name] 各 SSID で使用するファイルを選択します。 ファイルをダウンロードする場合は [Download] ボタン、削除する場合は [Del] を選択します。

2. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

IP Filter Settings (IP フィルタ)

IP アドレス (192.168.70.66 など) やネットワークアドレス (192.168.70.0 など) を使用してフィルタリングを行います。設定したアドレスはネットワークへのアクセスが無効になります。

1. Advanced Settings > Captive Portal > IP Filter Settings の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

図 4-36 IP Filter Settings 画面

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Wireless band	周波数帯を [2.4GHz] または [5GHz] に設定します。
SSID Index	SSID を選択します。
IP Address	IP アドレスまたはネットワークアドレスを入力します。
Subnet Mask	IP アドレスまたはネットワークアドレスのサブネットマスクを入力します。
Upload IP Filter File	IP フィルタリストのファイルをアップロードします。 [参照] をクリックして、IP フィルタリストのファイルを選択し [Upload] をクリックします。
Download IP Filter File	IP フィルタリストのファイルをダウンロードします。 [Download] をクリックしてファイルをダウンロードします。

2. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

MAC Bypass Settings (MAC Bypass 設定)

本項目では、MAC Bypass の設定方法について説明します。

1. Advanced Settings > Captive Portal > MAC Bypass Settings の順にメニューをクリックし、以下の画面を表示します。

図 4-37 MAC Bypass Settings 画面

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Wireless band	周波数帯を [2.4GHz] または [5GHz] に設定します。
SSID Index	SSID を選択します。
MAC Address	MAC アドレスを入力し、[Add] をクリックします。 追加した MAC アドレスは下の欄に表示されます。
Upload MAC File	MAC ファイルのアップロードを行います。 [参照] をクリックして MAC ファイルを選択し [Upload] をクリックします。
Download MAC File	[Download] をクリックし MAC ファイルのダウンロードを行います。

2. 「Save」 をクリックし、設定内容を保存します。

DHCP Server (DHCP サーバ設定)

Dynamic Pool Setting (ダイナミックプール設定)

DHCP アドレスプールは、ネットワーク内のステーションに割り当てられる IP アドレスの範囲を定義します。
ダイナミックプールは、無線ステーションが利用可能な IP をリース期間制限付きで取得できるようにします。

1. 「Advanced Settings」 > 「DHCP Server」 > 「Dynamic Pool Settings」の順でクリックし、以下の画面を表示します。

図 4-38 Dynamic Pool Settings 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
DHCP Server Control	
Function Enable/Disable	DHCP サーバコントロール機能を「Enable」(有効)または「Disable」(無効)にします。 DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol) は、ネットワーク上のデバイスに対してダイナミックに IP アドレスを割り当てます。DHCPを使用すると、新しい無線 LAN デバイスに手で IP アドレスを割り振る必要がないため、ネットワーク管理が簡単になります。本製品に DHCP サーバの機能を持たせるには「Enable」(有効)を選択します。
Dynamic Pool Settings	
IP Assigned From	ネットワーク内のクライアントに割り当てる最初の IP アドレスを入力します。
The Range of Pool (1-254)	割り当て可能な IP アドレスの範囲を入力します。IP アドレスは「IP Assigned From」で指定します。
Subnet Mask	ネットワークのサブネットマスクを入力します。同一ネットワーク内のすべてのデバイスに同じサブネットマスクを使用します。
Gateway	ネットワーク内のゲートウェイの IP アドレスを入力します。
WINS	無線ネットワークの WINS サーバアドレスを指定します。WINS(Windows Internet Naming Service) は、動的な IP アドレスを持つネットワークの IP アドレスを決定するシステムです。
DNS	DNS サーバの IP アドレスを入力します。 DNS(Domain Name Server) は、 www.dlink-jp.com などのドメイン名を IP アドレスに変換します。
Domain Name	必要に応じて本製品のドメイン名を入力します。(例 : www.dlink-jp.com)
Lease Time (60-31536000 sec)	DHCP サーバが新しい IP アドレスを割り当てるまでの時間 (リース期間) を入力します。 初期値 : 604800 (秒) 入力可能範囲 : 60-31536000 (秒)

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

Static Pool Setting (スタティックプール設定)

DHCP アドレスプールは、ネットワークのステーションに割り当てられる IP アドレスの範囲を定義します。スタティックなプールによって、特定の無線ステーションは期間制御なしで固定 IP を取得することが可能になります。

1. 「Advanced Settings」 > 「DHCP Server」 > 「Static Pool Settings」の順でクリックし、以下の画面を表示します。

図 4-39 Static Pool Settings 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。


■ 画面に表示される項目

項目	説明
DHCP Server Control	
Function Enable/Disable	特定のデバイスに対して起動のたびに同じ IP アドレスを割り当てます。「Enable」を選択し、スタティックプール設定を行います。
Static Pool Setting	
Host Name	ホストコンピュータ名を入力します。
Assigned IP	IP アドレスを入力します。 ここで登録する IP アドレスは、「Dynamic Pool Settings」でダイナミックなプール範囲に登録した IP アドレスと重複しないように注意してください。
Assigned MAC Address	デバイスの MAC アドレスを入力します。
Subnet Mask	「IP Assigned」で指定した IP アドレスのサブネットマスクを定義します。
Gateway	無線ネットワークのゲートウェイアドレスを指定します。
WINS	無線ネットワークの WINS サーバアドレスを指定します。WINS(Windows Internet Naming Service) は、動的な IP アドレスを持つネットワークにおいて、IP アドレスを対応させるためのサービスです。
DNS	無線ネットワークの DNS サーバアドレスを入力します。 DNS(Domain Name Server) は、 www.dlink-jp.com などのドメイン名を IP アドレスに変換します。
Domain Name	ネットワークのドメイン名を入力します。

● **スタティックプールの追加を行う場合：**

1. 「Add Gateway Address」欄で、必要項目を入力します。
2. 「Save」をクリックします。

● **スタティックプールの編集を行う場合：**

1. 編集するスタティックプールの  アイコンをクリックします。
2. 「Static Pool Setting」欄でスタティックプールの設定を編集します。
3. 「Save」をクリックします。

● **スタティックプールの削除を行う場合：**

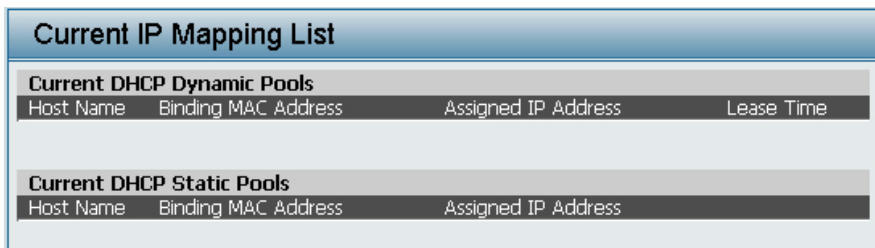
1. 削除するスタティックプールの  アイコンをクリックします。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

Current IP Mapping List (現在の IP マッピングリストの表示)

現在割り当てられている DHCP ダイナミック IP アドレスプールおよびスタティック IP アドレスプールの情報を表示します。本情報を表示するためには、本製品の DHCP 機能を有効にし、ダイナミックおよびスタティック IP アドレスプールに登録しておく必要があります。

1. 「Advanced Settings」>「DHCP Server」>「Current IP Mappig List」の順でクリックし、以下の画面を表示します。



Current IP Mapping List			
Current DHCP Dynamic Pools			
Host Name	Binding MAC Address	Assigned IP Address	Lease Time
Current DHCP Static Pools			
Host Name	Binding MAC Address	Assigned IP Address	

図 4-40 Current IP Mapping List 画面

2. 以下の表示内容を確認します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Current DHCP Dynamic Pools	
DHCP サーバ機能がダイナミックプール設定で割り当てた IP アドレスプールです。	
Binding MAC Address	DHCP ダイナミック IP アドレスプールから IP アドレスを割り当てられた、ネットワーク内のデバイスの MAC アドレスを表示します。
Assigned IP Address	DHCP サーバ機能がデバイスに割り当てたダイナミック IP アドレスを表示します。
Lease Time	ダイナミック IP アドレスの有効時間を表示します。
Current DHCP Static Pools	
DHCP サーバ機能がスタティックプール設定で割り当てた IP アドレスプールです。	
Binding MAC Address	DHCP スタティック IP アドレスプールから IP アドレスを割り当てられた、ネットワーク内のデバイスの MAC アドレス表示します。
Assigned IP Address	DHCP サーバ機能がデバイスに割り当てたスタティック IP アドレスを表示します。

Filters (フィルタ設定)

Wireless MAC ACL (無線 MAC ACL 設定)

アクセスコントロールリストの設定をします。

1. 「Advanced Settings」 > 「Filters」 > 「Wireless MAC ACL」 の順でクリックし、以下の画面を表示します。

図 4-41 Wireless MAC ACL Settings 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Wireless Band	現在の無線帯域を「2.4GHz」または「5GHz」から選択します。
Access Control List	アクセスコントロールリストの動作を設定します。 選択肢：「Disable」「Accept」「Reject」 ・ Disable - フィルタ機能を無効にします。 ・ Accept - アクセスコントロールリストに登録されている MAC アドレスを持ったデバイスのみ接続を許可します。リスト以外のすべてのデバイスは接続を拒否されます。 ・ Reject - アクセスコントロールリストに登録されている MAC アドレスを持つデバイスからの接続を拒否します。リスト以外のすべてのデバイスが接続許可されます。
SSID Index	認証する SSID を設定します。
MAC Address	フィルタリストに登録する MAC アドレスを入力します。
MAC Address List	「MAC Address」で登録した MAC アドレスを表示します。
Current Client Information	本製品に接続しているクライアントの情報が表示されます。
Upload ACL File	
Upload File :	「ファイルを選択」でアクセスコントロールファイルを選択→「Upload」をクリックすると、アクセスコントロールファイルがアップロードされます。

項目	説明
Download ACL File	
Upload ACL File to Local Hard Driver :	「Download」をクリックすると、アクセスコントロールファイルがローカルハードドライブにダウンロードされます。


● **MAC アドレスを入力してリストの追加を行う場合 :**

1. 「Access Control List」で「Accept」（許可）または「Reject」（拒否）を選択します。
2. 「MAC Address」にフィルタする MAC アドレスを入力します。
3. 「Add」ボタンをクリックします。MAC アドレスがリストに表示されます。

● **無線クライアントの情報からリストの追加を行う場合 :**

1. 「Access Control List」で「Accept」（許可）または「Reject」（拒否）を選択します。
2. 「Current Client Information」でフィルタする無線クライアントの「Add」欄にチェックを入れます。
3. 「Add」ボタンをクリックします。MAC アドレスがリストに表示されます。

● **リストの削除を行う場合 :**

1. 削除する MAC アドレスリストの  アイコンをクリックします。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

WLAN Partition (WLAN パーティション設定)

WLAN パーティションを設定します。

1. 「Advanced Settings」 > 「Filters」 > 「WLAN Partition」 の順でクリックし、以下の画面を表示します。

図 4-42 WLAN Partition 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Wireless Band	無線帯域を「2.4GHz」または「5GHz」から選択します。
Link Integrity	Link Integrity を「Enable」(有効)または「Disable」(無効)にします。 初期値 : Disable この機能を有効にすると、LAN とアクセスポイント間のイーサネット接続が切断した場合に、切断されたアクセスポイントに関連していた無線セグメントも接続が切れます。
Ethernet to WLAN Access	有線 LAN から無線デバイスへのすべてのデータ送信を「Enable」(有効)または「Disable」(無効)にします。 初期値 : Enable 「Disable」(無効)にすると、有線 LAN から無線デバイスへのすべてのデータは拒否されます。無線 LAN 側から有線 LAN 側へのデータ送信は可能です。
Internal Station Connection	<ul style="list-style-type: none"> • Enable - ステーションは対象のアクセスポイントに接続してステーションと通信できます。 • Disable - 無線ステーションは同じ SSID に接続されたクライアントとの通信が行えなくなります。 • Guest mode - すべての SSID に接続した無線ステーションとの通信が行えなくなります。

3. 「Save」 をクリックし、設定内容を保存します。

Traffic Control (トラフィック制御設定)

Uplink/Downlink Setting (アップリンク / ダウンリンク設定)

アップリンク / ダウンリンク設定ではアップ / ダウンリンクの帯域幅レート (Mbps) を含むインターフェースの設定を行います。これらの数値は QoS や Traffic Manager でも使用されます。

1. 「Advanced Settings」 > 「Traffic Control」 > 「Uplink/Downlink Settings」 の順でクリックし、以下の画面を表示します。

図 4-43 Uplink and Downlink Setting 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Ethernet	「Downlink」または「Uplink」にチェックを入れます。
2.4GHz / 5GHz	2.4GHz または 5GHz を選択します。
Downlink Interface / Uplink Interface	ダウンリンク / アップリンクのインターフェースをチェックします。
Downlink Bandwidth	ダウンリンクの帯域幅 (Mbps) を指定します。
Uplink Bandwidth	アップリンクの帯域幅 (Mbps) を指定します。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

QoS (QoS 設定)

QoS (Quality of Service) は異なるアプリケーションのトラフィックに優先順位を付ける機能です。

優先順位をつけることにより、ネットワークの利用効率をあげることができます。

本設定を有効にするには、「Traffic Control」 > 「Uplink/Downlink Settings」でダウンリンク/アップリンクの帯域幅を設定する必要があります。

1. 「Advanced Settings」 > 「Traffic Control」 > 「QoS」の順でクリックし、以下の画面を表示します。

Category	Priority	Limit	% Port
ACK/DHCP/ICMP/DNS Priority	Highest Priority	100	53,67,68,546,547
Web Traffic Priority	Third Priority	100	30,443,3128,8080
Mail Traffic Priority	Second Priority	100	25,110,465,995
Ftp Traffic Priority	Low Priority	100	20,21
User Defined-1 Priority	Highest Priority	100	0 - 0
User Defined-2 Priority	Second Priority	100	0 - 0
User Defined-3 Priority	Third Priority	100	0 - 0
User Defined-4 Priority	Low Priority	100	0 - 0
Other Traffic Priority	Low Priority	100	%

図 4-44 QoS 画面

「Downlink Bandwidth」「Uplink Bandwidth」には、Uplink/Downlink Settings で設定した帯域幅 (Mbps) が表示されます。

2. 「Enable QoS」にチェックをいれ、QoS を有効にします。
QoS がトラフィック優先順位付けに優先度を付けることを許可する場合、このオプションを有効にします。
本設定を有効にするには、Traffic Control>Uplink/Downlink Settings でダウンリンク/アップリンクの帯域幅を設定する必要があります。
3. 各アプリケーションの優先度を設定します。
優先度：「Higest Priority」「Second Priority」「Third Priority」「Low Priority」
4. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

Traffic Manager (トラフィック管理設定)

トラフィック管理ルールを作成し、リスト上のクライアントのアップ/ダウンリンクスピードなどを設定できます。

本設定を有効にするには、「Traffic Control」>「Uplink/Downlink Settings」でダウンリンク/アップリンクの帯域幅を設定する必要があります。

1. 「Advanced Settings」>「Traffic Control」>「Traffic Manager」の順でクリックし、以下の画面を表示します。

図 4-45 Traffic Manager 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Traffic Manager	Traffic Manager を「Enable」(有効)または「Disable」(無効)にします。
Unlisted Client Traffic	リスト上にないクライアントのトラフィックについて設定します。 選択肢:「Deny」(拒否)、「Forward」(転送)
Downlink Bandwidth	Uplink/Downlink Settings で設定したダウンリンクの帯域幅 (Mbps) が表示されます。
Uplink Bandwidth	Uplink/Downlink Settings で設定したアップリンクの帯域幅 (Mbps) が表示されます。
Add TraffManager Rule	追加する Traffic Manag 名を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • Name : ルールの名前を入力します。 • Client IP (optional) : クライアントの IP アドレスを入力します。 • Client MAC (optional) : クライアントの MAC アドレスを入力します。 • Downlink Speed : ダウンリンクの速度を入力します。(単位 : Mbits/ 秒) • Uplink Speed : アップリンクの速度を入力します。(単位 : Mbits/ 秒) • Add : 設定した内容を追加します。 • Clear : 設定した内容を取り消します。
Traffic ManagRules	作成したトラフィック管理ルールが表示されます。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

Status (ステータス表示)

Device Information (デバイス情報表示)

本製品の設定内容や、ファームウェアバージョン、MAC アドレスなどの情報を表示します。

1. 「Status」 > 「Device Information」 の順でクリックし、以下の画面を表示します。

Device Information	
Firmware Version:v3.20B17	
Ethernet MAC Address:	c8:d3:a3:42:bb:c0
Wireless MAC Address(2.4GHz):	Primary: c8:d3:a3:42:bb:c0 SSID 1~7: c8:d3:a3:42:bb:c1 ~ c8:d3:a3:42:bb:c7
Wireless MAC Address(5GHz):	Primary: c8:d3:a3:42:bb:c8 SSID 1~7: c8:d3:a3:42:bb:c9 ~ c8:d3:a3:42:bb:cf
Ethernet	
IP Address	192.168.0.50
Subnet Mask	255.255.255.0
Gateway	N/A
DNS	
Wireless (2.4GHz)	
Network Name (SSID)	dlink
Channel	6
Data Rate	Auto
Security	None
Wireless (5GHz)	
Network Name (SSID)	dlink
Channel	116
Data Rate	Auto
Security	None
AP Array	
AP Array	d-link
Role	Slave
Location	
Device Status	
CPU Utilization	5%
Memory Utilization	31%
Central WiFiManager	
Connection Status	Disconnect
Server IP	

図 4-46 Device Information 画面

2. 表示されたデバイス情報を確認します。

Client Information (クライアント情報表示)

本製品に現在接続している無線クライアントの情報を表示します。

1. 「Status」 > 「Client Information」の順でクリックし、以下の画面を表示します。

Client Information						
Client Information Station association (2.4GHz) : 0						
SSID	MAC	Band	Authentication	RSSI	Power Saving Mode	System Info
Client Information Station association(5GHz) : 0						
SSID	MAC	Band	Authentication	RSSI	Power Saving Mode	System Info

図 4-47 Client Information 画面

2. 以下の表示内容を確認します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
SSID	クライアントの SSID が表示されます。
MAC	クライアントの MAC アドレスが表示されます。
Band	クライアントが接続している無線帯域が表示されます。
Authentication	使用している認証方式が表示されます。
RSSI	クライアントの信号強度が表示されます。
Power Saving Mode	省電力モードの状態が表示されます。
System Info	システム情報を表示します。

WDS Information (WDS 情報表示)

本製品に現在接続しているクライアントの WDS (アクセスポイント間接続) 情報を表示します。

1. 「Status」 > 「WDS Information」の順でクリックし、以下の画面を表示します。

WDS Information				
WDS Information Channel : 6 (2.437 GHz)				
Name	MAC	Authentication	Signal	Status
WDS Information Channel : 36 (5.18 GHz)				
Name	MAC	Authentication	Signal	Status

図 4-48 WDS Information 画面

2. 以下の表示内容を確認します。

■ 画面に表示される項目

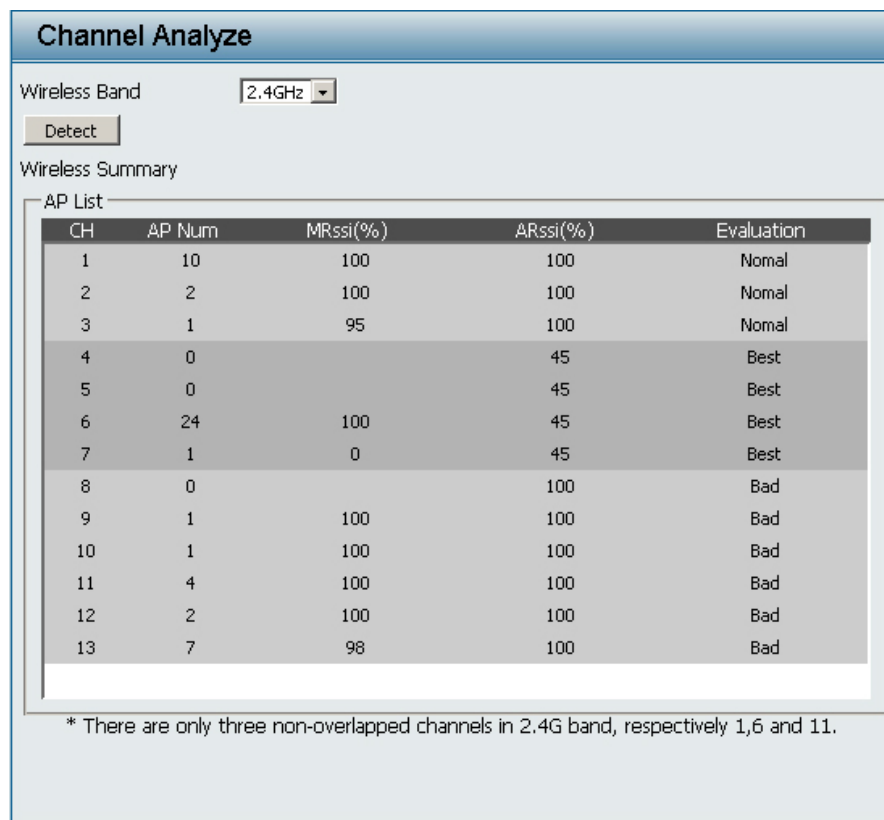
項目	説明
Name	クライアントの名前が表示されます。
MAC	クライアントの MAC アドレスが表示されます。
Authentication	使用されている認証方式が表示されます。
Signal	WDS リンクの信号強度が表示されます。
Status	省電力モードの状態が表示されます。

Channel Analyze (チャンネル分析)

アクセスポイントのチャンネル分析を行います。

注意 DFS 帯のチャンネルを利用中にこの機能を実行する場合は、無線機能が一時停止しますので、使用する場合は十分に注意してください。

1. 「Status」 > 「Channel Analyze」の順でクリックし、以下の画面を表示します。



CH	AP Num	MRssi(%)	ARssi(%)	Evaluation
1	10	100	100	Nomal
2	2	100	100	Nomal
3	1	95	100	Nomal
4	0		45	Best
5	0		45	Best
6	24	100	45	Best
7	1	0	45	Best
8	0		100	Bad
9	1	100	100	Bad
10	1	100	100	Bad
11	4	100	100	Bad
12	2	100	100	Bad
13	7	98	100	Bad

* There are only three non-overlapped channels in 2.4G band, respectively 1,6 and 11.

図 4-49 Channel Analyze 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Wireless Band	帯域幅を「2.4GHz」または「5GHz」から選択します。
Detect	スキャンを実行します。
AP List	送信チャンネルとそのクオリティが表示されます。

Stats (統計情報の表示)

Ethernet (イーサネットの統計情報表示)

送受信されたパケットおよびバイトの統計情報を表示します。

1. 「Status」 > 「Stats」 > 「Ethernet」の順でクリックし、以下の画面を表示します。

Ethernet Traffic Statistics	
Clear Refresh	
Transmitted Count	
Transmitted Packet Count	5081
Transmitted Bytes Count	6129237
Dropped Packet Count	0
Received Count	
Received Packet Count	178078
Received Bytes Count	15469504
Dropped Packet Count	0

図 4-50 Ethernet Traffic Statistics 画面

2. 以下の表示内容を確認します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Transmitted Count	送信されたパケットおよびバイトの統計情報を表示します。
Received Count	受信されたパケットおよびバイトの統計情報を表示します。
Clear	統計情報をクリアします。
Refresh	統計情報を更新します。

WLAN (WLAN 統計情報)

無線ネットワークのデータスループット、送受信フレームおよびフレームエラーの統計情報を表示します。

1. 「Status」 > 「Stats」 > 「WLAN」の順でクリックし、以下の画面を表示します。

WLAN Traffic Statistics		
Clear Refresh		
	2.4GHz	5GHz
Transmitted Count		
Transmitted Packet Count	62789	27863
Transmitted Bytes Count	14302430	7824088
Dropped Packet Count	177122	179604
Transmitted Retry Count	0	0
Received Count		
Received Packet Count	110	0
Received Bytes Count	23386	0
Dropped Packet Count	0	0
Received CRC Count	397094	38149
Received Decryption Error Count	0	0
Received MIC Error Count	0	0
Received PHY Error Count	253533	805068

図 4-51 WLAN Traffic Statistics 画面

2. 以下の表示内容を確認します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Transmitted Count	送信されたパケットおよびバイトの統計情報を表示します。
Received Count	受信されたパケットおよびバイトの統計情報を表示します。
Clear	統計情報をクリアします。
Refresh	統計情報を更新します。

Log (ログ)

View Log (ログの表示)

最大 500 件のログを表示します。

表示されるログには、アクセスポイントの起動・ワイヤレスクライアントの接続/切断・Web 設定ユーティリティへのログイン・ログアウトなどが含まれます。

1. 「Status」 > 「Log」 > 「View Log」の順でクリックし、以下の画面を表示します。

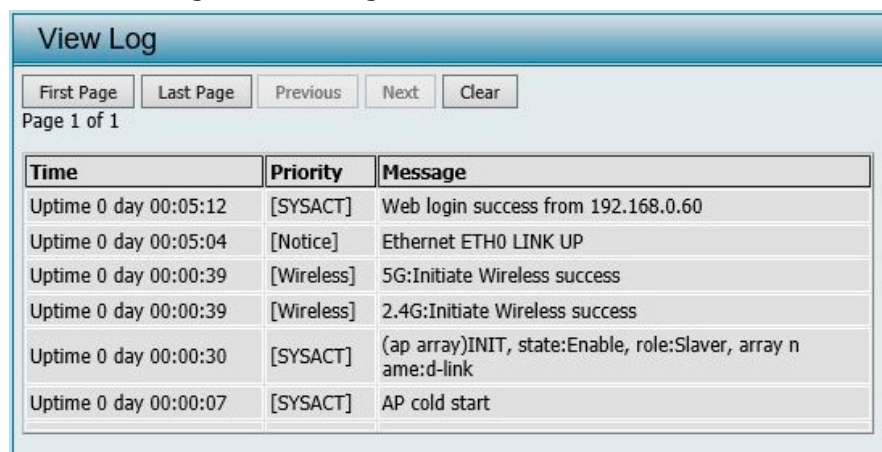


図 4-52 View Log 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
First Page / Last Page	最初のページ / 最後のページを表示します。
Previous / Next	前ページ / 次ページを表示します。
Clear	すべてのログ情報をクリアします。

Log Settings (ログ設定)

ログ取得のための設定をします。

1. 「Status」 > 「Log」 > 「Log Settings」の順でクリックし、以下の画面を表示します。

図 4-53 Log Settings 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Log Settings	
Log Server/IP Address	本製品のログを送信するサーバの IP アドレスを入力します。
Log Type	取得するログの対象を以下の項目から指定します。ログには次の 3 つのタイプがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • System Activity - ファームウェア更新などのログを取得します。 • Wireless Activity - 無線 LAN クライアントの接続情報などのログを取得します。 • Notice - その他の情報のログを取得します。
EU directive Syslog Server Settings	日本では使用しません。
Email Notification	
Email Notification	チェックをして SMTP (簡易メール転送プロトコル) を有効にします。
Outgoing mail server (SMTP)	送信メールサーバを選択します。 選択肢: 「Internal」「Hotmail」「Gmail」
Authentication	チェックを入れると認証が有効になります。
SSL/TLS	チェックを入れると SSL/TLS 認証が有効になります。
From Email Address	送信元の E-mail アドレスを入力します。
To Email Address	送信先の E-mail アドレスを入力します。
Email Server Address	E-mail サーバの IP アドレスを入力します。

項目	説明
SMTP Port	SMTP ポートの番号を入力します。(初期値 : 25)
User Name	SMTP サーバのユーザ名を入力します。
Password	SMTP サーバのパスワードを入力します。
Confirm Password	確認のために SMTP サーバのパスワードを再度入力します。
Email Log Schedule	
Schedule	プルダウンメニューを使用して E-mail ログ取得のスケジュールを設定します。

3. 「Save」 をクリックし、設定内容を保存します。

第5章 Maintenance (メンテナンス) メニュー

- ◆ Administration Settings (管理者用設定)
- ◆ Firmware and SSL Certification Upload (ファームウェアと SSL 証明書のアップロード) /Language Pack Upgrade (言語パックの更新)
- ◆ Configuration File Upload and Download (コンフィグレーションファイルのアップロードとダウンロード)
- ◆ Time and Date (時刻と日付の設定)

■ メンテナンスメニューの表示方法 :

「Maintenance」をクリックすると、メニューが表示されます。

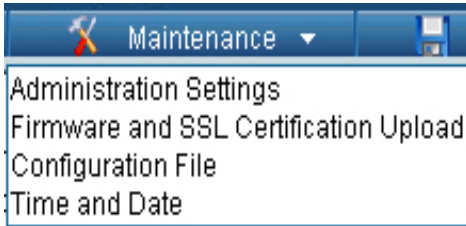


図 5-1 Maintenance メニュー画面

Administration Settings (管理者用設定)

6つのメインカテゴリから1つ以上選択して、管理者用項目の設定または表示をします。

1. 「Maintenance」 > 「Administration Settings」の順にクリックし、以下の画面を表示します。

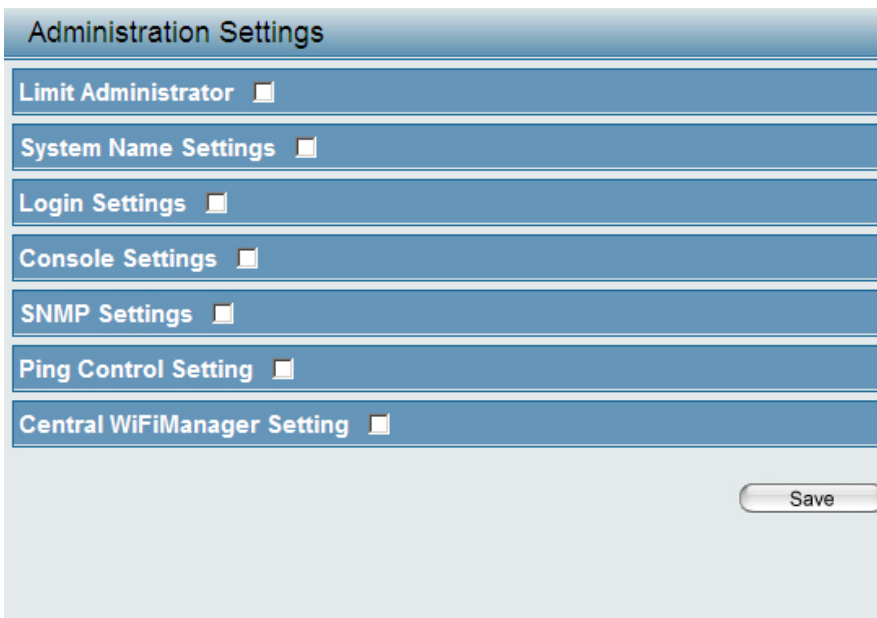


図 5-2 Administration Settings 画面

Limit Administrator (管理者の制限)

管理者の権限を設定します。

1. 「Limit Administrator」をチェックし、以下の画面を表示します。

図 5-3 Administration Settings (Limit Administrator) 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Limit Administrator VLAN ID	「Enable」をチェックして管理者がログインできる VLAN ID を入力します。
Limit Administrator IP	「Enable」をチェックして、管理者がログインできる IP アドレス範囲を「IP Range」に指定します。
IP Range	管理者がログインできる IP アドレス範囲を入力し「Add」ボタンをクリックします。

● 管理者の制限設定を行う場合：

1. 「Limit Administrator VLAN ID」および (または) 「Limit Administrator IP」を「Enable」(有効) にします。
2. 「Limit Administrator VLAN ID」を有効にした場合、隣の欄に VID を指定します。
3. 「Limit Administrator IP」を有効にした場合、「IP Range」に管理者がログイン可能な IP アドレス範囲を指定します。
4. 「Add」ボタンをクリックして IP アドレス範囲のリストに登録します。

● IP アドレス範囲の削除を行う場合：

1. IP アドレス範囲リストで、該当 IP アドレスの  アイコンをクリックします。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

System Name Settings (システム名設定)

システム名を設定します。

1. 「System Name Settings」 をチェックし、以下の画面を表示します。

図 5-4 Administration Settings (System Name Settings) 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
System Name	デバイスの名前を入力します。 初期値 :D-Link DAP-2690
Location	デバイスの設置場所を入力します。 入力例 : office

3. 「Save」 をクリックし、設定内容を保存します。

Login Settings (ログイン設定)

ログイン時の設定を行います。

1. 「Login Settings」をチェックし、以下の画面を表示します。

図 5-5 Administration Settings (Login Settings) 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
User Name	ユーザ名を入力します。 初期値：admin
Old Password	パスワードの変更を行う場合、現在のパスワードを入力します。
New Password	パスワードの変更を行う場合、新しいパスワードを入力します。 入力可能文字数：0～12 大文字と小文字は区別されます。
Confirm Password	確認のため新しいパスワードを再度入力します。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

Console Settings (コンソール設定)

コンソールの設定をします。

1. 「Console Settings」 をチェックし、以下の画面を表示します。

図 5-6 Administration Settings (Console Settings) 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Status	コンソールを無効にするためには、チェックを外してください。 初期値: 「Enable」
Console Protocol	使用するプロトコルのタイプを「Telnet」または「SSH」から選択します。
Timeout	1Min、3Mins、5Mins、10Mins、15Mins (分) または「Never」(自動ログアウトを行わない) から選択します。

3. 「Save」 をクリックし、設定内容を保存します。

SNMP Settings (SNMP 設定)

SNMP 設定を行います。

1. 「SNMP Settings」をチェックし、以下の画面を表示します。

The screenshot shows the 'Administration Settings' window with the following sections and controls:

- Limit Administrator**
- System Name Settings**
- Login Settings**
- Console Settings**
- SNMP Settings**
 - Status Enable
 - SNMPv2 Settings
 - Public Community String:
 - Private Community String:
 - Trap Status Enable
 - Trap Server IP:
- Ping Control Setting**
- Central WiFiManager Setting**

A 'Save' button is located at the bottom right of the window.

図 5-7 Administration Settings (SNMP Settings) 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Status	「Enable」をチェックして SNMP 機能を有効にします。 初期値：「Enable」
Public Community String	パブリック SNMP コミュニティ名を入力します。 初期値：「public」
Private Community String	プライベート SNMP コミュニティ名を入力します。 初期値：「private」
Trap Status	「Enable」をチェックしてトラップステータスを有効にします。
Trap Server IP	トラップサーバの IP アドレスを入力します。 無線アクセスポイントから送信されたトラップを受信する SNMP マネージャの IP アドレスです。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

Ping Control Setting (Ping コントロールの設定)

Ping コントロールの設定をします。

1. 「SNMP Settings」をチェックし、以下の画面を表示します。

The screenshot shows a web interface titled 'Administration Settings'. It contains several sections, each with a checkbox: 'Limit Administrator', 'System Name Settings', 'Login Settings', 'Console Settings', 'SNMP Settings', 'Ping Control Setting', and 'Central WiFiManager Setting'. The 'Ping Control Setting' checkbox is checked. Below it, the 'Status' is set to 'Enable'. A 'Save' button is located at the bottom right of the form.

図 5-8 Administration Settings (Ping Control Settings) 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Status	「Enable」をチェックして Ping コントロールを有効にします。 初期値：無効 Ping コマンドは、ICMP エコー要求パケットをターゲットホストに送信し、ICMP エコー応答を取得することで接続を確認します。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

Central WiFiManager Setting (Central WiFiManager の設定)

Central WiFiManager を有効または無効にします。

1. 「Central WiFiManager Setting」をチェックし、以下の画面を表示します。

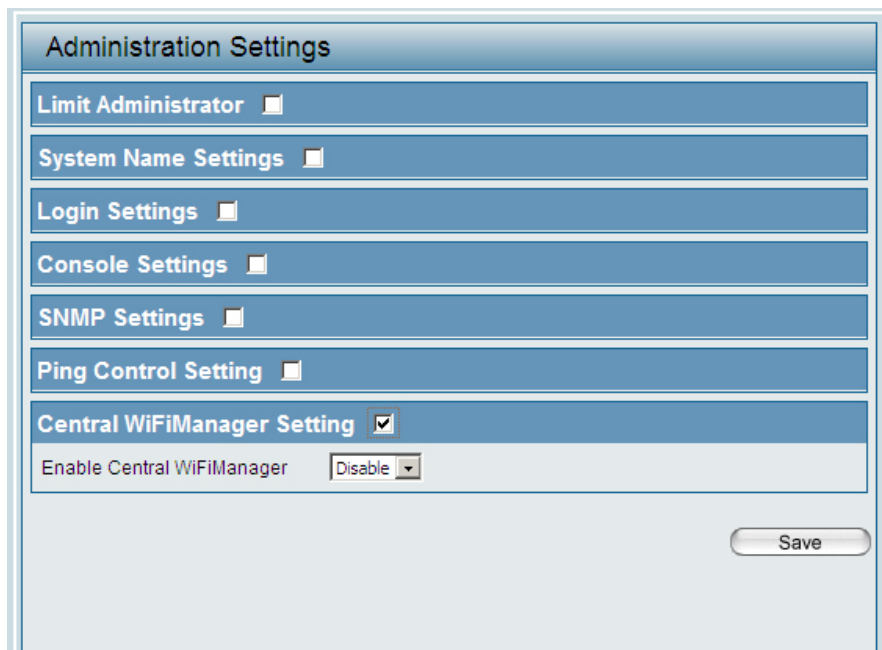


図 5-9 Administration Settings (Ping Control Settings) 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Enable Central WiFiManager	WiFiManager の提供を行っていないためご利用になれません。[disable] のままお使いください。 初期値：無効

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

Firmware and SSL Certification Upload (ファームウェアと SSL 証明書のアップロード) / Language Pack Upgrade (言語パックの更新)

ファームウェアと SSL 証明書のアップロードを行います。

1. 「Maintenance」 > 「Firmware and SSL Certification Upload」の順にクリックし、以下の画面を表示します。

図 5-10 Firmware and SSL Certification Upload 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Update Firmware From Local Hard Drive	
現在のファームウェアのバージョンが表示されます。	
Upload Firmware From File	<p>以下の手順でファームウェアのアップロードを行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 弊社ホームページから最新のファームウェアをダウンロードしてハードディスクに保存します。 2. 「参照」をクリックし、更新するファームウェアを指定します。 3. 「Upload」をクリックします。アップロード中は電源を切らないでください。 4. アップロードが終了するとログイン画面が表示されます。ログインし、ファームウェアのバージョンを確認します。
Language Pack Upgrade	
Upload	<p>以下の手順で言語パックのアップロードを行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 「参照」をクリックし、アップロードするファイルを指定します。 3. 「Upload」をクリックします。
Update SSL Certification From Local Hard Drive	
Upload Certification From File	<p>以下の手順で SSL 証明書のアップロードを行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「参照」をクリックし、アップロードする SSL 証明書を指定します。 2. 「Upload」をクリックします。

項目	説明
Upload Key From File	以下の手順で認証キーのアップロードを行います。 1. 「参照」をクリックし、アップロードする認証キーを指定します。 2. 「Upload」をクリックします。

Configuration File Upload and Download (コンフィグレーションファイルのアップロードとダウンロード)

コンフィグレーションファイルのアップロードとダウンロードを行います。

1. 「Maintenance」 > 「Configuration File Upload and Download」の順にクリックし、以下の画面を表示します。

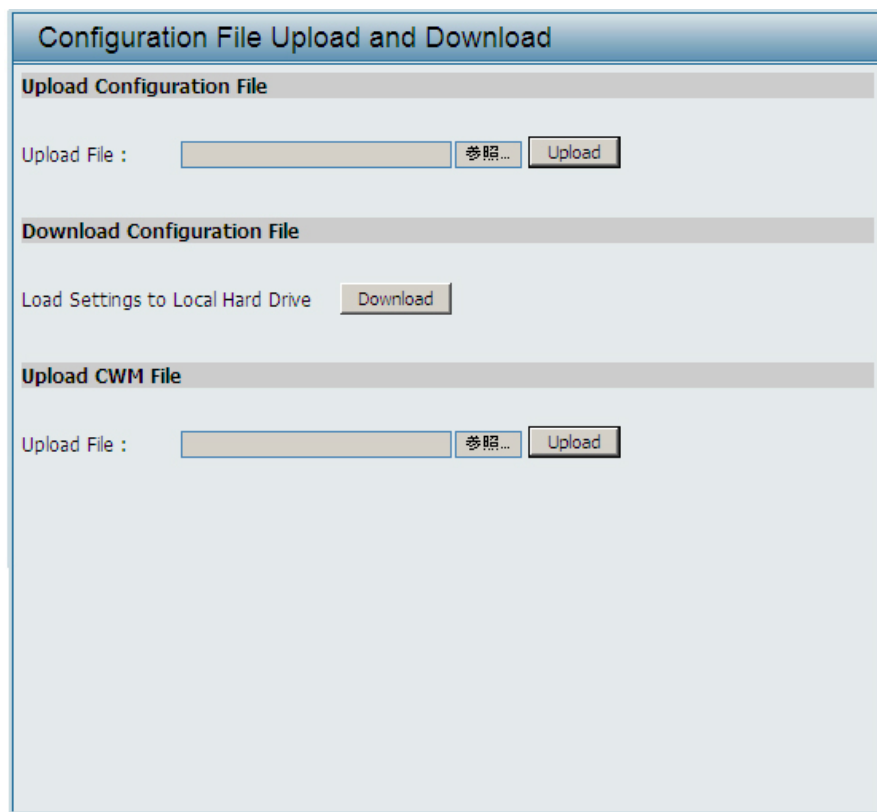


図 5-11 Configuration File Upload and Download 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Update Firmware From Local Hard Drive	
Upload File	以下の手順でコンフィグレーションファイルのアップロードを行います。 1. 「参照」をクリックし、アップロードするコンフィグレーションファイルを指定します。 2. 「Upload」をクリックします。アップロード中は電源を切らないでください。 3. アップロードが終了するとログイン画面が表示されます。
Download Configuration File	以下の手順でコンフィグレーションファイルのダウンロードを行います。 1. 「Download」をクリックします。 2. 現在の設定がハードディスクに保存されます。
CWM のアップロード	WiFi Manager の提供を行っていないためご利用になれません。

Time and Date (時刻と日付の設定)

本製品に日付と時刻の設定を行います。

1. 「Maintenance」 > 「Time and Date Settings」の順にクリックし、以下の画面を表示します。

図 5-12 Time and Date Settings 画面

2. 設定したい内容に応じて、以下から操作を選択します。

■ 画面に表示される項目

項目	説明
Time Configuration	
Current Time	現在の日時設定を表示が表示されます。
Automatic Time Configuration	
Enable NTP Server	チェックをいれると、APがNTPサーバからシステム時間を得られるようになります。
NTP Server	NTPサーバIPアドレスを入力します。
Time Zone	タイムゾーンを選択します。
Enable Daylight Saving	サマータイムを使用する場合にチェックします。サマータイムがない国では選択できません。
Daylight Saving Dates	プルダウンメニューを使用して、サマータイムの開始 / 終了日時を指定します。
Set the Date and Time Manually	
Date and Time	アクセスポイントの時刻を手動で入力して設定します。
Copy Your Computer's Time Settings	使用しているPCの時刻を本製品にコピーします。

3. 「Save」をクリックし、設定内容を保存します。

第 6 章 Configuration メニュー

◆ Save and Activate (設定の保存と適用)

◆ Discard Changes (設定の破棄)

■ コンフィグレーションメニューの表示方法：

「Configuration」をクリックすると、メニューが表示されます。



図 6-1 Configuration メニュー画面

Save and Activate (設定の保存と適用)

変更した設定を保存、適用します。

1. 「Configuration」 > 「Save and Active」の順にクリックします。
2. 以下の画面で進行状況が表示されます。設定の保存が完了するまでそのままお待ちください。

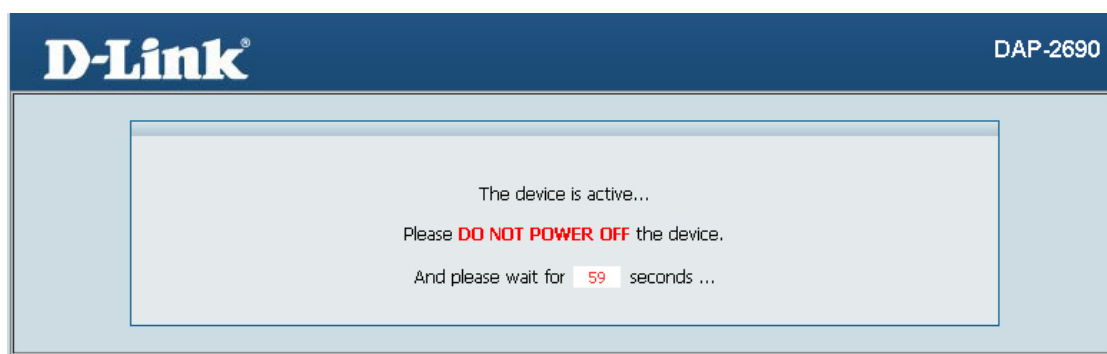


図 6-2 Save and Active 画面

3. 保存が完了するとログイン画面が表示されます。

Discard Changes (設定の破棄)

変更した設定を全て破棄します。

1. 「Configuration」 > 「Discard Changes」の順にクリックします。
2. 以下の画面で進行状況が表示されます。設定の破棄が完了するまでそのままお待ちください。

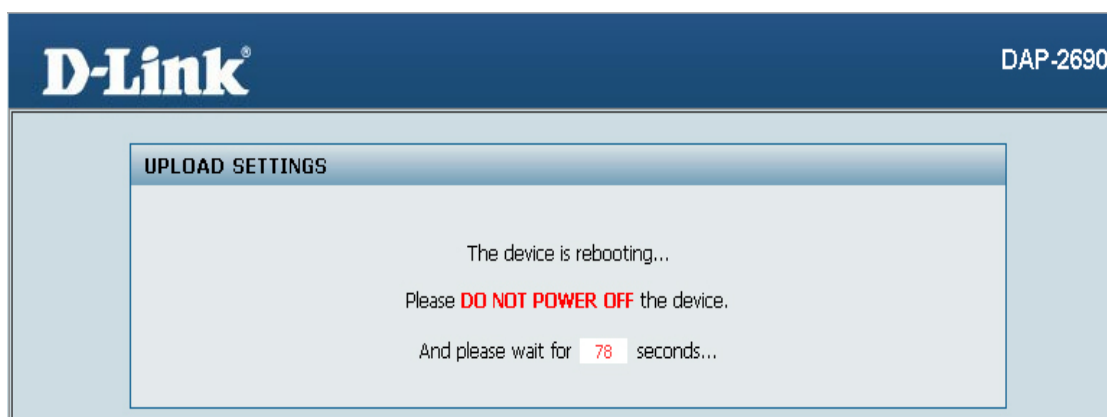


図 6-3 Discard Changes 画面

3. 保存が完了するとログイン画面が表示されます。

第7章 System (システム設定)メニューと Help

◆ System Settings (システムの設定)

◆ Help (ヘルプ)

System Settings (システムの設定)

本製品の再起動と工場出荷時設定へのリセットを行います。

1. 「System」 をクリックします。

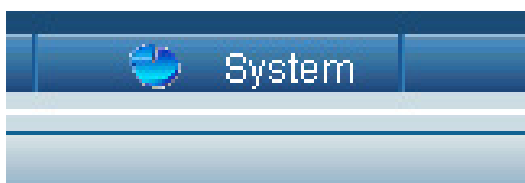


図 7-1 System Menu 画面

2. 以下の画面で、本製品の再起動または工場出荷時設定へのリセット、または言語パックの削除を行います。

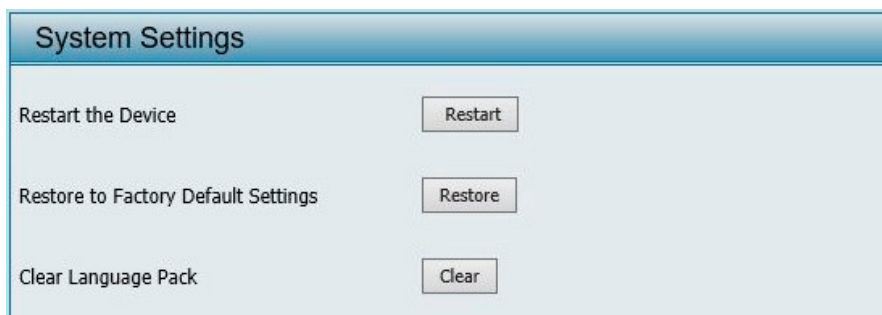


図 7-2 System Settings 画面

● **本製品の再起動を行う場合：**

1. 「Restart」 をクリックします。
2. 確認画面が表示されるので、「OK」 をクリックします。
3. 進行状況が表示されます。そのままお待ちください。
4. 再起動完了後、ログイン画面が表示されます。

● **工場出荷時設定へのリセットを行う場合：**

1. 「Restore」 をクリックします。
2. 確認画面が表示されるので、「OK」 をクリックします。
3. 進行状況が表示されます。そのままお待ちください。
4. 再起動完了後、ログイン画面が表示されます。

● **言語パックの削除を行う場合：**

1. 「Clear」 をクリックします。
2. 確認画面が表示されるので、「OK」 をクリックします。

Help (ヘルプ)

本製品のヘルプ情報を表示します。

1. 「Help」 をクリックします。



図 7-3 Help メニュー画面

2. 以下の画面が別ウィンドウで表示されます。

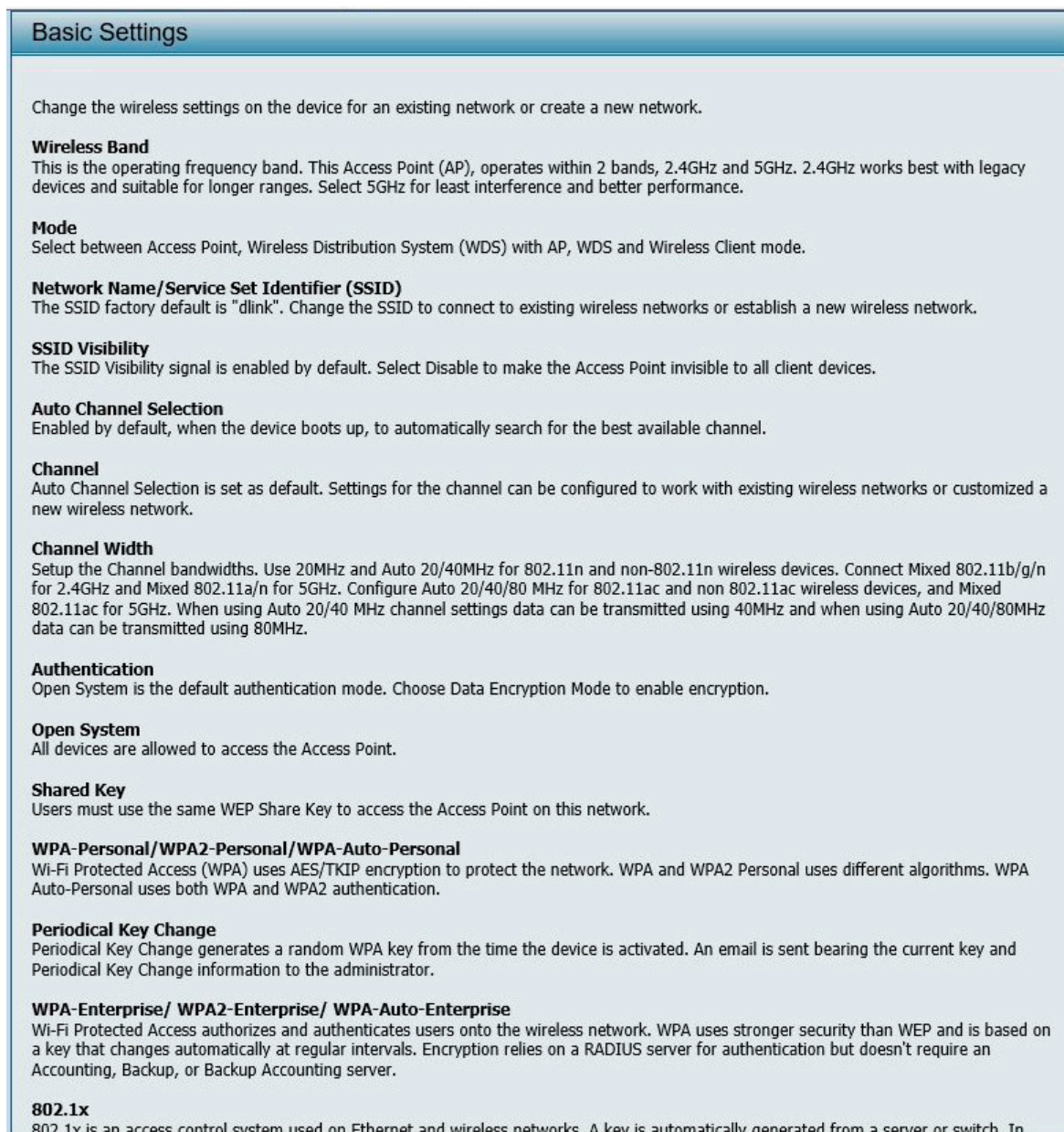


図 7-4 Help 画面

第8章 付録

- ◆ 付録 A 工場出荷時設定に戻す
- ◆ 付録 B よくお問い合わせいただくご質問 (FAQ)
- ◆ 付録 C 基本的なネットワークの設定
- ◆ 付録 D AP アレイについて
- ◆ 付録 E コンソールポートについて
- ◆ 付録 F 機能設定例

付録 A 工場出荷時設定に戻す

リセットボタンを押下することで本製品の設定を工場出荷状態に戻します。

1. 必要に応じて設定ファイルのバックアップを行います。
2. リセットボタンを押した状態で本製品に電源を入れ、10 秒間ボタンを押し続けます。
3. リセットボタンを放すと本製品は再起動します。
4. アクセスポイントに接続するまで約 30 秒お待ちください。
製品の IP アドレスの初期値は「192.168.0.50」です。ログイン名は「admin」、パスワードは空白です。

注意 リセットボタンを押下すると、すべての設定が消去されます。

付録 B よくお問い合わせいただくご質問 (FAQ)

ここでは、本製品の設定時や運用時における問題の解決法について説明します。

問題が発生した場合、はじめにこの項をお読みください。

注意 本製品の設定を行うためには、設定用 PC と本製品を直接 UTP ケーブルで接続することをお勧めします。

Q1 本製品の設定を行うコンピュータから Web ベースの設定メニューにアクセスできません。

- A 本製品前面にある LAN LED が点灯していることを確認してください。
LED が点灯していない場合は、UTP ケーブルが正しくポートに接続されているか確認してください。
- A LAN アダプタが正常に動作しているか確認してください。
- A 設定用 PC の IP アドレスが本製品と同じアドレス範囲およびサブネット内であることを確認してください。

注意 本製品の IP アドレスの初期値は 192.168.0.50 です。同じネットワーク内のすべてのコンピュータは同じアドレス範囲内の固有のアドレスを持つ必要があります (例: 192.168.0.x)。同じ IP アドレスを持つコンピュータがあるとネットワーク上で認識できなくなります。また、ネットワーク内の PC はすべて同じサブネットマスクである必要があります (例: 255.255.255.0)。

- A Ping コマンドを実行し、本製品から応答があるかどうかを確認してください。
 1. コマンドプロンプト画面を表示します。
Windows で「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。
 2. 表示された画面で「ping 192.168.0.50」と入力します。正しく接続が行われていると 4 回リプライがあります。

注意 本製品の IP アドレスを変更した場合は、設定した正しい IP アドレスに ping 送信を行ってください。

Q2 インフラストラクチャモードで通信を行う時、無線 LAN クライアントからインターネットにアクセスできません。

A 無線クライアントが正しいアクセスポイントに接続していることを確認します。

1. タスクバーの「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、「ワイヤレスネットワーク接続」をクリックします。
2. 「ワイヤレスネットワークへの接続」画面で、正しいネットワークに接続していることを確認してください。
確認方法の詳細についてはご使用の無線 LAN アダプタ付属のマニュアルを参照してください。

A 無線 LAN アダプタに割り当てた IP アドレスが、アクセスポイントおよびゲートウェイと同じ IP アドレス範囲にあることを確認してください。本製品の IP アドレスの初期値は 192.168.0.50 であるため、無線 LAN アダプタは同じアドレス範囲の IP アドレスを持つ必要があります (例:192.168.0.x)。各デバイスは独自の IP アドレスを持つ必要があります。ネットワーク内の PC にはすべて同じサブネットマスクを設定します。無線 LAN アダプタに割り当てられた IP アドレスを確認するためには、タスクバー上の「ローカルエリア接続」アイコン上でダブルクリックし、表示された画面で「サポート」タブをクリックすると、IP アドレスが表示されます。

A 必要に応じて無線 LAN アダプタにスタティック IP アドレスを割り当てます。

DNS サーバアドレスを設定した場合は、デフォルトゲートウェイのアドレスの設定も行う必要があります。ただし、DHCP 機能搭載ルータを使用している場合は、スタティック IP アドレスの設定は必要ありません。

Q3 受信の障害となる可能性のある要因は何ですか？

A 弊社無線 LAN 製品は好きな場所からのネットワークアクセスを可能にしますが、製品の設置環境によっては無線範囲に影響が出る場合があります。

Q4 無線接続が途切れます。

A アンテナの方向 - アンテナの向きを変えてみてください。

またアンテナが壁や物から 15cm 以上離れるように本製品を設置してみてください。

A 2.4GHz 帯デジタルコードレス電話、X10 モジュールなどを使用したホームセキュリティシステム、天井設置型の扇風機、電灯、他の無線製品電波などの干渉により、通信品質が激しく低下して通信ができなくなる場合があります。

ご使用のルータ、アクセスポイントおよび無線 LAN アダプタのチャンネルを変えて、干渉を回避してください。

A 本製品は、電子レンジやモニタ、モータなど RF ノイズを発生する電気機器から 90 ~ 180cm 以上離れた場所に設置してください。

Q5 無線 LAN 接続ができません。

本製品で暗号化設定を行っている場合は、無線 LAN クライアント側も同じ暗号方式を有効にする必要があります。

A ルータおよび無線 LAN クライアントに同じ SSID が設定されていることを確認してください。異なる SSID が設定されていると接続できません。

A 本製品と無線 LAN クライアントを同じ部屋に移動して接続してみてください。

A すべてのセキュリティ設定を無効にして接続してみてください。

A 本製品と無線 LAN クライアントの電源をオフにしてください。

再度本製品の電源を入れ、次に無線 LAN クライアントの電源を入れてください。

A すべてのデバイスがインフラストラクチャモードに設定されていることを確認してください。

A LED が正常な表示をしているかを確認してください。

正常に表示されていない場合は電源ケーブルや LAN ケーブルがしっかりと接続されているかどうかを点検してください。

A IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイおよび DNS の設定がネットワーク内のすべてのデバイスで正しく行われていることを確認してください。

A 2.4GHz 帯デジタルコードレス電話、X10 モジュールなどを使用したホームセキュリティシステム、天井設置型の扇風機、電灯、他の無線製品電波などの干渉により、通信品質が激しく低下して通信ができなくなる場合があります。本製品とネットワーク上のすべてのデバイスのチャンネルを変えて、干渉を回避してください。

A 本製品は、電子レンジやモニタ、モータなど RF ノイズを発生する電気機器から 90 ~ 180cm 以上離れた場所に設置してください。

Q6 パスワードを忘れてしまいました。

A パスワードを忘れた場合、本製品のリセットを行う必要があります。

リセットを行うと、すべての設定は工場出荷時設定に戻ります。本製品をリセットするために、製品背面にあるリセットボタンを使用します。クリップなどでリセットボタンを押した状態で本製品に電源を入れ、10 秒間ボタンを押し続けます。ボタンを放すと本製品が再起動します。アクセスポイントに接続するまで約 30 秒お待ちください。

リセット後の初期値は以下です。

IP アドレス : 「192.168.0.50」
ログイン名 : 「admin」
パスワード : なし

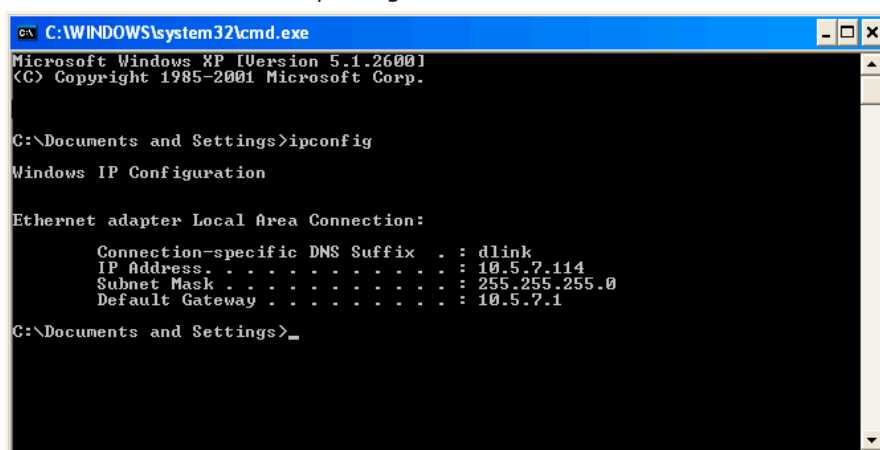
付録 C 基本的なネットワークの設定

IP アドレスのチェック

新しく無線アダプタをコンピュータに取り付けた後に、TCP/IP 設定の初期値は、自動的に IP アドレスを DHCP サーバ (すなわち無線ルータ) から取得するように設定される必要があります。

以下の手順で IP アドレスを確認します。

1. コマンドプロンプト画面を表示します。
Windows で「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。
2. コマンドプロンプト画面で「ipconfig」と入力し、「Enter」を押します。



```
C:\WINDOWS\system32\cmd.exe
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.

C:\Documents and Settings>ipconfig

Windows IP Configuration

Ethernet adapter Local Area Connection:

    Connection-specific DNS Suffix  . : dlink
    IP Address . . . . . : 10.5.7.114
    Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
    Default Gateway . . . . . : 10.5.7.1

C:\Documents and Settings>_
```

図 8-1 コマンドプロンプト画面

3. コマンドプロンプト画面で「ipconfig」と入力し、「Enter」を押します。
アダプタの IP アドレス、サブネットマスク、およびデフォルトゲートウェイが表示されます。
アドレスが 0.0.0.0 である場合、アダプタのインストール、セキュリティ設定、およびルータの設定をチェックしてください。
いくつかのファイアウォールソフトウェアプログラムは新しく取り付けられたアダプタ上の DHCP リクエストを防御する場合があります。
ホットスポット (例 : ホテル、コーヒーショップ、空港) で無線ネットワークと接続している場合、その無線ネットワーク設定については従業員または管理者にご確認ください。

固定 IP アドレスの割り当て

DHCP が有効でないゲートウェイ / ルータを使用している場合、または固定 IP アドレスを割り当てる必要がある場合は、以下の手順で設定します。

● Windows XP の場合 :

1. [スタート]→[コントロールパネル]→[ネットワークとインターネット接続]→[ネットワーク接続]の順にクリックします。
2. [ネットワーク接続] ウィンドウで、ネットワーク接続を右クリックして[プロパティ]をクリックします。
3. [全般] タブの[この接続は次の項目を使用します]で、[インターネット プロトコル (TCP/IP)] をクリックし、[プロパティ] をクリックします。
4. [次の IP アドレスを使う] をチェックします。
5. [IP アドレス]、[サブネット マスク]、および[デフォルト ゲートウェイ]のボックスに IP アドレス設定を入力します。

● Windows Vista の場合 :

1. [スタート]→[コントロールパネル]→[ネットワークとインターネット]→[ネットワーク センター]→[ネットワーク接続の管理]の順にクリックします。
2. 変更する接続を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
管理者のパスワードまたは確認を求められた場合は、パスワードを入力するか、確認情報を提供します。
3. [ネットワーク] タブをクリックします。[この接続は次の項目を使用します]で [Internet Protocol Version 4 (TCP/IPv4)] または [Internet Protocol Version 6 (TCP/IPv6)] のどちらかをクリックし、[プロパティ] をクリックします。
4. [次の IP アドレスを使う] をチェックします。
5. [IP アドレス]、[サブネット マスク]、および[デフォルト ゲートウェイ]のボックスに IP アドレス設定を入力します。

● Windows 7 の場合 :

1. [スタート] ボタン、[コントロールパネル]の順にクリックします。検索ボックスに「アダプター」と入力し、[ネットワークと共有センター]の[ネットワーク接続の表示] をクリックします。
2. 変更する接続を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。 管理者のパスワードまたは確認を求められた場合は、パスワードを入力するか、確認情報を提供します。
3. [ネットワーク] タブをクリックします。[この接続は次の項目を使用します]で [インターネット プロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)] または [インターネット プロトコルバージョン 6 (TCP/IPv6)] のどちらかをクリックし、[プロパティ] をクリックします。
4. [次の IP アドレスを使う] をチェックします。
5. [IP アドレス]、[サブネット マスク]、および[デフォルト ゲートウェイ]のボックスに IP アドレス設定を入力します。

使用例 :

ルータの LAN 側 IP アドレスが 192.168.0.1 である場合、192.168.0.X(X:2～99の数字) とします。選択する番号がネットワーク上で使用されていないことを確認してください。「デフォルトゲートウェイ」をルータの LAN 側 IP アドレス (192.168.0.1) と同じにします。「優先 DNS サーバー」をルータの LAN 側 IP アドレス (192.168.0.1) と同じにします。「代替 DNS サーバー」は必要でないか、ご契約の ISP から通知されている DNS サーバを入力することができます。

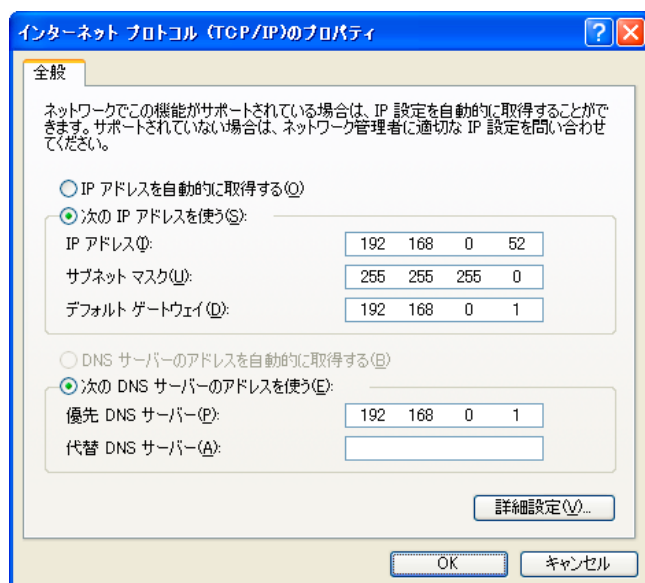


図 8-2 インターネットプロトコル画面

付録 D AP アレイについて

小規模オフィスなどでの無線 LAN 環境 (WLAN) は複雑、不安定な接続状況になりがちです。複数のアクセスポイント (AP) の設定、管理、セキュリティ機能の強化など、ネットワーク環境の整備には大きな負担がかかります。限られたリソースの小規模オフィスには、大規模オフィスのためのネットワークソリューションは複雑で非効率です。

D-Link の AP アレイは小規模オフィス向け無線 LAN 環境管理ツールとして最適です。無線 LAN 管理機能はファームウェアに実装されており、複数 AP の設定も簡単に行えます。全ての「AirPremier」対応、802.11n 規格対応の AP は本ツールをサポートしており、最大 8 つまでのスタンドアロン AP を同時に管理することが可能です。これにより無線 LAN 環境設計はより簡単で、より実用的なものになります。

シンプルな無線 LAN 管理ツール

IT リソースの限られた小規模オフィスでの無線 LAN の設定には、D-Link の AP アレイが最適です。無線ネットワークの管理負荷を最小限に抑えながら、最適でセキュアな無線 LAN 環境の構築を簡単に設計することができます。

ネットワーク構築、管理の簡素化

D-Link の AP アレイを使用して AP の配置、管理を簡素化します。AP アレイの構築手順は以下になります。

ステップ 1 - 「Master AP」の配置：

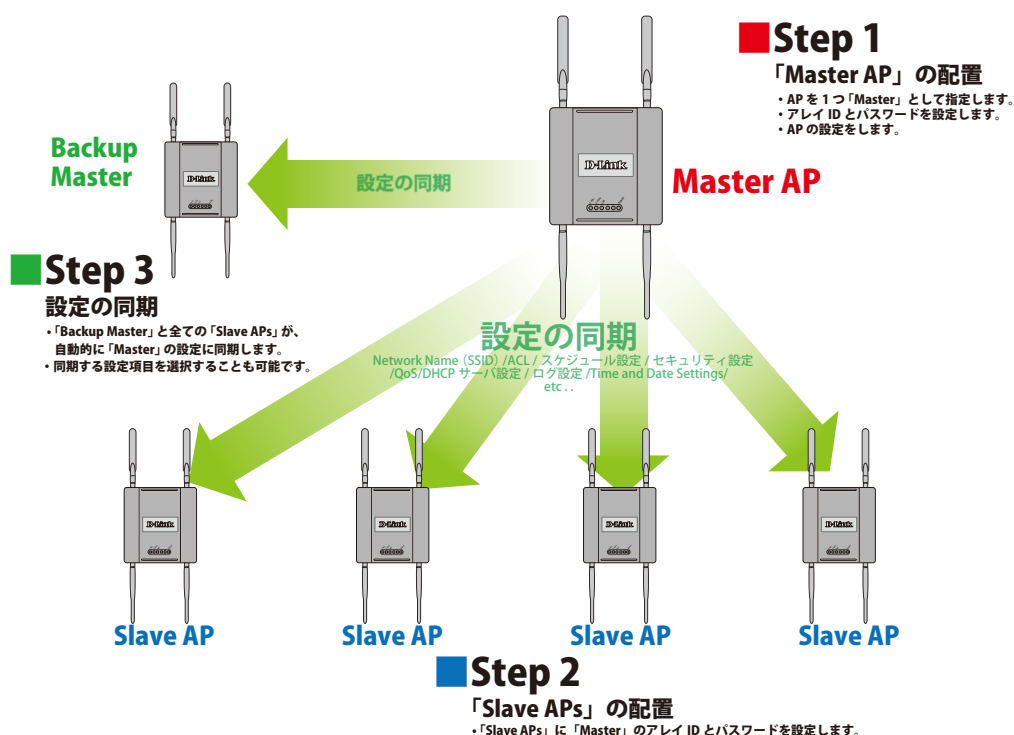
- AP を 1 つ「Master」として指定します。
- アレイ ID とパスワードを設定します。
- AP の設定をします。

ステップ 2 - 「Slave APs」の配置：

- 「Slave APs」に「Master」のアレイ ID とパスワードを設定します。

ステップ 3 - 設定の同期：

- 「Backup Master」と全ての「Slave APs」が自動的に「Master」の設定に同期します。



最大 8 個までのスタンドアロン AP をアレイ内に管理することが可能です。

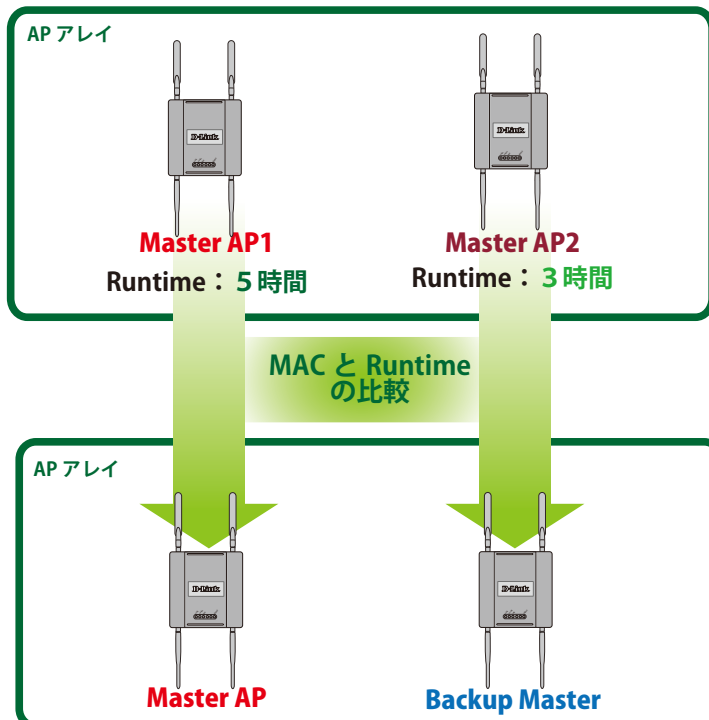
同アレイ内の AP は同じでモデルで同じサブネットを使用している必要があります。各 AP には、それぞれ固有の IP アドレスを設定します。

注意 AP Array 機能は、同一機種間、同一ファームウェアバージョン間のみサポートされます。

様々な構築状況への対応

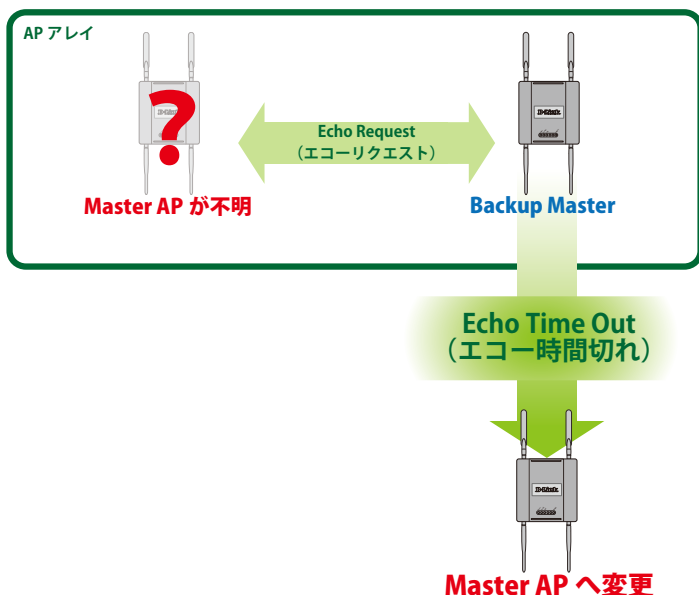
- 複数の「Master AP」：二つ以上の「Master AP」が同じアレイ内に存在する場合、Runtime（稼働時間）の一番長い AP が「Master AP」に設定されます。

注意：他の「Master AP」は「Backup Master AP」として設定されます。



- 「Slave AP」の自動設定：1 分間隔で「Master AP」は「Slave AP」のステータス確認のためのビーコンを送信します。手動で「Slave AP」の設定が変更された場合、「Master AP」は自動的に「Slave AP」の設定を上書きして同期します。

- 「Master AP」の停止：アレイ内で「Master AP」が不明になった場合、「Backup Master AP」が「Master」の役割を引き継ぎ「Slave AP」との設定の同期を開始します。



- 「Backup Master AP」の不在：「Master AP」が使用できなくなり、アレイ内に「Slave AP」しかない場合、「Slave AP」はスタンダードアロン AP として、新しい「Master」が設定されるまで稼働します。管理者は「Master AP」を二つアレイ内に設置したほうが安全のため、常に「Backup Master AP」は設定しておくことが有効です。

「Master AP」の設定を変更した場合は必ず“Save & Activate”を選択します。「Master AP」は自動的にアレイ内の「Slave AP」と設定を同期します。

信頼の無線 LAN 管理ツール

小規模オフィスに信頼のおける無線 LAN 管理ツールが必要な場合、D-Link AP アレイは簡単な管理設定を提供する最適な選択と言えます。IEEE801.11n 対応 AP にソフトウェアとして内蔵されたフリーのモジュールは、管理 PC への追加のソフトウェア導入の手間を省きます。

自動同期機能により「Master AP」のみでの設定で済み、アレイ内の「Slave AP」は自動的に「Master AP」の設定を同期します。AP 設定や管理が「Master AP」でのみ行われることにより、複数の無線デバイスからではなく単一の無線ネットワークとして AP の配置状況を確認することができます。

アレイ内の AP の役割

各 AP には 3 つのモードを設定することが可能です。各モードについて説明します。

• Master AP

「Master AP」はアレイ内の全ての AP の設定を行うことができます。各アレイには 1 つのみ設定できます。

• Backup Master AP

「Master AP」が停止してしまった場合、「Backup Master AP」が「Master AP」の機能を引き継ぎます。各アレイは最大 2 つまでの「Backup Master AP」を設定することが可能です。

• Slave AP

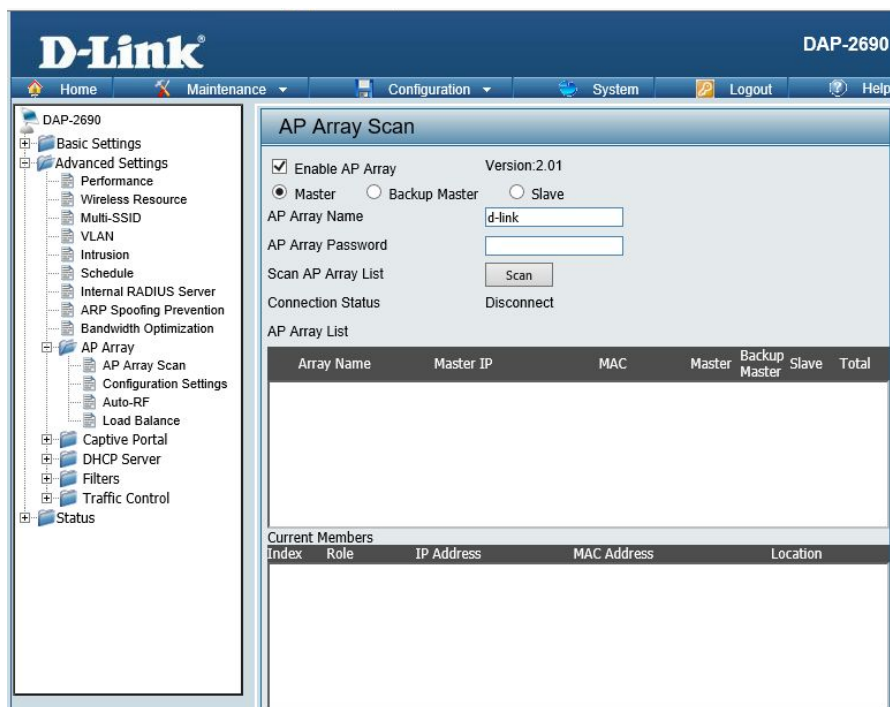
「Slave AP」は「Master AP」の設定に従います。

AP アレイの簡単設定

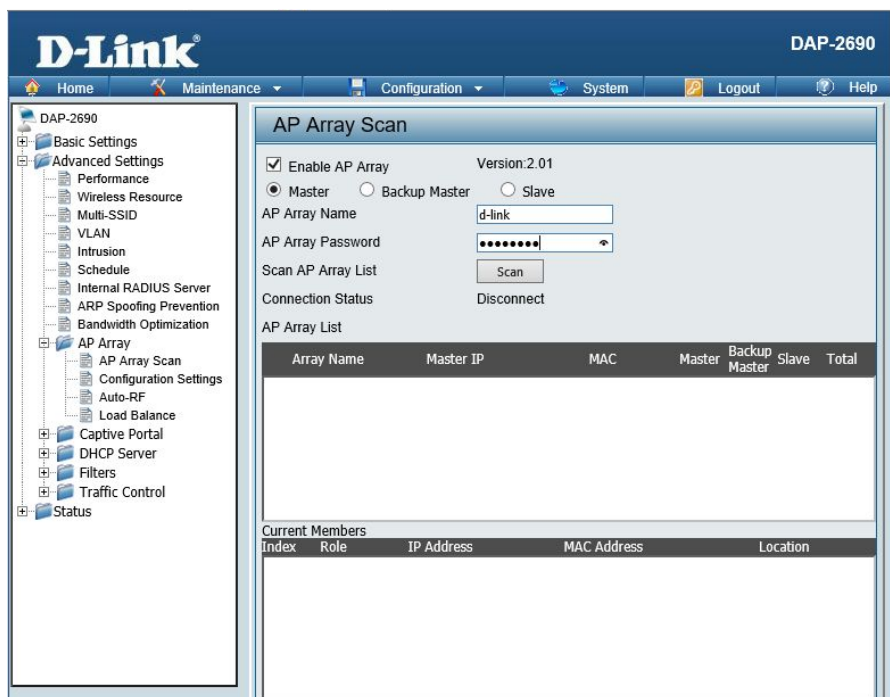
次のセクションで AP アレイ内の各 AP の設定方法を表示します。

■ 「Master AP」 設定

1. 「Advanced Settings」 > 「AP Array」 > 「AP Array Scan」 をクリックしてアレイ内の AP の情報を編集 / 表示します。
2. 「Enable AP Array」 をクリックして「Master」 を選択します。



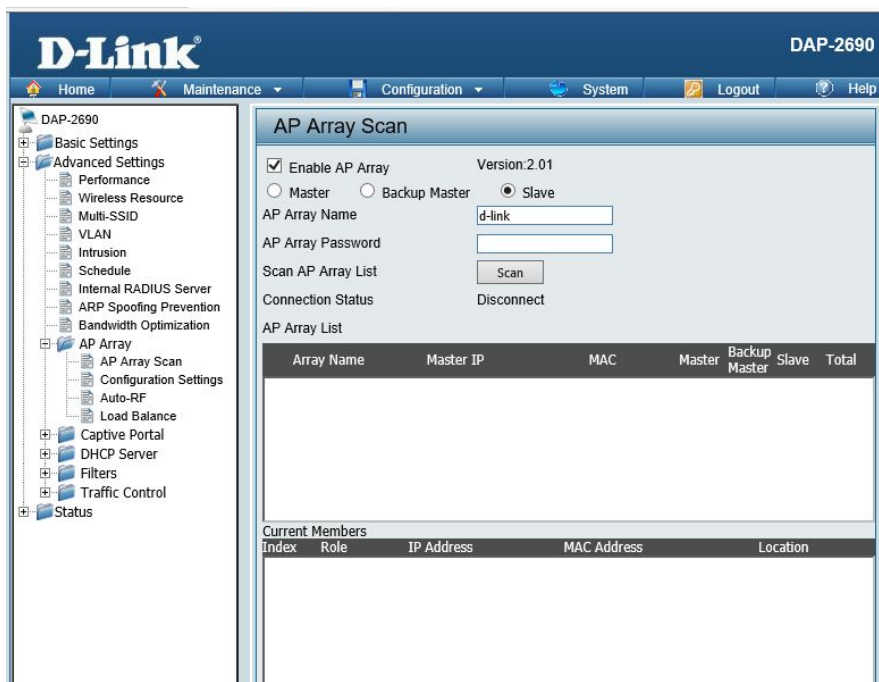
3. AP アレイ名とパスワードを入力します。「Save」 ボタンをクリックして設定を保存します。



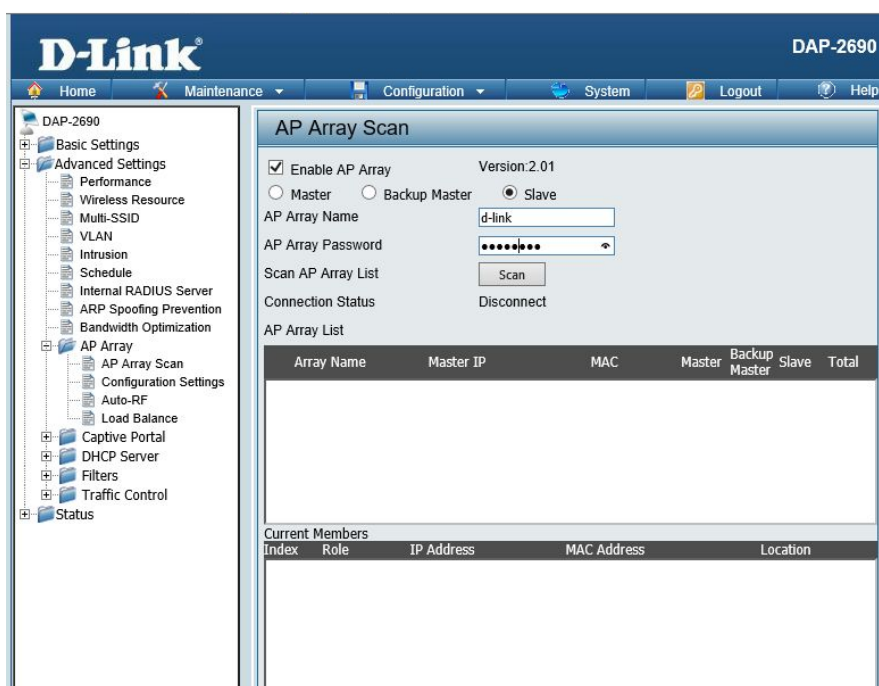
注意 設定を有効にするには、「Configuration」 > 「Save & Activate」 を選択します。
「Save & Activate」 を選択するまでは、AP は「Master」 に設定されません。

■ 「Slave AP」 設定

1. 「Advanced Settings」 > 「AP Array」 > 「AP Array Scan」 をクリックしてアレイ内の AP の情報を編集 / 表示します。
2. 「Enable AP Array」 をクリックして「Slave AP」 を選択します。



3. 「Scan」 ボタンをクリックして既存のアレイを検索します。
アレイのパスワードを入力してアレイに加わります。「Save」 ボタンをクリックして設定を保存します。



注意 設定を有効にするには、「Configuration」 > 「Save & Activate」 を選択します。
「Save & Activate」 を選択するまでは AP は「Slave」 に設定されません。

■ Synchronized Parameters について

「Advanced Settings」>「AP Array」>「Configuration Settings」では、同期させる設定項目を選択できます。タイトルにチェックを入れると選択肢が表示されるので、同期させる項目にチェックをいれます。「Clear all」をクリックすると、選択が解除されます。

AP Array Configuration			
Enable AP Array Configuration		Enable <input type="button" value="v"/>	
<input type="button" value="Clear all"/>			
Wireless Basic Settings <input checked="" type="checkbox"/>			
Network Name (SSID)	<input type="checkbox"/>	SSID Visibility	<input type="checkbox"/>
Auto Channel Selection	<input type="checkbox"/>	Channel Width	<input type="checkbox"/>
Security	<input type="checkbox"/>		
Wireless Advanced Settings <input checked="" type="checkbox"/>			
Wireless	<input type="checkbox"/>	Wireless Mode	<input type="checkbox"/>
Data Rate	<input type="checkbox"/>	Beacon Interval	<input type="checkbox"/>
DTIM Interval	<input type="checkbox"/>	Transmit Power	<input type="checkbox"/>
WMM (Wi-Fi Multimedia)	<input type="checkbox"/>	Ack Time Out	<input type="checkbox"/>
Short GI	<input type="checkbox"/>	Connection Limit	<input type="checkbox"/>
IGMP Snooping	<input type="checkbox"/>		
Multiple SSID & VLAN <input checked="" type="checkbox"/>			
SSID	<input type="checkbox"/>	SSID Visibility	<input type="checkbox"/>
Security	<input type="checkbox"/>	WMM	<input type="checkbox"/>
VLAN	<input type="checkbox"/>		
Advanced Functions <input checked="" type="checkbox"/>			
Schedule Settings	<input type="checkbox"/>	QoS Settings	<input type="checkbox"/>
Log Settings	<input type="checkbox"/>	Time and Date Settings	<input type="checkbox"/>
ARP Spoofing Prevention	<input type="checkbox"/>	Bandwidth Optimization	<input type="checkbox"/>
Captive Portal	<input type="checkbox"/>	Auto RF	<input type="checkbox"/>
Load Balance	<input type="checkbox"/>	DHCP server Settings	<input type="checkbox"/>
Link Integrity	<input type="checkbox"/>	Wireless ACL	<input type="checkbox"/>
Administration Settings <input checked="" type="checkbox"/>			
System Name Settings	<input type="checkbox"/>	SNMP Settings	<input type="checkbox"/>
Login Settings	<input type="checkbox"/>	Console Settings	<input type="checkbox"/>
Ping Control Setting	<input type="checkbox"/>		

図 8-3 AP Array Configuration 画面

同期されない設定については必要に応じて各 AP で設定します。

付録 E コンソールポートについて

コンソールポートの設定手順

DAP-2690 コンソールポートを使用すると、コマンドライン (CLI) から機器の管理、設定を行うことができます。

以下の手順でお使いの PC を設定します。

1. 同梱のシリアルコンソールケーブルを DAP-2690 のコンソールポートと設定、管理する PC のシリアルポートに接続します。
2. PC のハイパーターミナルを起動します。
 - 「スタート」をクリック
 - 「プログラム」を選択
 - 「アクセサリ」を選択
 - 「通信」を選択
 - 「ハイパーターミナル」をクリック

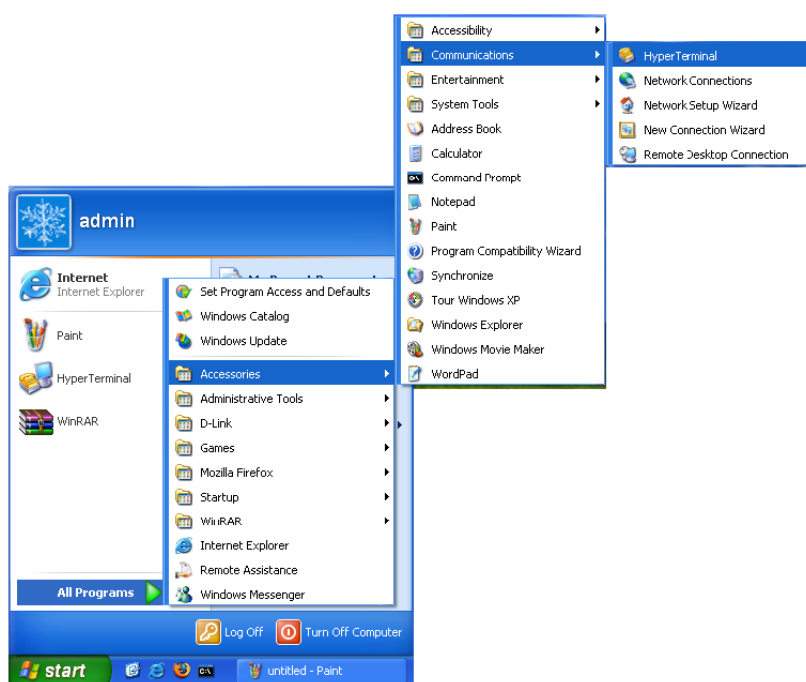


図 8-4 ハイパーターミナル起動

注意 : 「Windows Vista」「Windows 7」では、ハイパーターミナルが実装されていません。

3. 「新しい接続」の名前を入力します。

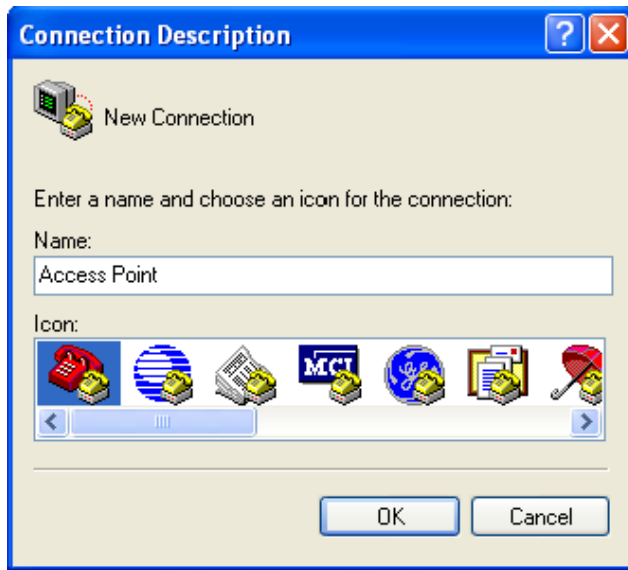


図 8-5 新規接続画面

4. 使用しているシリアルポート (COM) を選択します。

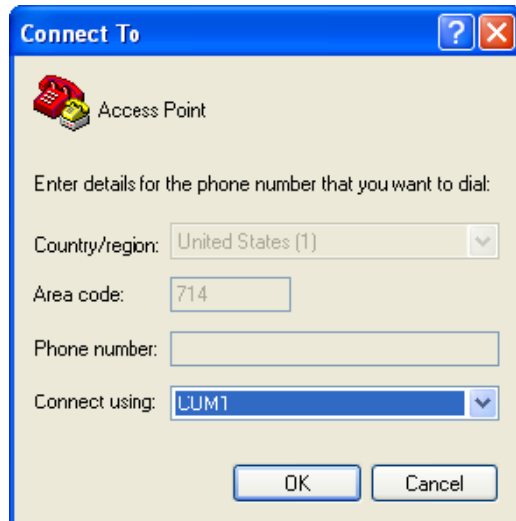


図 8-6 COM ポート選択

5. ポートの設定を行います。

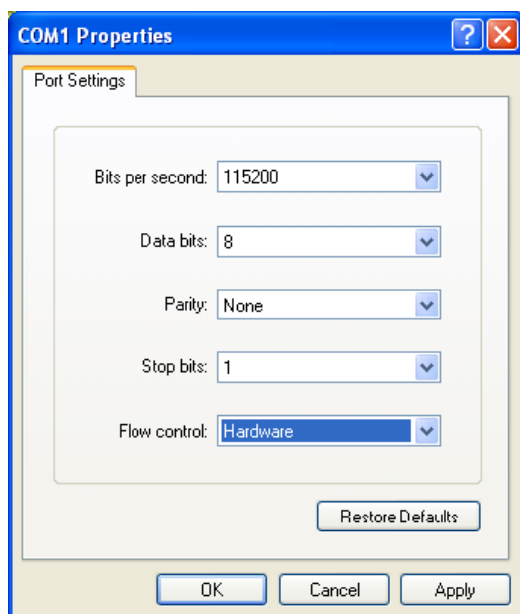


図 8-7 ポート設定

注意 : お使いのターミナルエミュレーションのビットレートは「115200」になります。

6. ログイン名とパスワードを設定します。

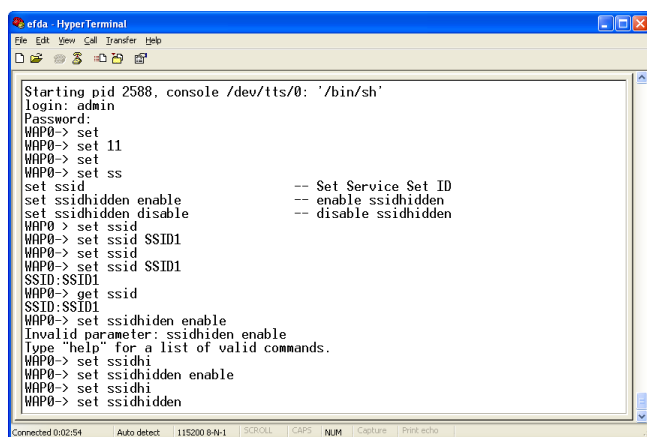


図 8-8 ログイン名 / パスワード入力

一度ログインするとコマンドラインプロンプトから設定コマンドを入力できます。

付録 F 機能設定例

本項では、一般によく使う機能についての設定例を記載します。実際に設定を行う際の参考にしてください。

- VLAN

対象機器について

本コンフィグレーションサンプルは以下の製品に対して有効な設定となります。

- DAP-2360/2660/2690/2695/3662

注意 当項目において UI 画面は機種に依らず、共通化して掲載しています。そのため、製品によっては、表示内容が異なる場合などがありますので、予めご了承ください。実際の設定については、お使いの状況に置き換えてお考えください。

VLAN

概要

2.4GHz 帯のすべての SSID に「VLAN10」、5GHz 帯のすべての SSID に「VLAN20」を「Tag」で設定し、「Management VLAN」に「VLAN1」を「Untag」で設定します。

設定手順

1. Advanced Settings > VLAN で「VLAN Settings」を表示、「VLAN Status」で「Enable」を選択し「Save」をクリック、次に④の「」をクリックします。

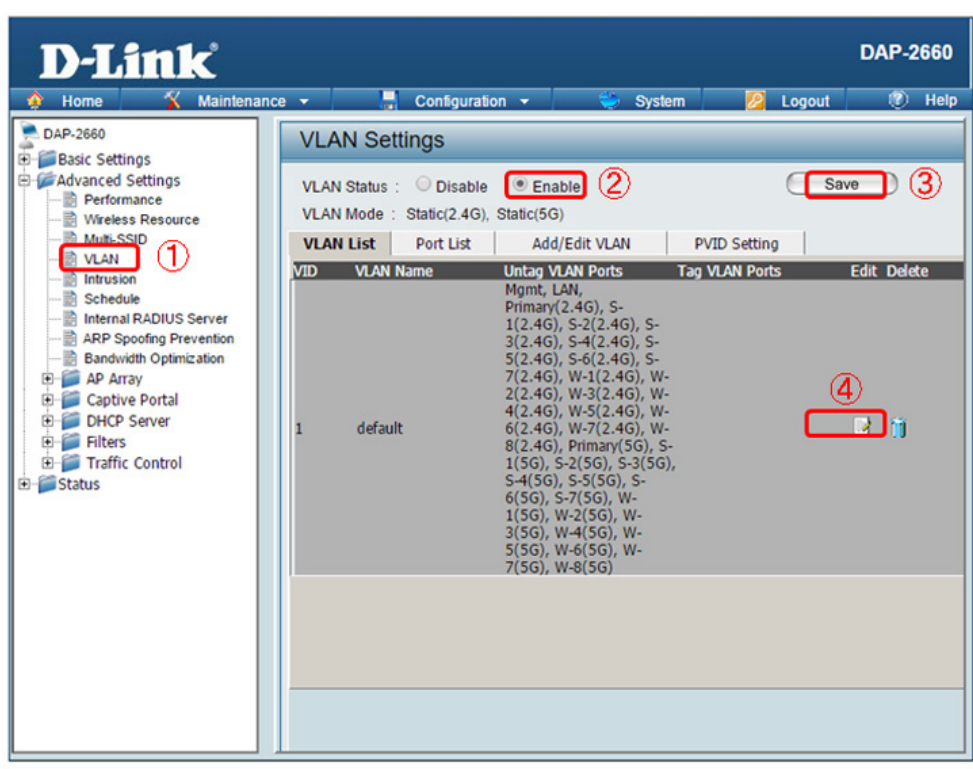


図 8-9 VLAN Settings の設定 (DAP-2660)

2. 「Add/Edit VLAN」で「VLAN1」（VID1）の全ポートで「Not Member」にチェックし、無線ネットワークから「VLAN1」を削除します。

「Save」をクリックします。

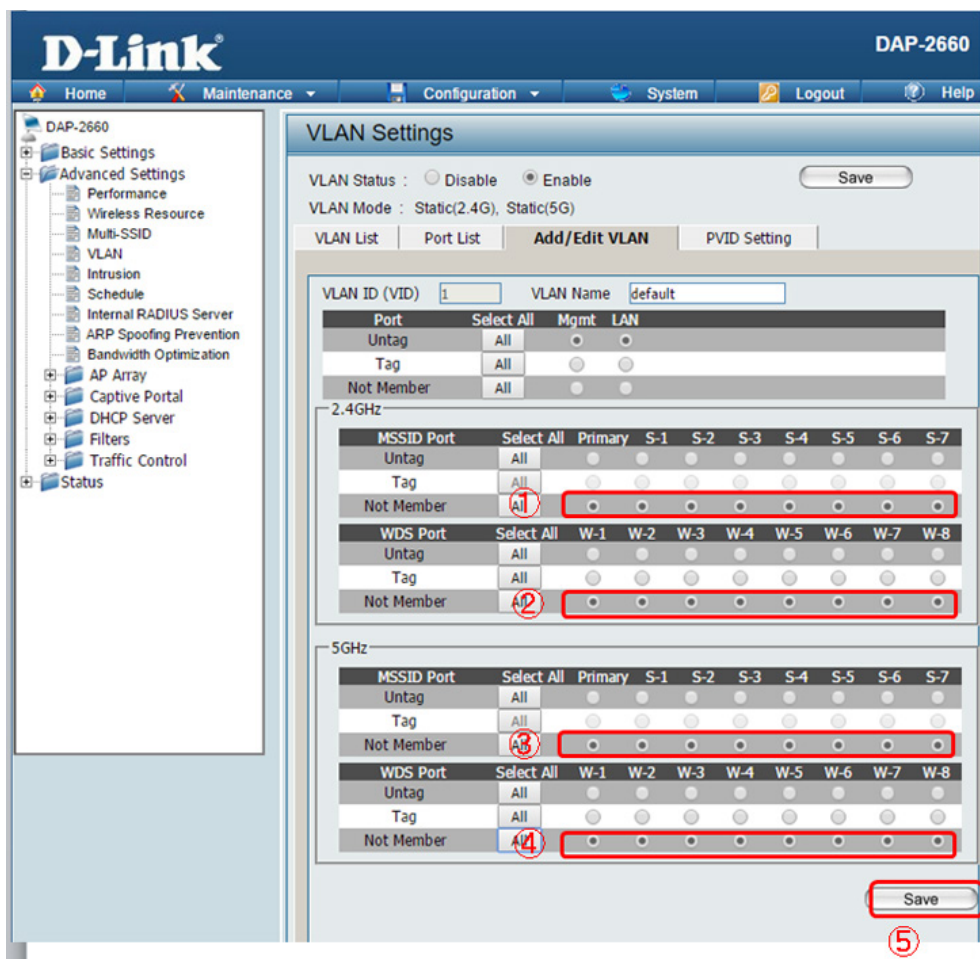


図 8-10 VLAN1 の削除 (DAP-2660)

3. 下図のように「2.4GHz帯」のすべてのSSIDに「VLAN10」を「Untag」で設定します。

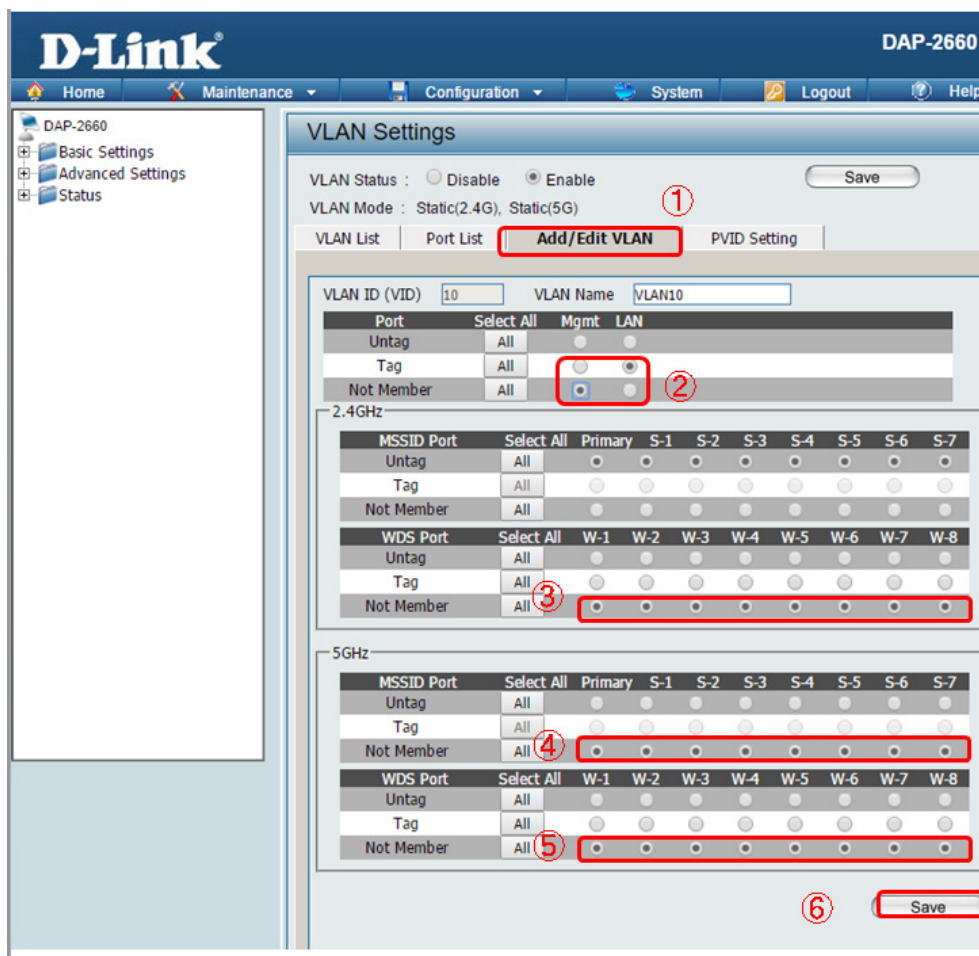


図 8-11 VLAN10 の設定 (2.4GHz 帯) (DAP-2660)

4. 下図のように「5GHz帯」のすべてのSSIDに「VLAN20」を「Untag」で設定します。

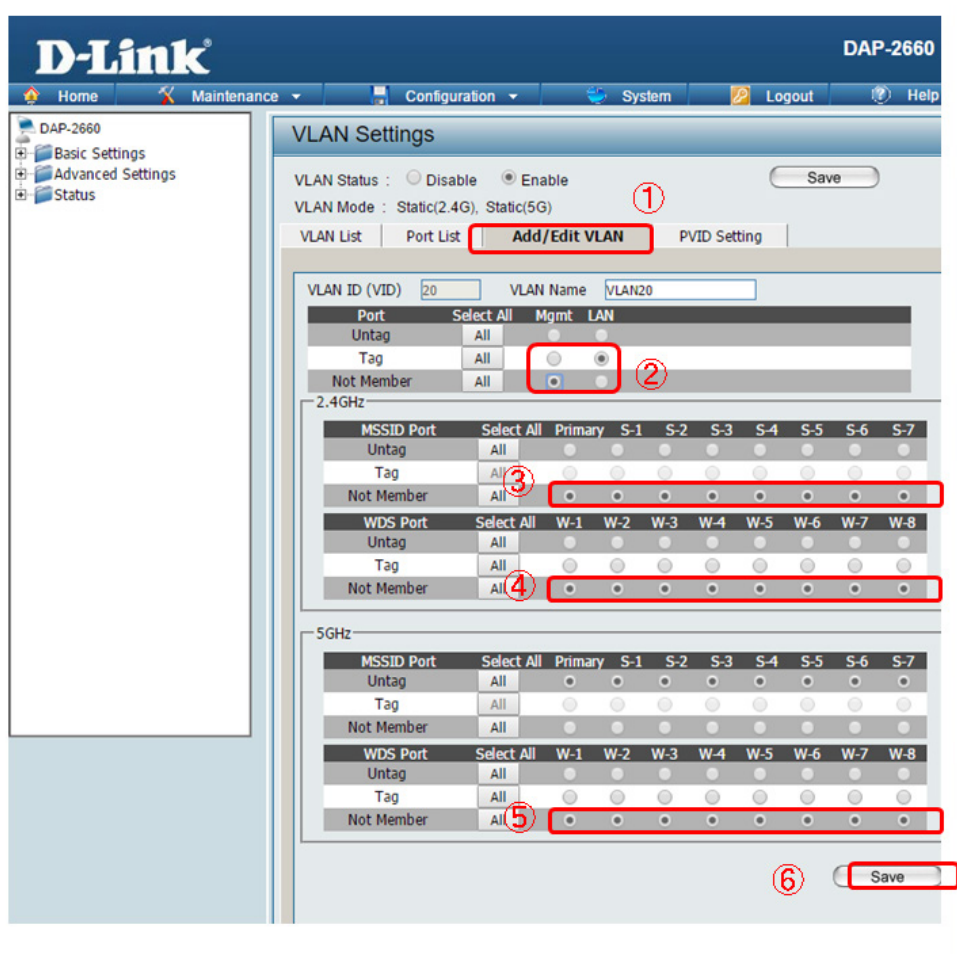


図 8-12 VLAN20 の設定 (5GHz 帯) (DAP-2660)

5. 各ポートの VID を設定します。

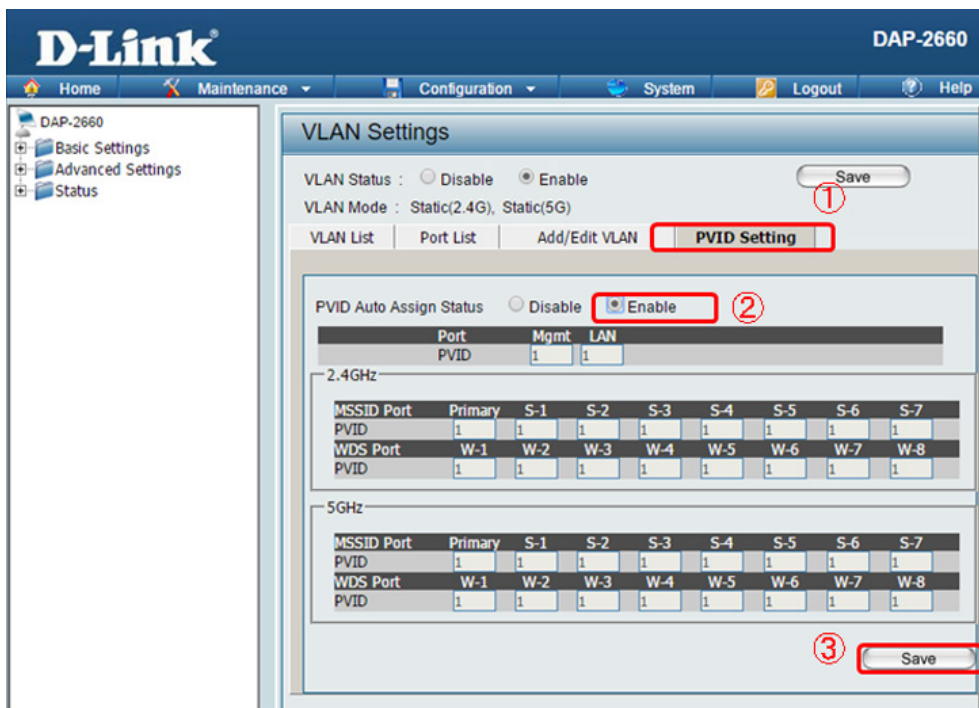


図 8-13 各 VID の設定 (DAP-2660)

6. 「VLAN Settings」の「VLAN List」が下図の状態になっている事を確認します。

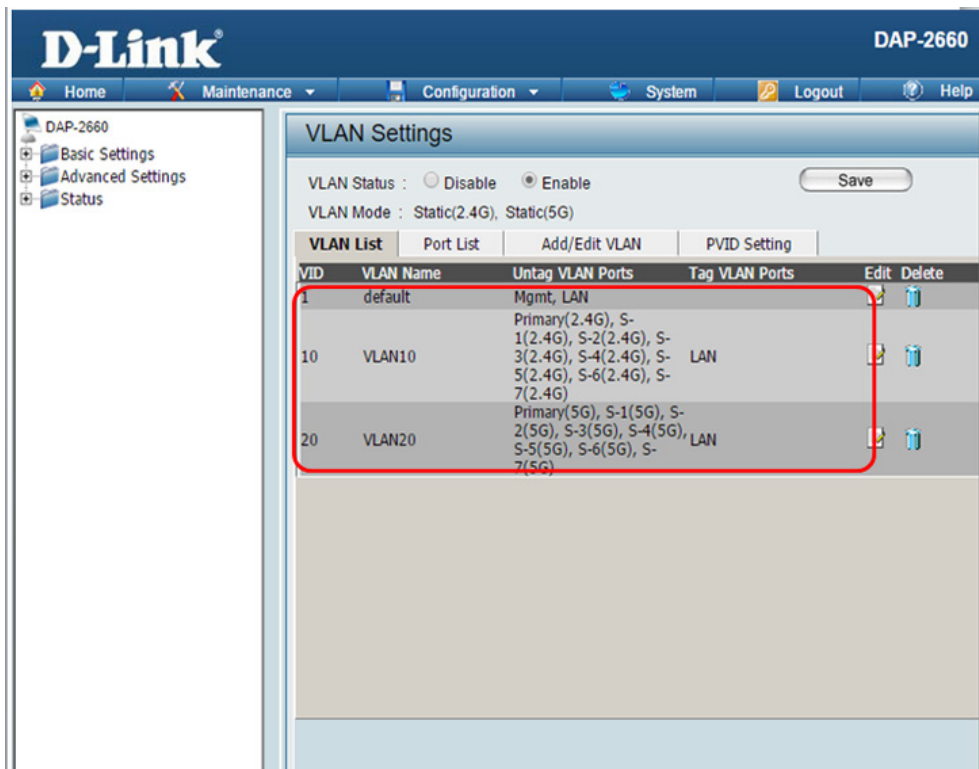


図 8-14 VLAN List の状態確認 (DAP-2660)

7. 「VLAN Settings」の「Port List」が下図の状態になっている事を確認します。

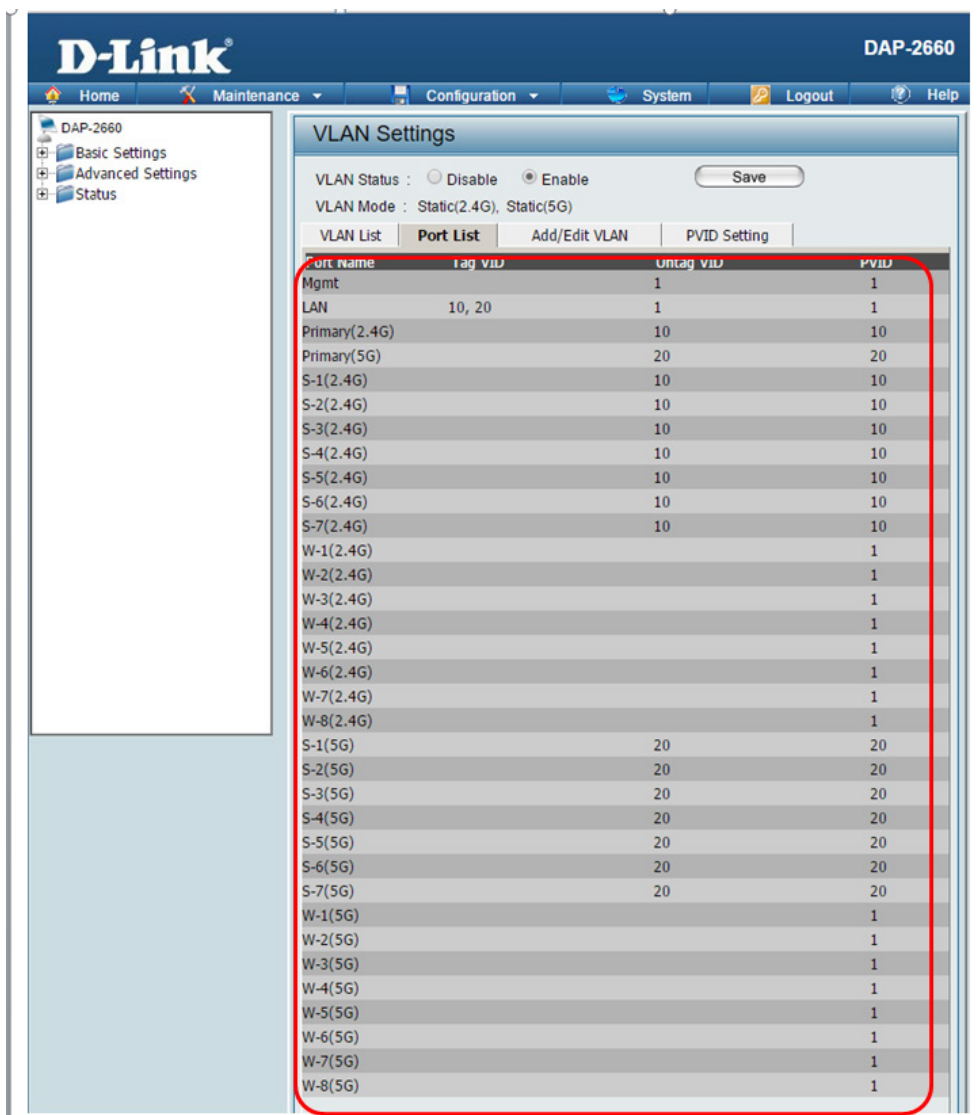


図 8-15 Port List の状態確認 (DAP-2660)

8. Configurationで「Save and Activate」をクリックし、設定事項を保存します。

下図のダイアログが表示され、しばらくの間設定の有効化を行いますので、その間電源を落とさずにお待ちください。



図 8-16 Save and Activate (設定の有効化) (DAP-2660)